



Elevation 10

取扱説明書



目次

1	発行者情報	7
2	一般情報	8
2.1	使用されるマーク	8
2.1.1	安全に関する注意事項の表示	8
2.1.2	使用される警告記号	8
2.1.3	使用される行うべき事項の記号	9
2.2	責任	9
2.3	保証請求	9
2.4	スペアパーツとカスタマーサービス	10
3	安全	11
3.1	適切な用途	11
3.2	予見可能な誤使用	11
3.3	使用会社の義務	12
3.4	スタッフ要件	12
3.5	残留リスク	13
3.5.1	感電注意	13
3.5.2	洗剤による危険	13
3.5.3	アレルギーによる危険	14
3.5.4	バクテリアによる危険	15
3.5.5	熱による危険	15
3.5.6	マシンの機構による危険	16
3.5.7	物的損傷の危険	17
4	テクニカルデータ	18
4.1	飲み物のタイプと供給量	18
4.2	マシンデータ	19
4.3	ビル側電源接続	19
4.4	水接続値	20
4.5	周囲条件	20
5	適合宣言書	21
5.1	製造者住所	21
5.2	法規適合性	21
6	製品の説明	22
6.1	マシン概要	22
6.2	機能ランプ	23
6.3	コーヒー豆ホッパー	24
6.4	熱湯注出口	24

6.5	内部水タンク	25
6.6	雫受け	25
6.7	カス受け	26
6.8	マシンの接続	26
6.9	工場出荷時の装備バリエーション	27
6.9.1	パウダーシステム	27
6.9.2	外付け水タンク	28
6.9.3	スチームワンド（外付けタンク付きのみ）	28
7	運搬	30
7.1	納入品目とアクセサリ	30
7.2	輸送条件	31
8	取付けと試運転	33
8.1	開梱	34
8.1.1	マシンの開封	34
8.1.2	アクセサリの開梱	34
8.2	設置	34
8.3	設置要件	35
8.4	電源の接続	36
8.5	給水部への接続	37
8.6	水道水の接続	38
8.7	ミルク・ノズルの調整	41
8.8	画面ガイドによる試運転	43
8.8.1	試運転プログラム	43
8.8.2	言語の設定	45
8.8.3	時間帯と日付の設定	45
8.8.4	水の硬度設定	46
8.8.5	水フィルターの設定	47
8.9	日付・時刻の設定	48
8.10	言語の設定	49
8.11	タイマー設定	50
8.12	エコモードの設定	52
8.13	パスコードの設定	53
8.14	スクリーンセーバーの設定、カップ色照明と前面カラー照明	55
8.15	音量的設定	56
8.16	ネットワーク設定の構成	58
8.17	出荷時設定	61
8.18	パスワード	62
9	操作	63
9.1	繰り返し行う追加作業	63
9.1.1	コントロールパネルの開閉	63

9.1.2	コーヒー豆ホッパー/パウダーホッパーの充填	64
9.1.3	雫受けを空にする	65
9.2	マシンの電源を入れる	66
9.3	飲料の注出	66
9.4	飲料注出をキャンセルする	67
9.5	オプションの飲み物変更	67
9.6	ミルクまたはミルクフォームの注出	68
9.7	熱湯の抽出	68
9.8	パウダーの校正	69
9.9	分配器の校正	73
9.10	マシンの電源をオフにする	76
10	クリーニング	78
10.1	洗浄間隔の概要	79
10.2	食器洗い機に適した機械部品	80
10.3	手動クリーニング	80
10.3.1	カス受けの洗浄	80
10.3.2	抽出ユニットを洗浄してください	81
10.3.3	水タンクの洗浄	83
10.3.4	雫受けの洗浄	84
10.3.5	外面の清掃	85
10.3.6	ミルクシステムの手洗い	85
10.3.7	ショック・ミキサーのクリーニング	90
10.3.8	コーヒー豆ホッパーとパウダーホッパーのクリーニング	91
10.4	洗浄プログラム	93
10.4.1	抽出システムのすすぎ	94
10.4.2	ミルクシステムのクリーニング	96
10.4.3	パウダー・システムのクリーニング	98
10.4.4	システムの完全洗浄	99
10.4.5	抽出システムのクリーニング	104
10.4.6	画面のクリーニング	106
11	メンテナンス	108
11.1	カルキ抜き	109
11.1.1	必要となるカルキ抜き資材	110
11.1.2	「カルキ抜き」画面	110
11.2	輸送の準備	112
11.3	抽出器ガasketの交換	114
11.4	外部浄水器の交換	115
11.5	ソフトウェア更新	117
12	詳細設定	120
12.1	7 インチディスプレイのUSBポート	120
12.2	10 インチディスプレイのUSBポート	120

12.3	プロフィールと承認	121
13	メッセージおよび注意事項	122
13.1	故障表示の種類	122
13.2	機能照明の意味	122
13.3	エラーメッセージおよび障害	122
14	マシンの物損防止	124
15	アンインストール	125
16	廃棄	126

1 発行者情報

取扱説明書発行人

WMF GmbH, WMF-Platz 1, 73312 ガイスリンゲン/シュタイゲ、ドイツ

コンセプト・編集

WMF GmbH, WMF-Platz 1, 73312 ガイスリンゲン/シュタイゲ、ドイツ

Copyright®

WMF GmbH, WMF-Platz 1, 73312 ガイスリンゲン/シュタイゲ、ドイツ

本書は著作権で保護されています。無断複写・転載を禁じます。メーカーの書面による事前の許可なくして、本書の内容を複写、配布、電子的に転送することや、多言語に翻訳することは禁じられています。これは本書の全部または一部に対して適用します。

本書の内容は、印刷時に利用可能な最新データによるものです。メーカーは、事前の予告なしにいつでも変更を行う権利を留保します。

本書中のすべての図、図解や表示メッセージは例です。幅広いオプションにより、お使いの機械が本書に示された機械と異なる可能性があります。

メーカーの責任は、原文に記載の内容に限定されるものとします。

2 一般情報

この技術文書には、本機の取り扱いに関する重要な注意事項が記載されています。技術文書は製品の一部であり、機械のすぐ近くに保管し、担当者が常にアクセスできるようにしておく必要があります。機械を操作する前に、技術文書をよくお読みください。

本説明書の図は、分かりやすく表示するために一部簡略化されています。簡略化された図は、実際の機械の寸法や仕様と若干異なる場合があります。

2.1 使用されるマーク

本章では、この文書に記載されている安全に関する注意事項の表示について説明します。

2.1.1 安全に関する注意事項の表示



⚠ 危険

死亡事故や重傷を負うおそれのある非常に危険な状況を示しています。

こうした危険を防止するために説明されている措置に必ず従ってください。



⚠ 警告

重傷を負う可能性がある一般的に危険な状況。

こうした危険を防止するために説明されている措置に必ず従ってください。



⚠ 注意

軽傷を負う可能性のある一般的に危険な状況。

こうした危険を防止するために説明されている措置に必ず従ってください。



📌 注記

物的損傷をもたらす可能性のある状況を示しています。

こうした危険を防止するために説明されている措置に必ず従ってください。

2.1.2 使用される警告記号

危険や指示に関するシンボルは、取扱説明書にもマシン本体にも使用されています。

アイコン 危険のタイプ



高温液体に対する警告

アイコン 危険のタイプ



高温表面に対する警告

アイコン 危険のタイプ	アイコン 危険のタイプ
 高温蒸気に対する警告	 危険な電圧に対する警告
 有害物質に対する警告	 手指の怪我に対する警告

2.1.3 使用される行うべき事項の記号

アイコン 意味	アイコン 意味
 文書をよくお読みください！	 保護手袋を着用してください！
 保護メガネを着用してください！	 手を洗ってください！
 電源プラグを抜いてください！	

2.2 責任

メーカーは、以下の原因による損害について一切の責任を負いません。

- 取扱説明書の不遵守
- 不適切な使用または誤用
- 資格のない担当者の雇用
- 無断改造
- 技術的な変更
- 許可されていないスペアパーツの使用

納品契約で合意された義務、一般取引条件、および契約締結時点で有効な法的規制が適用されます。

2.3 保証請求

技術文書に記載された仕様を遵守しなかった場合、保証請求が失効する場合があります。

免責事項：

- 自然な磨耗に曝される部品。これには、ミルクコンテナ、ミルクが通過する部品（ミルクシステムがある場合）、シール、ミキサー、抽出ユニット、ステンレス製の底面などが含まれます。
- 天候の影響、化学的、物理的、電気化学的または電氣的な影響に起因する欠陥。
- 現地の水の硬度によりカルキ除去システムの使用が必要であるにもかかわらず、カルキ除去システムを使用しなかったために生じた欠陥。
- マシン/装置の輸送、設置、試運転、操作、清掃、およびメンテナンスに関する規定（取扱説明書およびメンテナンス指示など）に従わなかったことにより生じた欠陥。

- メーカー以外のスペアパーツの使用、または使用会社もしくは第三者による不適切もしくは不注意な組み立てもしくは取り扱いに起因する欠陥。
- 使用会社または第三者が、メーカーの同意を得ずに不適切に行った変更または修理作業の結果。
- 不適切なまたは目的に沿わない使用に起因する故障。

2.4 スペアパーツとカスタマーサービス

スペアパーツとカスタマーサービスへの問い合わせに関する情報は、サポートポータルをご覧ください。このポータルは次のQRコードからアクセスできます。



図 1: セルフヘルプポータル

その他のサービスに関するお問い合わせや技術サポートについては、お住まいの国のサービスパートナーまでお問い合わせください。

wmf-coffeemachines.comに世界中のサービスパートナー全社の一覧が掲載されています。

3 安全

電気機器の使用における安全性は、最優先事項です。この章には、安全な使用を確保し、人身事故や物的損傷を防ぐために必要なすべての重要な情報が記載されています。

3.1 適切な用途

マシンは、様々な種類および組み合わせのコーヒードリンク、温水、ミルクドリンクおよびパウダードリンク（トッピング、チョコレート）を、コーヒークップ、マグカップまたはピッチャーに注出するための装置です。

豆ホッパーにはコーヒー豆のみ、パウダー容器にはパウダーのみ、ミルク容器にはミルクのみを入れてください。

このマシンは、ホテル業界、飲食業界、または同様の場所での商用利用を目的としています。責任者が本機を使用中現場にいる場合は、マシンをセルフサービス場所に設置することが許されます。

このマシンは、店舗、オフィス、または同様の作業環境、ホテル、モーター、ペンションで使用でき、専門家ではない方やお客様でも操作することが可能です。

ご使用にあたっては、付属の取扱説明書の記載内容に従ってください。このマシンを他の目的で、または指定以上の方法でご使用になった場合、不適切な使用が行われたものとみなされます。これが原因で発生した損害に関しては、メーカーは責任を負いかねます。

このマシンは、8歳以上のお子様や、身体的、感覚的または精神的能力が低下した人、または経験や知識が不足している人でも使用できますが、その場合、監督するか、またはマシンの安全な使用を指導し、その結果生じる危険を理解させる必要があります。お子様たちがマシンで遊ばないようにしてください。クリーニングとユーザーによるメンテナンスは、監督なしにお子様に行わせることはできません。クリーニングとユーザーメンテナンスは、特に安全および衛生に関して、知識と機器の実務経験を持つ人のみが行うことができます。

マシンの使用には、メーカーの**一般利用規約**も適用されます。このマシンを他の目的で、または指定以上の方法でご使用になった場合、不適切な使用が行われたものとみなされます。これが原因で発生した損害に関しては、メーカーは責任を負いかねます。

3.2 予見可能な誤使用

コーヒーマシンの目的以外のいかなる使い方やその他の使用は、誤用とみなされ、危険な状況につながる可能性があります。マシンを不適切に取り扱うと怪我するおそれがあります。

- ☞ 使用し始める前に、取扱説明書をよくお読みください。
- ☞ 有資格のサービス担当者だけにマシンと補助機器のサービスエリアへのアクセスを許可してください。
- ☞ クリーニングとユーザーメンテナンスは、特に安全および衛生に関して、知識とマシンの実務経験を持つ人のみが行うことができます。
- ☞ セルフサービスモードおよび操作を伴う使用時にはマシンを研修済みスタッフに監視させ、ユーザーの質問に応じ、クリーニング処置およびメンテナンス処置を必ず行うように確実にします。
- ☞ スチームワンドはミルクの泡立てのみにご使用ください。
- ☞ 十分に冷ましたミルクのみご使用ください。

- ☞ 豆ホッパーにはコーヒー豆しか入れないでください。
- ☞ パウダーホッパーにはマシン用パウダーしか入れないでください。
- ☞ ミルクコンテナには、ミルクまたはミルク代替品のみを入れてください。

3.3 使用会社の義務

マシンの使用会社は、安全装置の定期的なメンテナンスおよび点検を行う義務があるものとします。

安全バルブ、安全サーモスタット、ボイラーなどの安全関連部品は交換するものとし、修理することはできません。

使用会社はメンテナンス規定通りに行う責任があります。

3.4 スタッフ要件



警告

資格不足による怪我の危険！

専門的に正しく取り扱わないと重大な負傷や物損につながるおそれがあります。

どんな作業でも行う作業についての資格があるスタッフが行ってください。

ここにスタッフとは、仕事を信頼して任せておくことが期待できる人のみが認められます。薬物やアルコール、薬剤などによって反射動作に支障がある人が行うことはできません。

スタッフの選任においては勤務場所に適用される年齢および職業上固有の規則に従わなければなりません。

取扱説明書には作業分野別に以下の資格が規定されています：

指導を受けたスタッフ

使用会社から任される任務について指導を受け、適切に行動しない場合に可能な危険に関して説明を受けた人。

専門スタッフ

教育と知識ならびに経験および関連規則の知識に基づいて、担当する仕事を遂行でき、可能な危険を自律的に察知して回避する能力がある人。

サービス担当者

メーカーまたは使用会社から、サービス業務について特別な指導を受けた、有資格の専門スタッフ。

電気の専門家

教育と知識ならびに経験および関連規格および規則の知識に基づいて、電気設備での仕事を遂行でき、可能な危険を自律的に察知して回避する能力がある人。電気の専門家は担当している特殊な使用場所のために研修を受け、関連規格や規則を把握した人です。

3.5 残留リスク

メーカーの製品は最高の安全性を特徴としています。ただ、怪我や健康への被害を防ぐための以下の章が守られた場合のみ、安全装置の効果が現れます。



これらの安全に関する注意事項は、メーカーに請求するか、ウェブサイトまたはメディアプールから直接ダウンロードしていただくことも可能です。

3.5.1 感電注意



危険



感電による生命の危険！

電気機器を不適切に取り扱うと、感電のおそれがあります。生命への危険があります。

- ✎ 電気機器での作業は、必ず電気の専門家のみが行う必要があります。
- ✎ 装置を保護回路に接続してください。
- ✎ 残留電流回路ブレーカーを介して接続します。
- ✎ 該当の低電圧指針または国別ないし使用地の安全規定および諸規則にご注意ください。
- ✎ 規則に従って接地し、感電を防止してください。
- ✎ 装置の定格銘板にある諸元と一致する電源電圧であることを確認してください。
- ✎ 電圧の流れているパーツには絶対に触らないでください。
- ✎ メンテナンス作業の前にメインスイッチを切るか装置を系統電源から切断します。
- ✎ 装置のすべての極が系統電源から切断できることを確認してください。切断された接続は、機器の場所から常に見える必要があり、ロックによって切断を確保する必要があります。
- ✎ 接続ケーブルは有資格サービス担当者の方に交換を依頼してください。

3.5.2 洗剤による危険

洗剤を使用する前に洗剤パッケージの情報によく目を通してください。安全データシートが添付されていない場合、販売パートナー（洗剤のパッケージを参照）にこれを請求することができます。

**警告****洗剤による中毒の危険！**

洗剤を飲み込んだり、蒸気を吸い込んだりすると、中毒症状が発生するおそれがあります。



☞ メーカーによって承認された洗剤のみを使用してください。



☞ 洗剤使用前には、パッケージの情報および安全データシートに注意深く目を通してください。安全データシートがない場合は、販売パートナーに請求してください。



☞ 洗剤はお子様や関係者以外の人物の手の届かない場所に置いてください。



☞ 素手で洗剤に触れたり、口に入れないでください。

☞ 洗剤は決してその他の化学物質と混合しないでください。

☞ 洗剤およびカルキ抜きはそれぞれ指定の用途にのみ使用してください（ラベルを参照）。

☞ 洗剤使用中は飲食をしないでください。

☞ 洗剤使用中はしっかりと換気が行われていることに注意してください。

☞ 洗剤使用中は、保護手袋と保護メガネを着用してください。

☞ 洗剤使用後はすぐに丁寧に手を洗ってください。

緊急連絡先

洗剤メーカー（洗剤のラベルを参照）に、お住まいの国の毒物情報センターの緊急時の連絡先電話番号をお問い合わせください。

3.5.3 アレルギーによる危険**注意****添加物による健康被害！**

添加物またはその残りが飲料にあると、アレルギーを引き起こす可能性があります。

☞ セルフサービスでの使用の場合: 機械に貼られている表示ラベルに注意してください。表示ラベルには、アレルギーを引き起こす可能性のある添加物の使用に関する情報が記載されています。

☞ 操作時: 使用されている添加物がアレルギーを引き起こす可能性があることをスタッフに伝えてください。

3.5.4 バクテリアによる危険



注意

汚染された水によって引き起こされる健康上の問題!

水の不適切な取り扱いにより、健康に影響を及ぼすおそれがあります。

- ☞ 水が汚れやバクテリアに汚染されていないことを確認してください。
- ☞ マシンには、浸透水もしくはその他の刺激性の強い水を接続しないでください。
- ☞ 炭酸塩硬度が 4 ~ 6° dKH または 8 ~ 12° fKH であることを確認してください。
- ☞ 総硬度が炭酸塩硬度よりも高いことを確認してください。
- ☞ 塩素含有量が 1 L あたり 50 mg を超えないようにしてください。
- ☞ pH 値は 6.5 ~ 7 (pH 中性) の間でなければなりません。
- ☞ 飲料水タンク (内部/外部) 付きマシン：飲料水タンクには毎日新鮮な水を補充し、補充する前に飲料水タンクを完全に洗い流してください。



注意

汚染されたコーヒーによって引き起こされる健康上の問題!

コーヒーの不適切な取り扱いにより、健康に影響を及ぼすおそれがあります。

- ☞ 開封前に、パッケージに損傷がないか確認してください。
- ☞ 1 日に必要な量以上のコーヒー豆を補充しないでください。
- ☞ 投入後は、すぐにコーヒー豆ホッパーのカバーを閉めてください。
- ☞ コーヒーは乾燥した低温で暗い場所に保管してください。
- ☞ コーヒーは洗剤とは分けて保管してください。
- ☞ 古い商品からまず消費します (「先入れ先出し」)。
- ☞ 賞味期限が切れる前に、コーヒーを使い切ってください。
- ☞ 開封したパッケージは常にしっかりと閉め、ミルクが新鮮に保たれ、汚れが混入しないようにしてください。

3.5.5 熱による危険



注意

高温の液体による火傷の危険!

飲料、熱湯およびスチームが出る箇所では火傷のおそれがあります。

- ☞ これらが出ている間、またはクリーニング中は商品の注出場所に手を触れないでください。
- ☞ クリーニング前には、誤操作を防ぐため、必ず操作ユニットをロックしてください。

**⚠ 注意****高温の表面に注意！**

注出場所および抽出ユニットは高温になる場合があります。

- ☞ マシンの高温パーツには絶対に触れないでください。
- ☞ 飲料注出口は、指定された箇所のみに触れてください。
- ☞ 抽出ユニットは、マシンが冷えた状態で取り外してください。

3.5.6 マシンの機構による危険

**⚠ 注意****可動コンポーネントによる挟み込みの危険！**

飲み物注出口と操作ユニットは手動で動かすことができます。運転中、グラインダーと抽出ユニットが動きます。すべての可動コンポーネントを取り扱う際には挟み込みの危険があります。

- ☞ 飲料注出口は、指定されたハンドル部分のみに触れてください。
- ☞ 操作ユニットは、必ず両手で上下にスライドさせてください。
- ☞ マシンのスイッチが入っている状態では、豆ホッパーや抽出ユニットの開口部に決して手を入れないでください。

**⚠ 注意****髪の毛の巻き込みによる怪我の危険**

特に長い髪はグラインダーヘッドに巻き込まれ、マシンに引き込まれるおそれがあります。

- ☞ グラインダーヘッドを開ける際は、必ずヘアネットを着用してください。

3.5.7 物的損傷の危険



注記

マシンの不適切な取り扱いによる物的損傷！

マシンを不適切に取り扱うことで、物的損傷や汚れにつながるおそれがあります。

- ☞ 炭酸塩硬度が 6° dKH を超える水を使用する場合は、カルキ除去システムを取り付けてください。これを怠ると、カルキによって損傷するおそれがあります。
- ☞ 長時間にわたって使用を停止した後（休業期間など）には、再びマシンを使用する前にクリーニングを行ってください。
- ☞ マシンを天候の影響（霜、湿気など）から保護してください。
- ☞ 障害が発生した場合は取扱説明書のトラブルシューティングを参照して、必要なら有資格サービス技術者にご依頼ください。
- ☞ 純正交換パーツのみを使用してください。
- ☞ 目に見える損傷や漏れは直ちにサービスパートナーに報告し、該当の部品の交換もしくは修理を依頼してください。
- ☞ マシンに水をかけたり、スチームクリーナーで洗浄したりしないでください。
- ☞ マシンをホースによる散水にさらされるおそれのある場所に置かないでください。
- ☞ キャラメル化したコーヒーは使用しないでください。
- ☞ ホッパーには、適した製品のみを充填してください。
- ☞ フリーズドライのコーヒーは絶対に使用しないでください。これを怠ると、抽出ユニットが動かなくなります。
- ☞ マシンおよび/もしくは補助機器が 10° C 未満で輸送される場合、マシンおよび/もしくは補助機器を電源に接続してスイッチを入れる前に、マシンおよび/もしくは補助機器を 3 時間室内温度に置いてください。これを怠ると、凝縮水によるショートや電気コンポーネントの損傷を招くおそれがあります。
- ☞ 必ず、マシンに付属の新しいホースセット（飲料水/排水ホース）を使用してください。古いホースセットは絶対に使用しないでください。

4 テクニカルデータ

本章では、技術仕様に関する詳細情報と、供給量や電源仕様などの主な特徴の概要について説明します。

4.1 飲み物のタイプと供給量



飲み物の連続的抽出制限：45 分
(飲み物の抽出を中断する場合は適用外)

マシンの仕様とオプションにより、以下の飲料を準備することができます：

一時間毎の最大飲料供給量		
エスプレッソ 40 ml	約 85 杯	
コーヒー 120 ml	約 60 杯	

利用可能な飲料	標準	オプション
エスプレッソ	x	
コーヒー	x	
コーヒー/カフェクリーム	x	
アメリカーノ ^{AC, AW}	x	
ラテ (ミルクコーヒー/ダーク) [*]		x
カップチーノ [*]		x
ラテ マキアート [*]		x
エスプレッソ マキアート [*]		x
カフェ モカ ^{***}		x
パウダー飲料/インスタントドリンク ^{***}		x
エスプレッソ		x
ホットミルク [*]		x
熱いミルク フォーム [*]		x
熱湯		x

推奨されるマシン設備:

* 新鮮なミルクで

** 新鮮なミルクまたはトッピング (ミルクパウダー) 付き

*** チョコ付き

AC アクセラレータ

ZW 補助ウォーター

4.2 マシンデータ

圧力	スチームボイラー	熱湯ボイラー
定格圧力	0.5 MPa (725 psi)	1.6 MPa (232 psi)

容量	
水タンク容量	約 2 ℓ / 6 ℓ
コーヒー豆ホッパーの容量	約 650 g
パウダーホッパー容量	約 450 g
カス受けの容量	約 20 杯分のコーヒーカス

照明
LEDクラス1

保護形式
IP X0

外形寸法	
マシンの幅	300 mm
ディスプレイ／スタンダードコーヒー 豆ホッパーを含む高さ	430 mm
スタンダードコーヒー豆ホッパーを含 む高さ	500 mm
奥行	560 mm

重量	
空重量	24～28 kg（機種により異なる）

音圧	
連続音圧レベル	< 70 dB(A)*

* A 特性音圧レベル（遅い動特性）および Lpa（パルス）はいかなる操作モードにおいてもオペレーターの作業場所にて 70 dB (A) を超えないものとします。

4.3 ビル側電源接続

このマシンは、50 Hzの電源でも60 Hzの電源でも使用可能です。

電源仕様

電源	1L、N、PE
電源電圧	220 V～240 V
電源周波数	50/60 Hz
出力	1900 W～2250 W
建物のヒューズ保護	10 A～15 A*
接続ケーブルの断面積	3 x 1 mm ²

ハウスヒューズは32 Aを超えないでください。

4.4 水接続値

マシンは標準で水タンクが装備されて納入されます。但し、オプションで給排水管を取り付けることもできます。この場合の接続諸元は以下の通りです：

圧力及び温度

水圧	0.2 MPa (29.01 psi)以上 0.6 MPa (87.02 psi)以下
入口の水温	35 ° C (95 ° F)以下

水質

最大塩素濃度	使用地で認められている最大塩素濃度関連の規則にご注意ください。
炭酸塩硬度（ドイツ）	4 ° dKH以上 5° dKH以下（炭酸塩硬度が高い場合は、水フィルターを手前に取り付ける必要があります。）
総硬度	> 炭酸塩硬度

4.5 周囲条件

使用場所に対しては、以下の気候条件が適用されます。

立地条件

周辺温度	+5 ° C (41 ° F)以上 +35 ° C (95 ° F)以下
相対湿度	相対湿度80 %以下
海拔標高	最大標高2000 m (6562 ft)未満

本マシンおよび機器は、屋内での使用のみを対象として設計されています。本マシンおよび機器は、屋外で使用したり、雨屋外で使用したり、天候の影響（雨、雪、霜）にさらしたりしないでください。

5 適合宣言書

本章には、電気機器が適用される規格、指令、および規制に適合しているかどうかに関する情報が記載されています。

5.1 製造者住所

製造者

WMF GmbH

WMF-Platz 1

73312 ガイスリンゲン/シュタイゲ

ドイツ

+49 7331 257 257

wmf-coffeemachines.com

5.2 法規適合性

このマシンまたは機器は、その時点の最新版である食品・消費財・動物飼料法（LFGB）、消費財条例（BedGgstV）、EU指令10/2011、またEU指令1935/2004の条件を満たしています。

使用されている材料および原料は、消費財条例並びにEU指令10/2011に適合しています。

EU以外の国ではその時点で有効な国内の規則が適用されます。

用途にあって使用される場合は、マシンまたは機器が健康被害またはその他の是認できない危険をもたらすことはありません。

EC指令1935/2004とEC指令2023/2006に関する適正製造基準による製造に準拠して、当社はトレーサビリティを確保しそして保証します。

適用規格

根拠である適用規格はマシンに同根されている適合宣言書をご参照ください。

6 製品の説明

本章では、主なコンポーネント、特徴、機能、および装備バリエーションについて概要を説明します。製品を最適かつ安全に操作するには、その機能について理解しておくことが前提条件です。

6.1 マシン概要

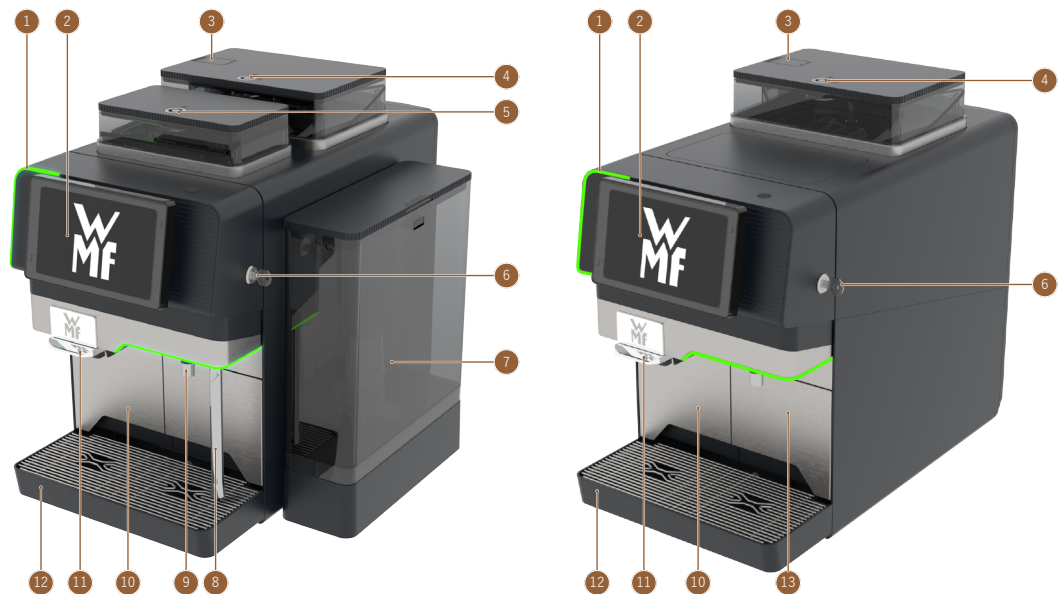


図 2: 外付け/組込みタンク機種のマシン概要

1 機能付きアンビエントライト

2 飲み物の選択と設定用タッチディスプレイ

3 タブレット投入口

4 ロック可能なコーヒー豆ホッパー

5 ロック可能なパウダーケース

6 ロック可能な前面パネル

7 外付け水タンク

8 スチームワンド

9 熱湯注出口

10 引き出し式カス受け

11 飲み物注出口

12 取外し可能な雫受け（雫受けグリッド付き）

13 内部水タンク

ディスプレイ概要

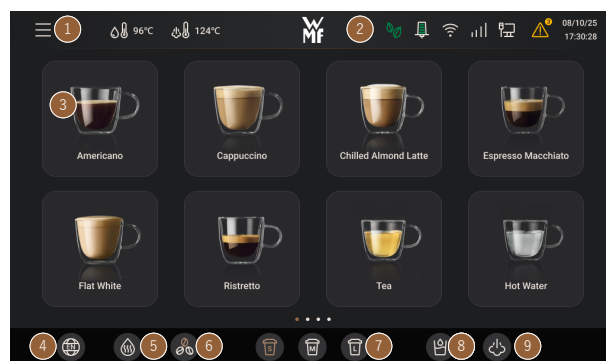


図 3: ディスプレイ概要

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| 1 メニューボタン（メインメニューを開きます）。 | 2 メッセージ用マークとボタン |
| 3 飲み物ボタン | 4 言語選択ボタン |
| 5 加熱すぎボタン | 6 コーヒー濃度ボタン |
| 7 カップサイズ選択ボタン | 8 熱湯 |
| 9 スチーム注出ボタン（機種により異なる） | |

6.2 機能ランプ

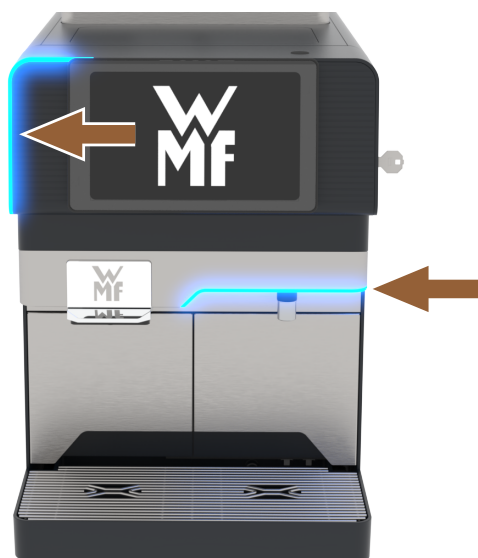


図 4: 機能ランプ

機能付き照明は、マシンの動作状態を知らせます。

機能照明の色は調整可能です。

色	意味
カスタムカラー	マシンは操作可能な状態です。
赤く点滅	マシンの不具合（グラインダーの詰まり、給排水部の詰まり）が発生しています。

照明の色は個別に調整可能です。

6.3 コーヒー豆ホッパー



図 5: コーヒー豆ホッパー

コーヒー豆ホッパーはマシン上部にあります。

コーヒー豆ホッパーはマルチツールを使って上から開けます。

コーヒー豆ホッパーの蓋は上からマシンから取り外します。

6.4 熱湯注出口

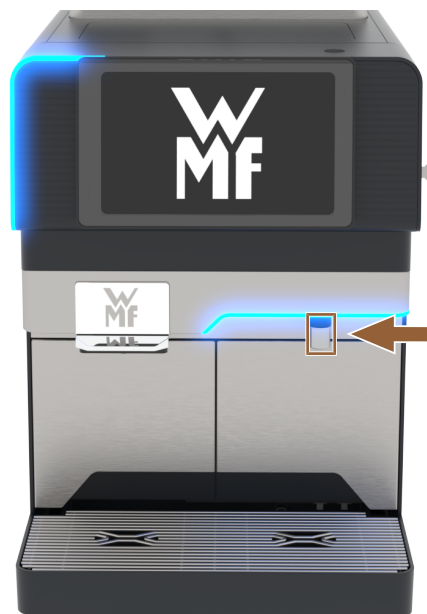


図 6: 熱湯注出口

マシンには、標準で独立した熱湯注出口が装備されています。

熱湯抽出口は飲み物抽出口の右側に取り付けられています。

6.5 内部水タンク



図 7: 内部水タンク

内部水タンクからコーヒーマシンに飲料水が供給されます。

水フィルターはアクセサリパッケージに含まれ、水タンクに挿入することができます。

6.6 雫受け



図 8: 雫受け

雫受けは、こぼれた飲料、雫、および洗浄水を回収します。雫受けには、雫受けを空にする必要があることを通知するセンサーが装備されています。また、雫受けセンサーは、雫受けが取り付けられているかどうかを検知します。

雫受けセンサーは、雫受けの右下にあります。

雫受けには以下のバリエーションがあります。

- 廃水出口用開口部なし
- 廃水出口用開口部付き（後付け可能な装備バリエーション）

廃水出口用開口部付き：設置の際に、雫受けを廃水ホースに接続する必要があります。この廃水ホースは、外付け廃水タンク、または廃水管に直接接続されます。

6.7 カス受け

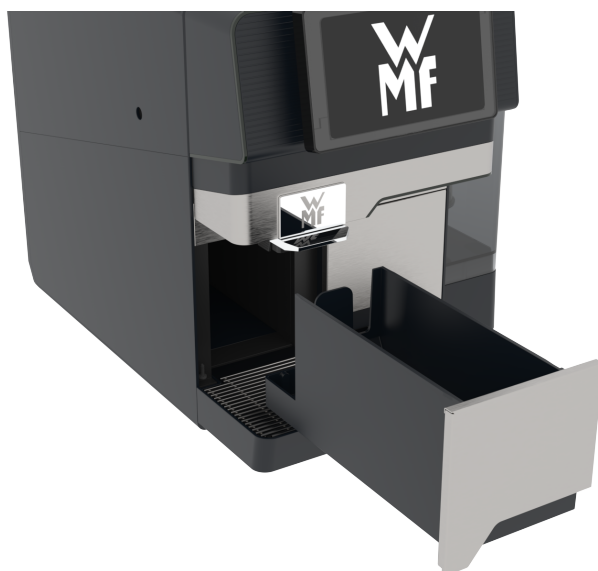


図 9: カス受けが開いている

カス受けにはコーヒーかすが回収されます。

カス受けは、マシンの前側から取り出し、空にできます。

6.8 マシンの接続

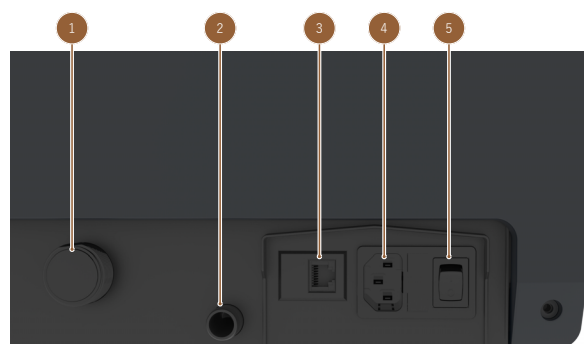


図 10: マシンの接続

1 給水の接続

2 排水注出

3 ネットワーク接続

4 電源接続部

5 オン/オフスイッチ

- **飲料水の接続(1)**により、マシンに飲料水が供給されます。これは、給排水管接続または外部水タンク（機械の構成に応じて）を介して行うことができます。マシンには、真水接続部を必要としない水タンクが標準装備されています。
- **廃水出口(2)**にホースを取り付けることができ、汚れた水をマシンから排出することができます。
- **ネットワーク接続部 (3)**はマシンの背面にあり、これで通信します。
- **電源接続部(4)**はマシンの背面にあり、マシンに電力を供給します。
- **オン/オフのスイッチ(5)**はマシンの背面にあります。電源を入れるにはオン/オフスイッチを短く押します。もう一度オン/オフスイッチを短く押すと電源が切れます。

6.9 工場出荷時の装備バリエーション

以下の装備バリエーションは、工場出荷時にご利用いただけます。後付けはできません。

6.9.1 パウダーシステム



図 11: パウダーシステム

コーヒーパウダーコンテナはマシン上部、コーヒー豆ホッパーの前側にあります。
コーヒーパウダーコンテナはロック可能です。

6.9.2 外付け水タンク



図 12: 外付け水タンク

外付け水タンクからコーヒーマシンに飲料水が供給されます。

水フィルターはアクセサリパッケージに含まれており、水タンクに挿入可能です。

液面は透明なプラスチック製筐体を通して容易に確認できます。

6.9.3 スチームワンド（外付けタンク付きのみ）



図 13: スチームワンド（外付けタンク付きのみ）

スチームワンドは、飲料注出口の右側に取り付けられています。

スチームワンドにより、バリスタスタイルの手動によるミルク加熱およびミルクフォーミングを個別に行うことができます。

手動スチーム



スチームの注出は、手動で開始および停止します。

7 運搬

本章では、引っ越しやサービス作業など、安全かつ適切な運搬に関する情報を記載しています。

7.1 納入品目とアクセサリ

数量	品番	名称	製品バリエーション
1個	33.7330.0450	給水ホース	すべて
1個	33.7330.0540	排水ホース	すべて
1個	33.7310.0150	バルブ	すべて
1個	33.7320.0760	バネ	すべて
1個	33.7330.0370	Oリング	すべて
1個	33.2397.7000	マルチツール	すべて
1個	33.7320.0470	キー	すべて
1個	33.2558.0200	電源コード	中国
1個	33.2399.9300	電源コード	■ ヨーロッパ ■ 韓国 ■ ベトナム
1個	33.4203.8100	電源コード	■ イギリス ■ 中東アフリカ ■ マレーシア ■ シンガポール
1個	33.2433.4200	電源コード	オーストラリア
1個	33.4135.6100	電源コード	日本
1個	33.2402.5200	電源コード	米国
1個	33.2332.5000	フィルター・カートリッジ	2ℓ水タンク
1個	33.2332.6000	フィルター・カートリッジ	6ℓ水タンク
1個	33.2327.1000	付加フィルター	すべて
1個	33.4073.5000	ミルクホースセット：クリック・アンド・クリーン・アダプター	エセンシャルフォーム
1個	33.7330.0690	ミルクホースセット：4*8*750 ミルクホース	エセンシャルフォーム
1個	33.7360.0100	抽出器ブラシ	すべて
1個	33.2914.9000	ミルクランス	エセンシャルフォーム
1個	33.1580.8100	ミルクホースブラシ	エセンシャルフォーム
1個	33.2408.0100	ミルク泡だて器ブラシ	エセンシャルフォーム
1個		取扱説明書	すべて
1個	33.4102.4100	クリーニング・スティック 1x10 ブリスタパックとスポンジ	すべて

数量	品番	名称	製品バリエーション
1個	33.2315.6000	水の硬度検査キット	すべて

その他の情報 個々の品番について：マシンのスペアパーツカタログを参照

7.2 輸送条件



警告

資格不足による怪我の危険！

専門的に正しく取り扱わないと重大な負傷や物損につながるおそれがあります。

以下の作業は、有資格の専門スタッフのみが行ってください。



警告

重機によって引き起こされる健康上の問題！

マシンの重量は、1人で持ち上げたり運んだりできる許容荷重を超えています。1人で機械を持ち上げたり運んだりすると、健康上の問題を引き起こす可能性があります。

☞ マシンを1人で持ち上げたり運んだりしないでください。

☞ マシンは、必ず2人で持ち上げたり運んだりしてください。



注意

輸送時のけがの危険！

不適切に輸送することで、負傷するおそれがあります。

☞ 地域の規制に従って、健康および安全に関する一般的規定に注意してください。



注意

転倒したマシンによって引き起こされる健康上の問題！

マシンを不適切に持ち上げると、転倒するおそれがあります。転倒または落下したマシンは、怪我の原因となる可能性があります。

☞ マシンを1人で持ち上げないでください。

☞ マシンは、必ず2人で持ち上げてください。



注記

不適切な輸送による物的損傷！

マシンの設置場所を変更する際に不適切な輸送を行うと、マシンが損傷する可能性があります。

☞ マシンは台車を使用して輸送してください。

☞ マシンを台車に固定し、台車を引っ張って移動してください。

- ☞ 設置場所を変更する前に、給水、電源、廃水出口の接続を外してください。
- ☞ 新しい設置場所に障害物や凹凸がないことを確認してください。

8 取付けと試運転



警告

資格不足による怪我の危険！

専門的に正しく取り扱わないと重大な負傷や物損につながるおそれがあります。

以下の作業は、サービス担当者のみが行ってください。



警告

重機によって引き起こされる健康上の問題！

マシンの重量は、1人で持ち上げたり運んだりできる許容荷重を超えています。1人で機械を持ち上げたり運んだりすると、健康上の問題を引き起こす可能性があります。

☞ マシンを1人で持ち上げたり運んだりしないでください。

☞ マシンは、必ず2人で持ち上げたり運んだりしてください。



注意

転倒したマシンによって引き起こされる健康上の問題！

マシンを不適切に持ち上げると、転倒するおそれがあります。転倒または落下したマシンは、怪我の原因となる可能性があります。

☞ マシンを1人で持ち上げないでください。

☞ マシンは、必ず2人で持ち上げてください。



注記

衛生規則違反による物的損害！

マシンの設置状態が衛生的な不適切な場合、物的損害が発生するおそれがあります。

☞ マシンを設置する際は、該当する国または地方自治体の衛生規制に準拠するようにしてください。

☞ 十分な数の逆流防止装置が設置されていることを確認してください。

8.1 開梱



⚠ 注意



梱包材による切り傷や目のけが！

鋭利な梱包材は、けがの原因になります。ストラップを切る際、目のけがをする可能性があります。

👉 開梱作業には、手袋と保護メガネを着用してください。

8.1.1 マシンの開封

- 👉 マシンを開梱します。
- 👉 アクセサリボックスから付属品のアクセサリを取り出してください。
- 👉 残りの梱包内容物を確認し、付属のアクセサリがすべて揃っていることを確認してください。
- 👉 納入品目が完全かつ損傷のないことを確認してください。
- 👉 ご不明な点がある場合は、機械を稼働させず、サービスセンターにお問合せください。
- 👉 返品の可能性に備え、オリジナルのパッケージを保存してください。

8.1.2 アクセサリの開梱

カートン内のパッケージには付属のアクセサリが含まれています。

- 👉 捨てないでください。
- カス受けにスペアパーツが入っています。
- 👉 始動前にスペアパーツを取り外します。
- 👉 カス受けと水タンクを丹念にすすぎます。

8.2 設置

マシンの使用場所に対しては、以下の条件が適用されます。

- マシンは屋外で使用しないでください。
- 設置面は、マシンの重量で変形しないように、安定した水平および平坦な状態である必要があります。
- 設置面は、耐水性および耐熱性を備えている必要があります。
- マシンは、高温の表面や熱源の近くに設置しないでください。
- 水ホース、スチームジェット、スチームクリーナー、または同様の機器を使用して噴霧または洗浄される面にマシンを設置しないでください。
- マシンは、水しぶきから保護された場所に設置してください。
- マシンは、訓練を受けたスタッフが常に監視できる場所に設置してください。
- 必要な電源供給口は、現場の設備図に従って、機械の設置場所から 100 cm (39.4 インチ) 以内にある必要があります。
- 現地における現行の調理場規則を遵守してください。

- メンテナンスおよび操作のためのスペースを確保してください。
 - コーヒー豆またはパウダーを入れるため、上部に十分なスペースを空けてください (20 cm (7.87 インチ) が推奨されます)。
 - 十分な空気循環を確保するため、マシンの背面から壁まで 5 cm (1.97 インチ) 以上の間隔を空けてください。
 - マシンの接続部がカウンターの下を通る場合、配線に必要なスペースを考慮する必要があります。配線によって下部構造の利用可能スペースが制限される場合があります。
 - フィルターを取り付ける場合：フィルターの取扱説明書を参照してください。

8.3 設置要件

マシンは、現行の国内または現地の電気設備および衛生に関する法規定に従って取り付けてください。これには十分な逆流保護も含まれます。

マシン側のすべての接続は、納品時にすぐに使用できる状態になっています。

以下の現場での接続が必要になります。

電気

- 電源プラグ用コンセント
 - 定格銘板には、必要な最大のヒューズについて記載されています。
 - 定格銘板には、必要な最小導体断面積について記載されています。

水

- 水道接続部または外付け飲料水タンクとの接続部。
- 排水ホース用サイフォンまたは外付け排水タンク。

補助機器

- マシンと補助機器間の通信用オプションインターフェース
 - ☞ アクセシ性を高めるため、マシンの背面をサポートプレートから約 5 cm (2 インチ) 上方に配置してください。
 - ☞ 設置側で接続部を準備してください。

8.4 電源の接続



⚠ 危険

感電による生命の危険！

マシンを接続する際は、感電による生命の危険があります。

- 👉 定格銘板に記載された電流値で、位相が保護されていることを確認してください。
- 👉 装置のすべての極が系統電源から切断できることを確認してください。
- 👉 現場の電気系統が、各国の規定に従って設置されていることを確認してください。
- 👉 残留電流回路ブレーカーを介して接続します。
- 👉 接続ケーブルが損傷している機器は絶対に使用しないでください。損傷した接続ケーブルもしくはプラグは直ちにサービス技術者に依頼して交換してください。
- 👉 メーカーは延長ケーブルの使用を推奨していません。それでも延長ケーブル（最小断面積：1.5 mm² / 14 AWG）を使用する場合、ケーブルのメーカーデータ（取扱説明書）を確認し、現地の規制を遵守してください。
- 👉 接続ケーブルは人が踏かないように敷設してください。ケーブルを角や鋭いエッジに引っ掛けたり、挟んだり、室内に吊り下げたりしないでください。ケーブルを高温の物の上に置いたり、油や刺激性のある洗剤から保護してください。
- 👉 接続ケーブルで機器を持ち上げたり、引っ張ったりしないでください。接続ケーブルを持って、コンセントからプラグを抜かないでください。
- 👉 濡れた手でケーブルやプラグに触れないでください。濡れたプラグをコンセントに差し込まないでください。



⚠ 危険

故障した、または非純正の接続ケーブルの使用による生命の危険！

故障した、または非純正の電源ケーブルを使用した場合、感電および火災の危険があります！

- 👉 純正の接続ケーブルのみを使用してください。国別仕様の純正電源ケーブルはサービスパートナーを通して入手可能です。
- 👉 両側着脱式の電源ケーブルは交換可能です。
- 👉 固定式の接続ケーブルは、サービス技術者に交換を依頼してください。



⚠ 警告

資格不足による怪我の危険！

専門的に正しく取り扱わないと重大な負傷や物損につながるおそれがあります。

以下の作業は、電気の専門家のみが行ってください。

電気接続は必ず各国の規定に従って行ってください。定格銘板に記載された電圧と機器設置場所の電源電圧が一致するようにしてください。電源ソケットと電源スイッチは、設置場所のオペレーターがアクセスできる必要があります。

☞ 電源を接続してください。

現場の電気システムは、IEC 364 (DIN VDE 0100) に従って設計されていることを確認してください。安全性を高めるために、公称残留電流 (EN 61008) が 30 mA の残留電流回路ブレーカーを機器の上流に接続する必要があります。タイプ B の残留電流回路ブレーカーは、滑らかな DC 残留電流でも応答を保証します。これにより、高レベルの安全性が実現されます。

8.5 給水部への接続



⚠ 注意

汚染された水によって引き起こされる健康上の問題!

水の不適切な取り扱いにより、健康に影響を及ぼすおそれがあります。

- ☞ 水が汚れやバクテリアに汚染されていないことを確認してください。
- ☞ マシンには、浸透水もしくはその他の刺激性の強い水を接続しないでください。
- ☞ 炭酸塩硬度が 4 ~ 6° dKH または 8 ~ 12° fKH であることを確認してください。
- ☞ 総硬度が炭酸塩硬度よりも高いことを確認してください。
- ☞ 塩素含有量が 1 L あたり 50 mg を超えないようにしてください。
- ☞ pH 値は 6.5 ~ 7 (pH 中性) の間でなければなりません。
- ☞ 飲料水タンク (内部/外部) 付きマシン：飲料水タンクには毎日新鮮な水を補充し、補充する前に飲料水タンクを完全に洗い流してください。



注記

水質悪化による物的損害!

汚染された水や不適切な水質は、機械に損傷を与える可能性があります。

- ☞ 推奨される水質を確認し、必要に応じて最適化してください。
- ☞ 水は汚れのない状態で、塩素含有量は地域の規定で認められている最大塩素含有量を超えてはいけません。
- ☞ マシンに純粋浸透水もしくはその他の刺激のある水を接続しないでください。
- ☞ 炭酸塩の硬度は、4~6° dKH (ドイツの炭酸塩の硬度) または 8~12° fKH (フランスの炭酸塩の硬度) を超えてはならず、合計硬度の値は常に炭酸塩の硬度よりも高くする必要があります。
- ☞ 最小炭酸塩の硬度は 4° dKH または 8° fKH です。
- ☞ pH 値は 6.5 ~ 7 の間でなければなりません。
- ☞ 必ず、マシンに付属の新しいホースセット (真水/廃水ホース) を使用してください。

接続のバリエーション

飲料水の接続には、以下のバリエーションが可能です：

- 内部の飲料水タンク (標準)
- 外部給水タンク



水質の補足説明書には、水値の捕捉説明並びにフィルター技術の使用に関する情報が記載されています。補足説明書は、メーカーに請求するか、ダウンロードポータルから直接ダウンロードすることができます。

8.6 水道水の接続



⚠ 注意

汚染された水によって引き起こされる健康上の問題!

水の不適切な取り扱いにより、健康に影響を及ぼすおそれがあります。

- 👉 水が汚れやバクテリアに汚染されていないことを確認してください。
- 👉 マシンには、浸透水もしくはその他の刺激性の強い水を接続しないでください。
- 👉 炭酸塩硬度が 4 ~ 6° dKH または 8 ~ 12° fKH であることを確認してください。
- 👉 総硬度が炭酸塩硬度よりも高いことを確認してください。
- 👉 塩素含有量が 1 L あたり 50 mg を超えないようにしてください。
- 👉 pH 値は 6.5 ~ 7 (pH 中性) の間でなければなりません。
- 👉 飲料水タンク (内部/外部) 付きマシン: 飲料水タンクには毎日新鮮な水を補充し、補充する前に飲料水タンクを完全に洗い流してください。



📌 注記

水質悪化による物的損害!

汚染された水や不適切な水質は、機械に損傷を与える可能性があります。

- 👉 推奨される水質を確認し、必要に応じて最適化してください。
- 👉 水は汚れのない状態で、塩素含有量は地域の規定で認められている最大塩素含有量を超えてはいけません。
- 👉 マシンに純粋浸透水もしくはその他の刺激のある水を接続しないでください。
- 👉 炭酸塩の硬度は、4~6° dKH (ドイツの炭酸塩の硬度) または 8~12° fKH (フランスの炭酸塩の硬度) を超えてはならず、合計硬度の値は常に炭酸塩の硬度よりも高くする必要があります。
- 👉 最小炭酸塩の硬度は 4° dKH または 8° fKH です。
- 👉 pH 値は 6.5 ~ 7 の間でなければなりません。
- 👉 必ず、マシンに付属の新しいホースセット (真水/廃水ホース) を使用してください。

接続のバリエーション

飲料水の接続には、以下のバリエーションが可能です:

- 内部の飲料水タンク (標準)
- 外部給水タンク



水質の補足説明書には、水値の捕捉説明並びにフィルター技術の使用に関する情報が記載されています。補足説明書は、メーカーに請求するか、ダウンロードポータルから直接ダウンロードすることができます。

**注記**

マシンを定常的に（水道）水を接続して運用する場合は外付け水フィルターをマシンに接続してください。

- ☞ マシンを電源から外してください。
- ☞ 給水/水道水遮断弁を閉じます。
- ☞ マシンを水タンク付きで使用了ことがあれば、タンクから残留水を完全に抜いてください。
- ☞ 雫受けを取り外して中を空けます。
- ☞ 適切な固定具をご使用ください。サイズとネジ部が一致していなければなりません。
- ☞ 給水管をマシンにある白の給水弁接続部(3/8")に繋がます。

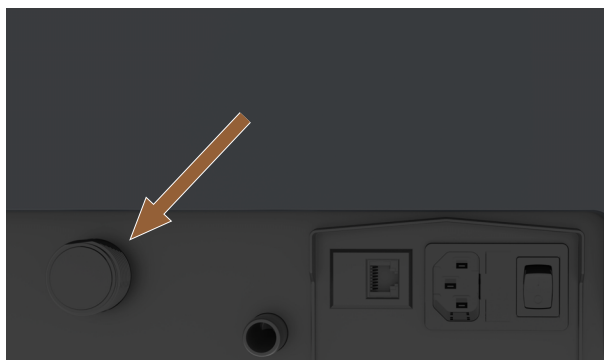


図 14: 給水管の接続

- ☞ 排水ホースを指定投入口に差し込みます。アダプターは確実に固定されている必要があります。

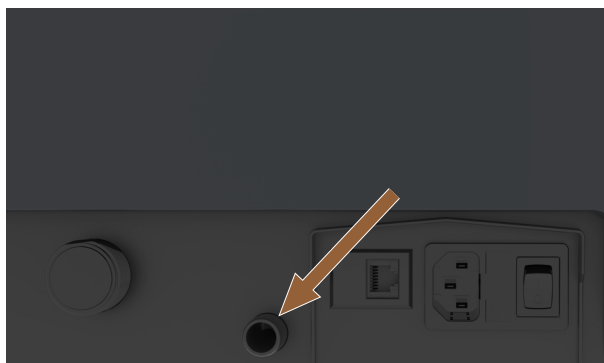


図 15: 排水ホースの接続

- ☞ 排水ホースは現地の排水システムに接続することができます。排水ホースは逆流しないように連続的に下り勾配をつけてください。



図 16: シリコンプラグを取り外します

- ☞ 雫受けの背面からシリコンプラグを取り外し、排水ホースを通して排水が流れるようにします。



図 17: チェックバルブに付け替えます

- ☞ プラグを取り外します。
- ☞ プラグをマシン付属のチェックバルブに付け替えます。
- ☞ 雫受けを再び取り付けます。
- ☞ 給水を開きます。
- ☞ 漏れていないか点検してください。
- ☞ すべての点検が完了し、水漏れがなければ、マシンを水道に再接続します。
- ☞ システム内の給水設定を変更する前に、タンク水を再び使用して起動手順を一巡してください。

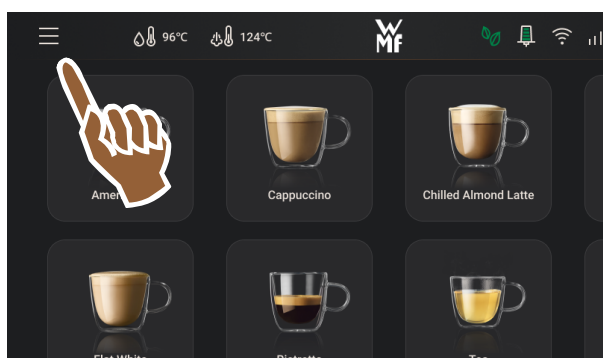


図 18: ハンバーガーメニューをタップします

- ☞ ハンバーガーメニューをタップします。

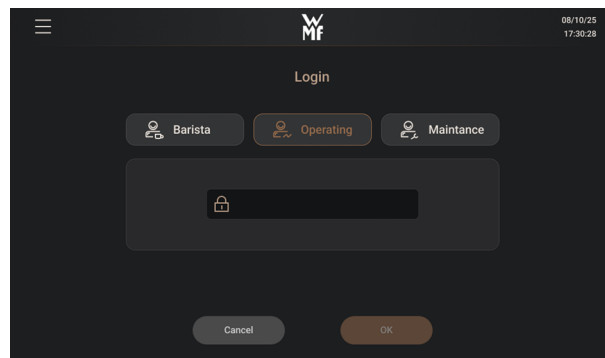


図 19: 操作パスワードを入力してください

- ☞ **操作**パスワードを入力してください。
- ☞ **OK**をタップします。
- ☞ 操作オプションを選択します。

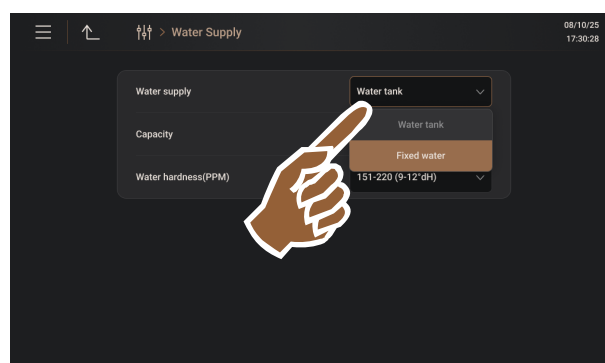


図 20: 給水システムメニュー

- ☞ 給水を選択します。
- ☞ 常時接続水を選択します。
- ☞ 操作または一日の終了時に、給水用遮断弁を閉じ、次回使用時の最初に再度開きます。
- ✓ コーヒーマシンは使用準備ができました。

8.7 ミルク・ノズルの調整

ミルクフォームが望みの通りに出て来なければ、ミルクノズルが詰まっているかノズルサイズが合っていない可能性があります。

次の条件を満たしていることを確認してください：

- クリーニング・ブラシ
- ☞ コーヒーマシンをオフにします。

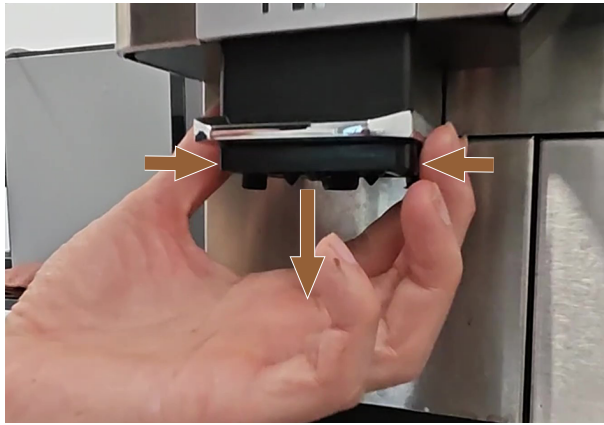


図 21: 複合抽出口を取り外す

☞ 二個の解除用タブを押すと複合抽出口を取り外すことができます。



図 22: ミルクノズルを取り外します

☞ ミルクノズルを取り外します。



図 23: クリーニングにはブラシをご使用ください

- ☞ クリーニング・ブラシを使って水道水を流しながらミルクノズルを洗ってください。
- ☞ 付属のブラシで届きにくい箇所やミルクノズル、ミルクホースを洗ってください。
- ☞ ミルクノズルを元通り差し込みます。

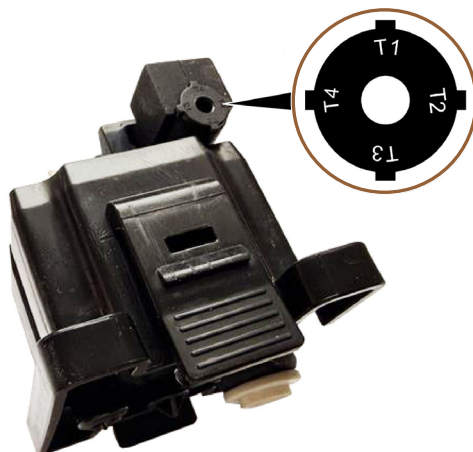


図 24: ミルクノズルの調整とクリーニング



注記

ノズルサイズはT1からT4まで4種類あります。

T1: 20° C

T2 : 15° C～20° C

T3 : 10° C～15° C

T4 : 5° C～10° C

- ☞ ミルクの温度に合わせてミルクノズルを調整します。
- ☞ コーヒーマシンのプラグを電源コンセントに差し込みます。
- ✓ コーヒーマシンは使用準備ができました。

8.8 画面ガイドによる試運転

コーヒーマシンはご自身が使用場所で立ち上げてください。コーヒーマシンに初めて電源を入れると、立ち上げプログラムが自動的に起動します。ディスプレイガイドによる試運転後には、飲料レシピが設定されていないため、まだ飲料を注出することはできません。お客様または操作担当者が飲み物のレシピを設定し、校正してください。

手動での立ち上げはいつでもお客様ご自身が開始できます。

8.8.1 試運転プログラム

試運転プログラムは、ディスプレイによってステップバイステップに次の試運転項目へと案内します。設定された値は試運転後に変更することができます。



図 25: マシンの電源を入れる

- ☞ オン/オフスイッチでマシンのスイッチを入れます。
 - ✓ コーヒーマシンのスイッチを入れます。
 - ✓ 試運転プログラムが開始します。
- ☞ ディスプレイに出る全ての指示に従って進め、実行します。
 - ✓ 試運転プログラムが完了し、必要なすべての設定が行われると、コーヒーマシンが再起動します。



⚠ 注意

高温の液体による火傷の危険！

飲料、熱湯およびスチームが出る箇所では火傷のおそれがあります。

- ☞ これらが出ている間、またはクリーニング中は商品の注出場所に手を触れないでください。
- ☞ クリーニング前には、誤操作を防ぐため、必ず操作ユニットをロックしてください。



⚠ 注意

高温の表面による発火の危険！

飲み物の抽出や清掃、カルキ抜きの際流出する液や隣接する表面が熱くなります。

- ☞ 飲料注出口は、指定された箇所のみに触れてください。
- ☞ 抽出直後に抽出箇所に触らないでください。
- ☞ マシンが冷めるまで5分から10分お待ちください。

水タンク用水フィルターを挿入します（オプション）

これは、試運転プログラム中に実行される1つのステップです。

炭酸塩硬度が5° dKHより多い飲料水の場合、水フィルターを上流側に取り付けます。これはマシンがこのフィルターがないとカルキの蓄積により損傷する可能性があるからです。水硬度が0～5° dKHの間であれば、水フィルターは必要ありません。

水硬度の測定

- ☞ 飲料水の硬度は水道局に問い合わせるか炭酸塩硬度テスト（説明書付き）を使って調べてください。

炭酸塩硬度テストはアクセサリとして付属しています。

水フィルターの容量

水タンク（200 l）用に同梱されている水フィルターの容量は硬度10 ° dKHの場合水200 l まであります。実際の容量は、飲料水の硬度で異なり、以下の表から読み取ることができます。

ドイツ炭酸塩硬度(° dKH)が基準単位です。

水の硬度	リットル単位の容量	水の硬度	リットル単位の容量
< 5	フィルター不要	15	135
5	400	16	125
6	335	17	120
7	285	18	110
8	250	19	105
9	220	20	100
10	200	21	95
11	180	22	90
12	165	23	85
13	155	24	80
14	145	25	70

8.8.2 言語の設定

コーヒーマシンに初めて電源を入れると以下の画面が表示されます：

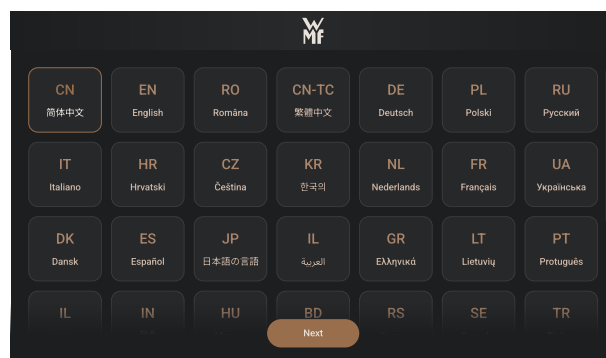


図 26: 言語選択

☞ 言語を選択してください。

☞ 「次へ」をタップします。

8.8.3 時間帯と日付の設定

コーヒーマシンに初めて電源を入れると以下の画面が表示されます：

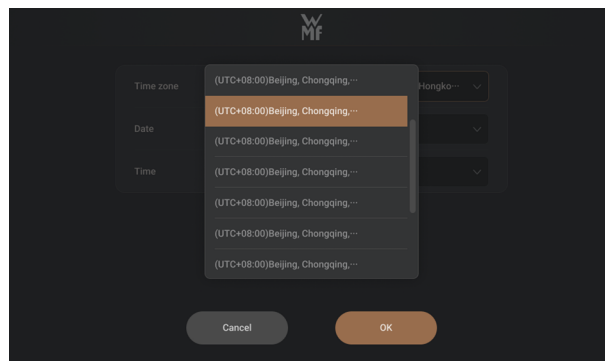


図 27: 時間帯を設定します

☞ 使用地の時間帯を設定してください。

☞ 「次へ」をタップします。

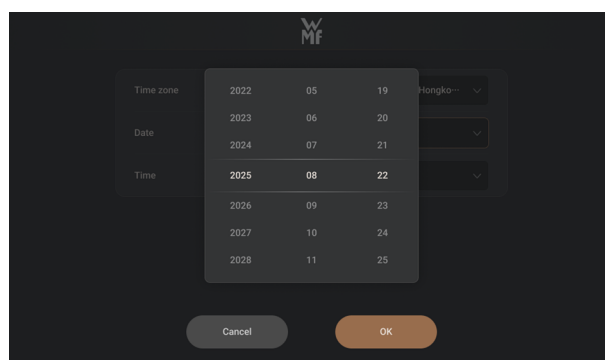


図 28: 日付の設定

☞ 正しい日付を設定してください。

☞ 「次へ」をタップします。

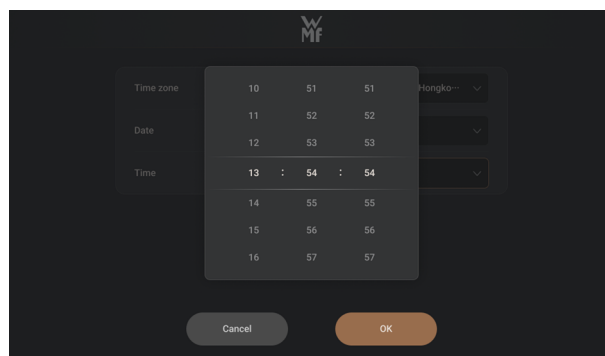


図 29: 時刻の設定

☞ 正しい時刻を設定してください。

☞ 「次へ」をタップします。

8.8.4 水の硬度設定

コーヒーマシンに初めて電源を入れると以下の画面が表示されます：

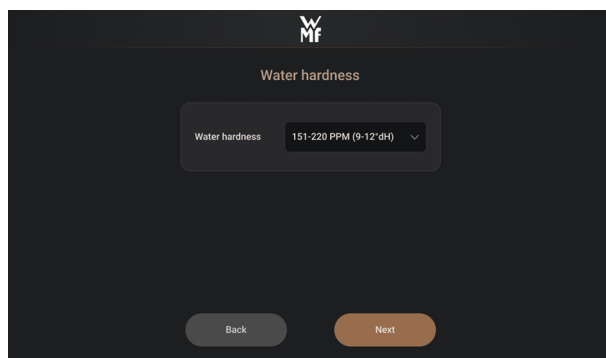


図 30: 水の硬度設定

- ☞ 水の硬度を選択してください。
- ☞ 「次へ」をタップします。

8.8.5 水フィルターの設定

コーヒーマシンに初めて電源を入れると以下の画面が表示されます：

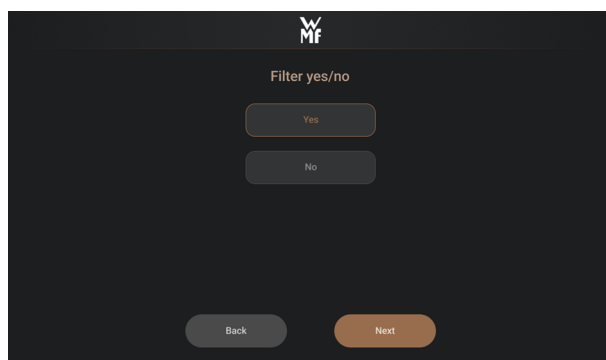


図 31: 水フィルターの設定

- ☞ 水フィルターを選択します。
- ☞ 「次へ」をタップします。

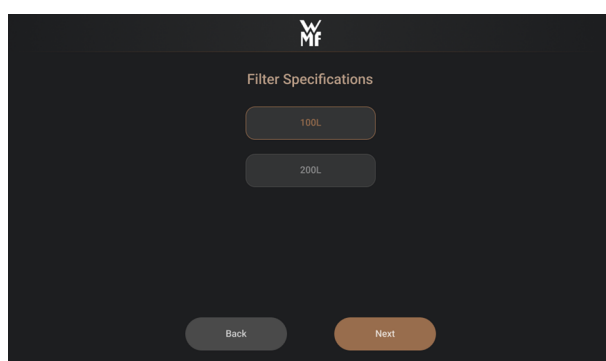


図 32: 水フィルターの仕様設定

- ☞ フィルターの仕様を選択してください。
- ☞ 「次へ」をタップします。
- ✓ コーヒーマシンが立ち上がります。

8.9 日付・時刻の設定

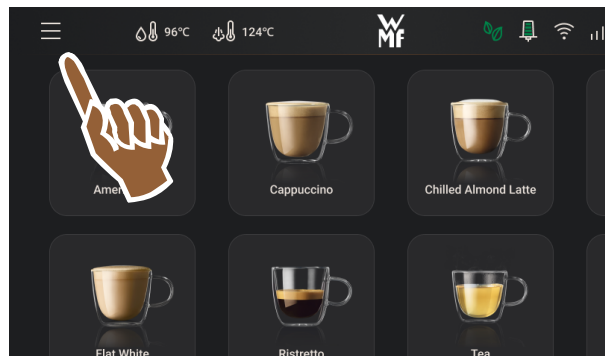


図 33: ハンバーガーメニューをタップします

☞ ハンバーガーメニューをタップします。

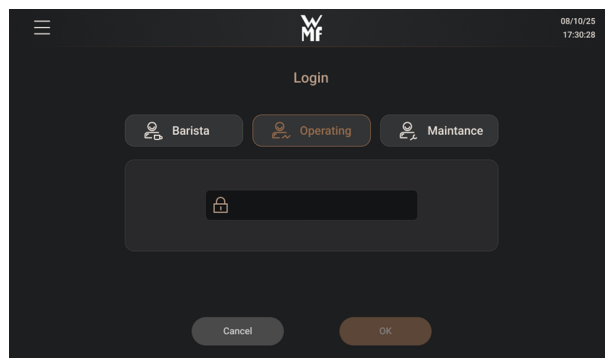


図 34: 操作パスワードを入力してください

☞ 操作パスワードを入力してください。

☞ OKをタップします。

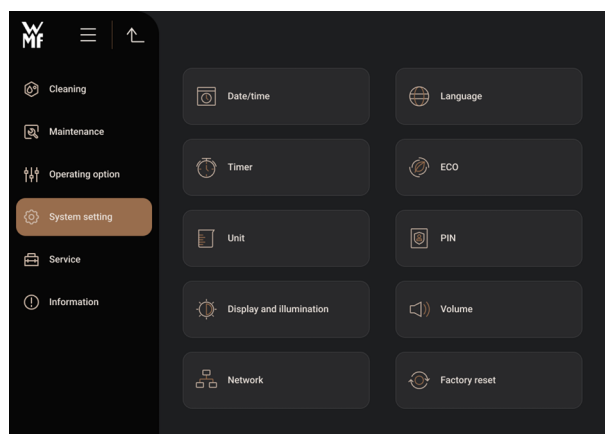


図 35: 設定メニュー

☞ 設定をタップします。

☞ 日付・時刻をタップします。

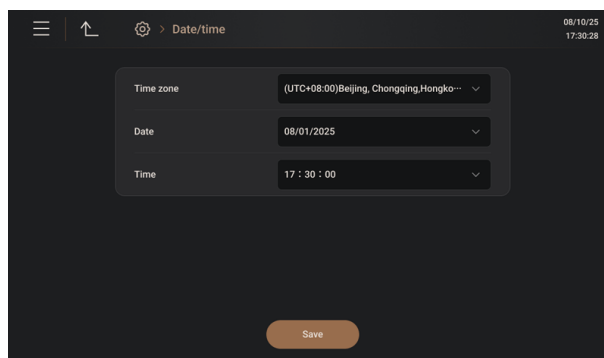


図 36: 日付・時刻

- ☞ 時間帯を選択してください。
- ☞ 日付を入力します。
- ☞ 時刻を入力します。
- ☞ 保存をタップします。
- ✓ 日付と時刻は設定されています。

8.10 言語の設定

言語は随時変更できます：

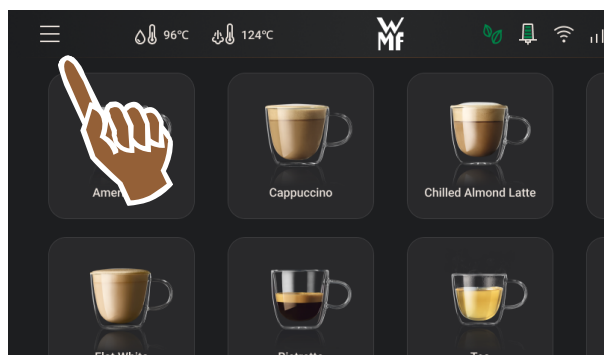


図 37: ハンバーガーメニューをタップします

- ☞ ハンバーガーメニューをタップします。

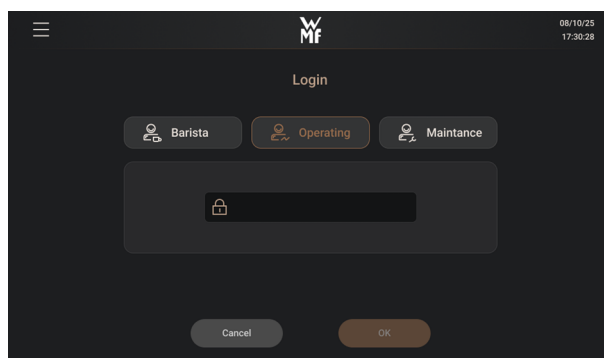


図 38: 操作パスワードを入力してください

- ☞ 操作パスワードを入力してください。
- ☞ OKをタップします。

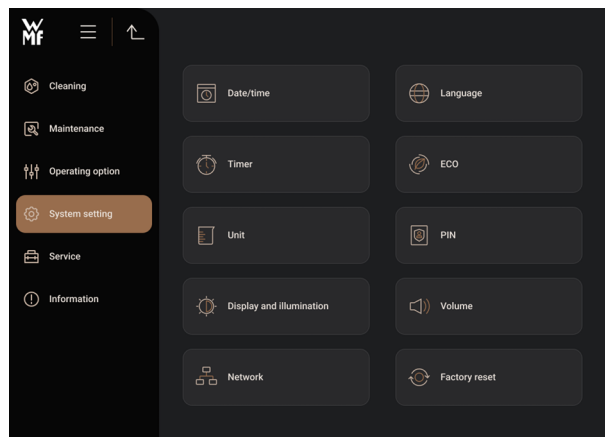


図 39: 設定メニュー

☞ 設定をタップします。

☞ 言語をタップします。

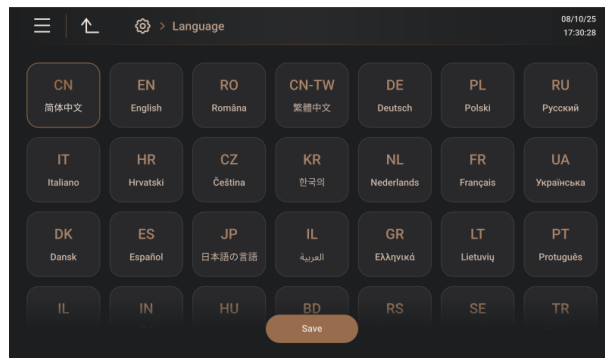


図 40: 7.3 設定メニュー - 言語

☞ ご希望の言語をタップします。

☞ 保存をタップします。

8.11 タイマー設定

タイマーは以下のようにして設定できます：

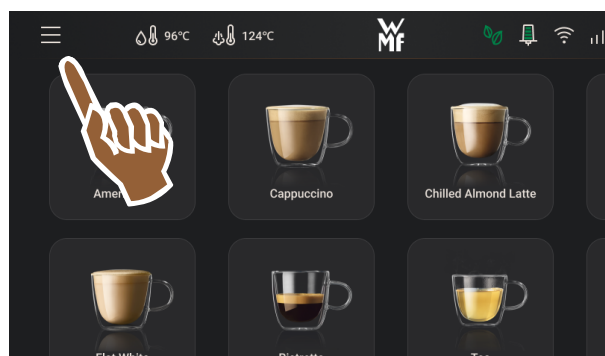


図 41: ハンバーガーメニューをタップします

☞ ハンバーガーメニューをタップします。

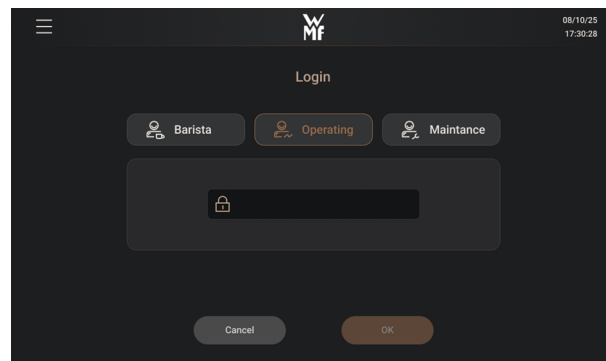


図 42: 操作パスワードを入力してください

☞ **操作パスワード**を入力してください。

☞ **OK**をタップします。

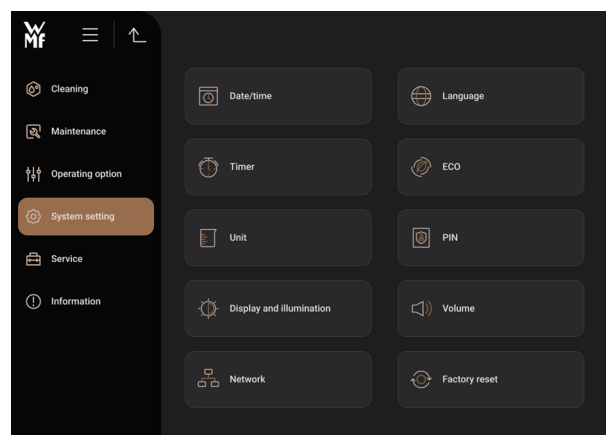


図 43: 設定メニュー

☞ **タイマー**をタップします。

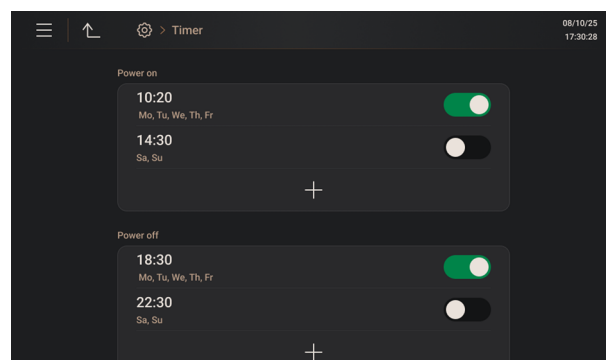


図 44: タイマーメニュー

☞ **電源オン/オフ時間予約**を有効にします。

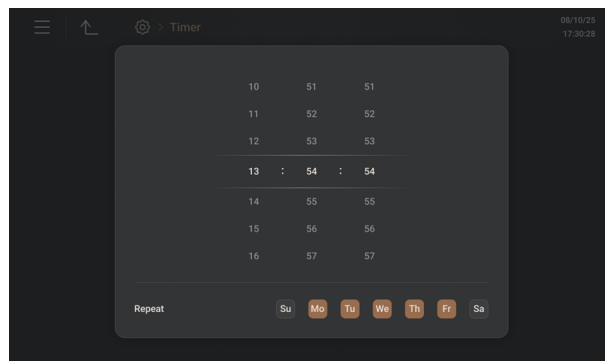


図 45: タイマーメニュー

☞ 希望する曜日を選択してください



注記

複数タイマーは必要に応じて有効にすることができます。

赤い削除アイコンをタップすればタイマーは随時削除できます。

☞ **保存**をタップします。

✓ タイマーは正常に設定され、使用されています。

8.12 エコモードの設定

エコモードの設定は以下のように行います：

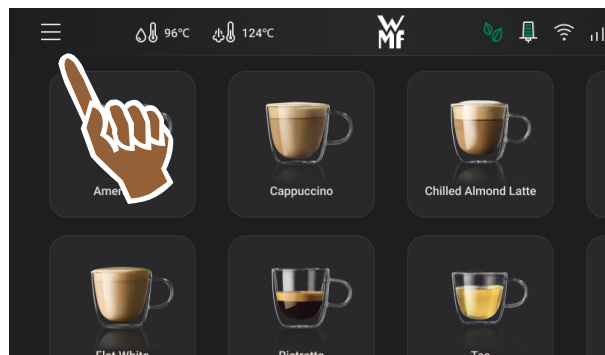


図 46: ハンバーガーメニューをタップします

☞ ハンバーガーメニューをタップします。

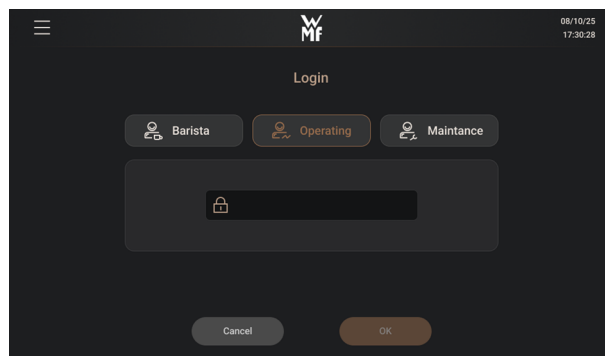


図 47: 操作パスワードを入力してください

☞ **操作**パスワードを入力してください。

☞ **OK**をタップします。

☞ **システム設定**をタップします。

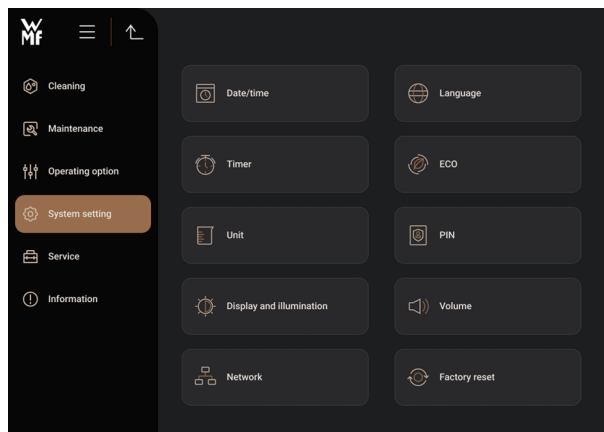


図 48: 設定メニュー

☞ **ECO**をタップします。

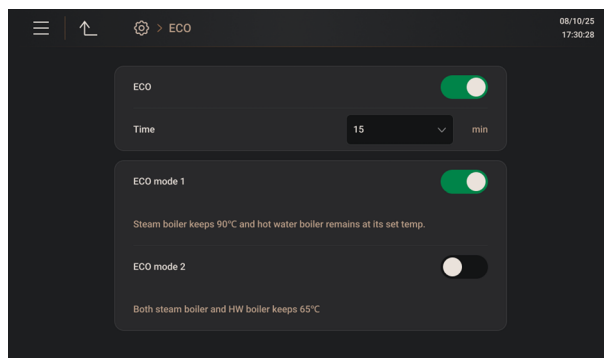


図 49: エコ設定

☞ **ECO**を選択します。

✓ エコモードは30分後に自動的に開始されます。

☞ **エコモード1**を選択します。

✓ スチームボイラーの温度が90° Cに下がり、そこで維持されます。コーヒーボイラーは設定温度に維持されます。

☞ **エコモード2**を選択します。

✓ スチームボイラーとコーヒーボイラーともに温度が65° Cまで下がり、そこに維持されます。

8.13 パスコードの設定

パスコードは以下のようにして変更することができます：

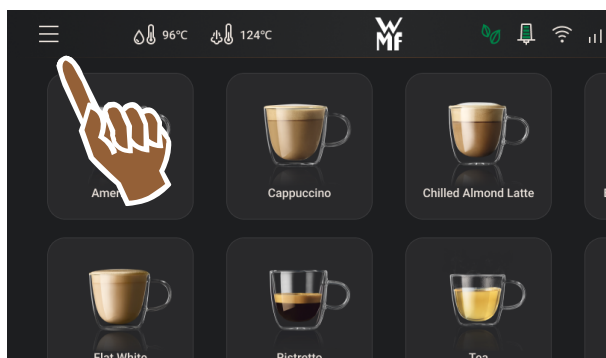


図 50: ハンバーガーメニューをタップします

☞ ハンバーガーメニューをタップします。

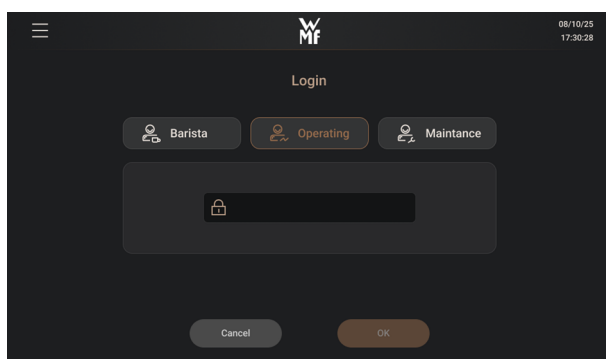


図 51: 操作パスワードを入力してください

☞ 操作パスワードを入力してください。

☞ OKをタップします。

☞ 設定をタップします。

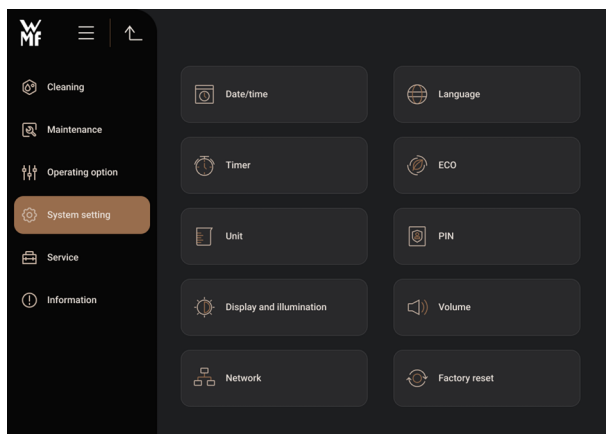


図 52: 設定メニュー

☞ PINをタップします。

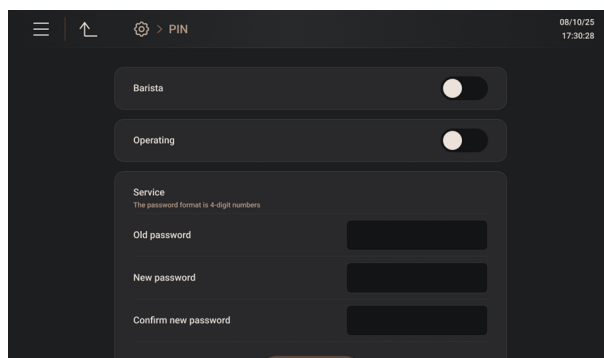


図 53: PINメニュー

- ☞ **バリスタ**用の新しいパスワードを入力します。
- ☞ **操作用**の新しいパスワードを入力します。
- ☞ **サービス**用の新しいパスワードを入力します。

8.14 スクリーンセーバーの設定、カップ色照明と前面カラー照明

スクリーンセーバー、カップ色と前面カラーの照明は個別に調整できます：

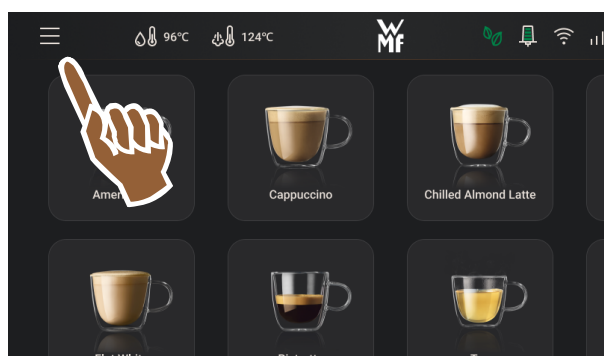


図 54: ハンバーガーメニューをタップします

- ☞ ハンバーガーメニューをタップします。

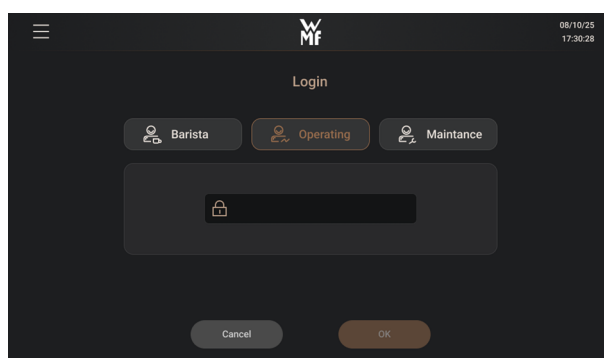


図 55: 操作用パスワードを入力してください

- ☞ **操作用**パスワードを入力してください。
- ☞ **OK**をタップします。
- ☞ システム設定をタップします。

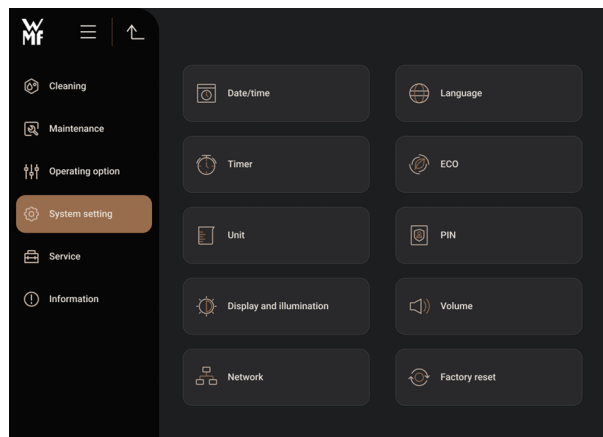


図 56: 設定メニュー

☞ **ディスプレイと照明**をタップします。

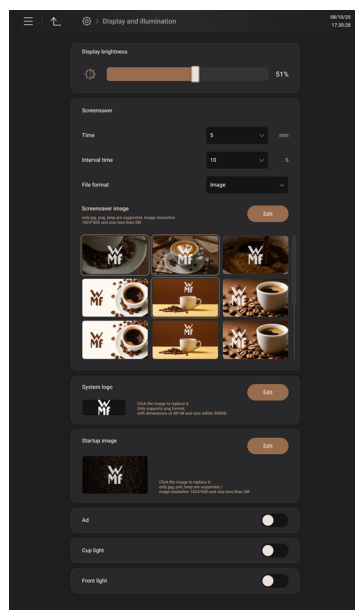


図 57: ディスプレイと照明メニュー

- ☞ 必要に応じて**ディスプレイの明るさ**を設定してください。
- ☞ 必要に応じて**スクリーンセーバー時間**（分単位）を設定してください。
- ☞ **時間間隔**（秒単位）を設定してください。
- ☞ 必要であれば**ファイル形式**を変更します。
- ☞ **スクリーンセーバー画像**を編集します。
- ☞ **システムロゴ**を選択します。
- ☞ **起動画像**を選択します。
- ☞ 必要に応じて**カップ照明**を変更し、明るさを設定してください。
- ☞ 必要に応じて**前面照明**を変更し、明るさを設定してください。

8.15 音量の設定

音量は以下のようにして変更することができます：

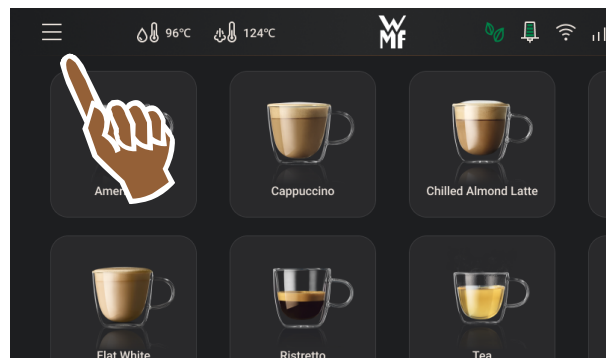


図 58: ハンバーガーメニューをタップします

☞ ハンバーガーメニューをタップします。

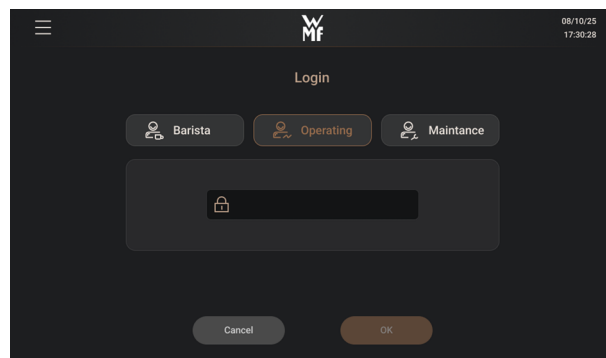


図 59: 操作用パスワードを入力してください

☞ 操作用パスワードを入力してください。

☞ OKをタップします。

☞ システム設定をタップします。

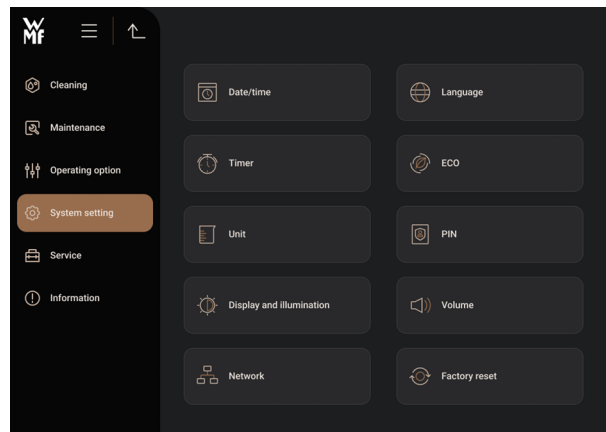


図 60: システム設定メニュー

☞ 音量をタップします。

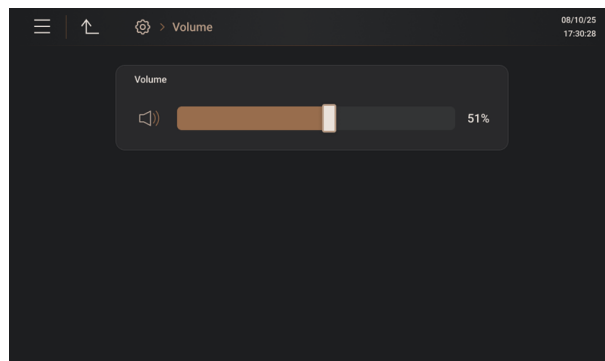


図 61: 音量設定メニュー

☞ 音量は0 %から100 %まで変更できます。

8.16 ネットワーク設定の構成

ネットワーク設定は以下のようにして設定します：

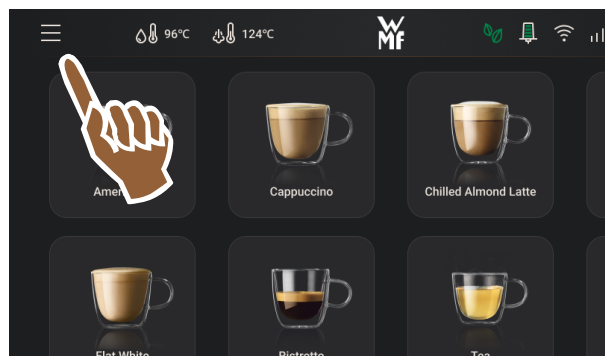


図 62: ハンバーガーメニューをタップします

☞ ハンバーガーメニューをタップします。

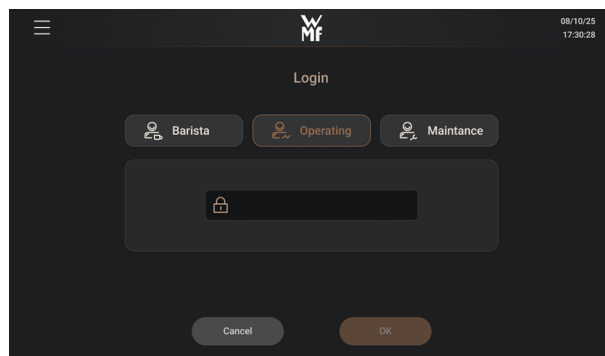


図 63: 操作用パスワードを入力してください

☞ 操作用パスワードを入力してください。

☞ **OK**をタップします。

☞ **システム設定**をタップします。

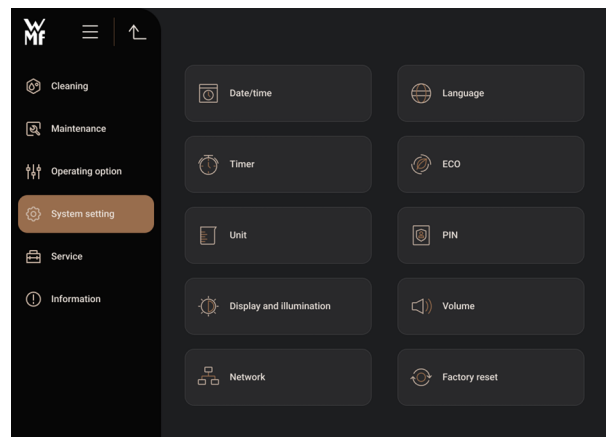


図 64: システム設定メニュー

☞ **ネットワーク**をタップします。

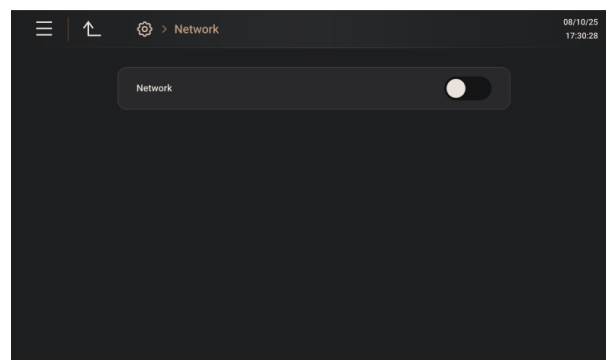


図 65: ネットワークメニュー

☞ **ネットワーク**を有効にします。

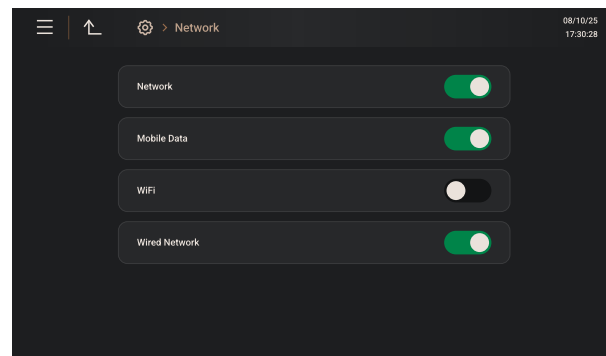


図 66: ネットワーク設定

以下のネットワークオプションを有効にすることができます。

- **ネットワーク**
- **モバイルデータ**
- **WiFi**
- **有線ネットワーク**

ネットワークの有効化

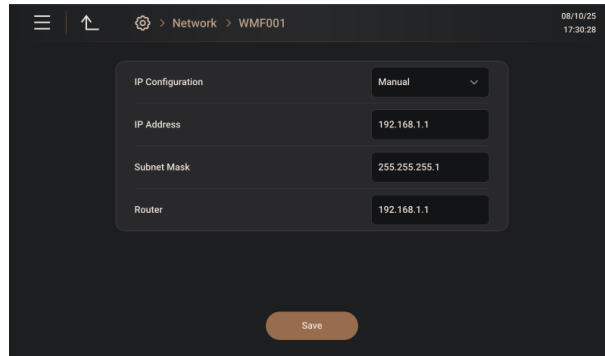


図 67: ネットワーク設定

☞ ネットワークを有効にします。

☞ **IP手動/自動設定**を選択します。

自動にすると、任意のIPアドレスがルーターから割り当てられます。

手動にすると：

☞ **IPアドレス**を入力します。

☞ **サブネットマスク**を入力します。

☞ **ルーター・アドレス**を入力します。

☞ **保存**をタップします。

すべてのアドレスが正しければ、コーヒーマシンがネットワークに接続されます。

WiFiの有効化

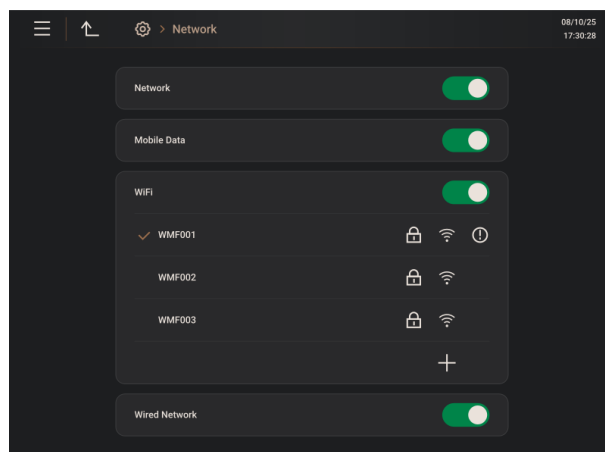


図 68: WiFi設定

☞ **WiFi**を有効にします。

✓ WiFiネットワークが検索され、そのリストが表示されます。

☞ 使用したいWiFiネットワークを選択します。

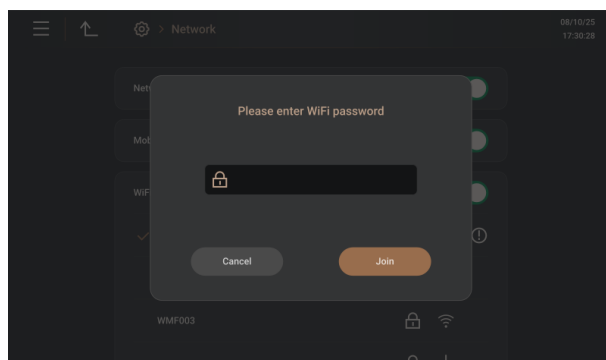


図 69: WiFiパスワード

☞ WiFiパスワードを入力します。

☞ 接続をタップします。

正しいパスワードが入力された限り、コーヒーマシンはネットワークに接続されます。

8.17 出荷時設定

出荷時設定には以下のようにしてリセットできます：

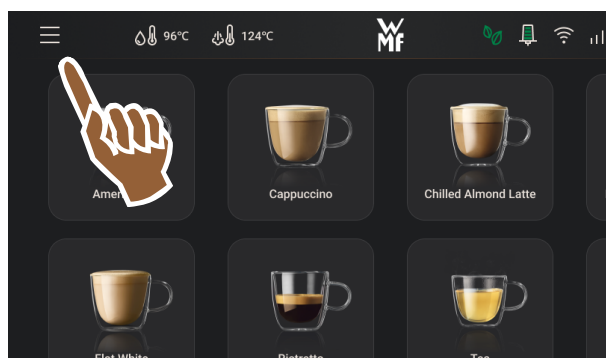


図 70: ハンバーガーメニューをタップします

☞ ハンバーガーメニューをタップします。

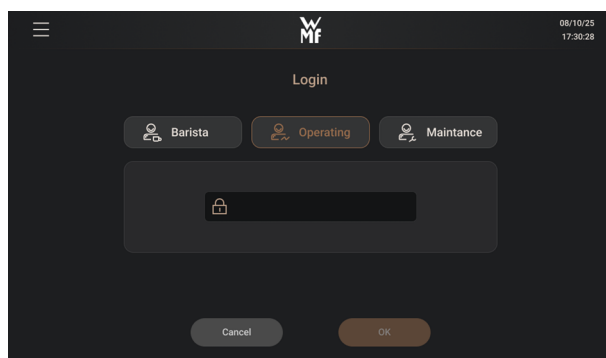


図 71: 操作パスワードを入力してください

☞ 操作パスワードを入力してください。

☞ OKをタップします。

☞ システム設定をタップします。

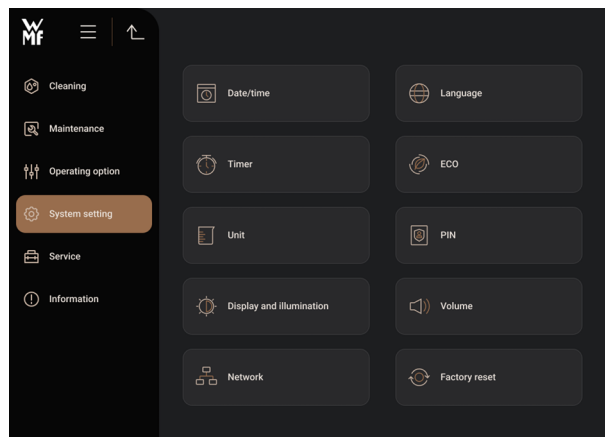


図 72: システム設定メニュー

☞ 出荷時状態にリセットをタップします。

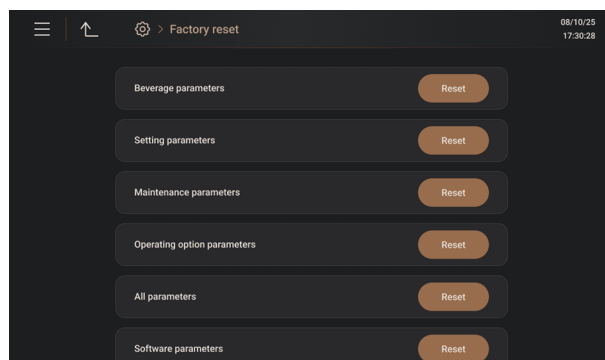


図 73: 出荷時状態にリセット

☞ 飲み物パラメータを希望する場合：出荷時状態にリセットをタップします。

☞ パラメータ設定を希望する場合：出荷時状態にリセットをタップします。

8.18 パスワード

マシンでの様々な操作にパスワードが要求されます。

そのパスワード：2026

9 操作

本省では、マシンの日常的な操作に関する、飲料準備のさまざまな機能についてご説明します。



⚠ 注意

滑る危険による怪我！

液体がこぼれると、マシン周囲の床が濡れた状態になることがあります。これにより、滑って転倒し、怪我をする危険があります。

- 👉 床に液体がこぼれた場合は、すぐに拭き取ってください。
- 👉 床に大量の液体がこぼれた場合は、移動式の警告標識で注意喚起してください。



⚠ 注意

高温の液体による火傷の危険！

飲料、熱湯およびスチームが出る箇所では火傷のおそれがあります。

- 👉 これらが出ている間、またはクリーニング中は商品の注出場所に手を触れないでください。
- 👉 クリーニング前には、誤操作を防ぐため、必ず操作ユニットをロックしてください。



⚠ 注意

不適切な製品による健康被害

製品コンテナおよびオプションの手動投入口には、それぞれの用途に適した製品のみを充填してください。

- 👉 マシンでの飲用および使用に適した製品のみを使ってください。

9.1 繰り返し行う追加作業

本章では、日常的な操作で定期的に必要となるマシンの操作手順について説明します。

9.1.1 コントロールパネルの開閉

マシンは、コントロールパネルが閉じた状態でのみ操作することができます。

操作ユニットを開く

- 👉 キーで解錠します。
- 👉 操作ユニットを開きます。

9.1.2 コーヒー豆ホッパー/パウダーホッパーの充填



警告

回転する粉碎ディスクによる、挟み込みの危険および切り傷の危険！



グラインダー内で粉碎ディスクが回転するため、挟み込みおよび切り傷の危険があります。

☞ マシンのスイッチが入っている状態では、コーヒー豆ホッパーに絶対に手を触れないでください。

☞ グラインダーでの作業を行う前に、マシンのスイッチを切り、電源プラグを抜いてください。



注記

コーヒー豆ホッパーへの異物混入による物的損傷！

異物が入り込むことで、グラインダーの目詰まりやブロックが生じ、グラインダーの破損につながるおそれがあります。この損傷は保証の対象外です。

☞ コーヒー豆ホッパーには、コーヒー豆以外のものを絶対に投入しないでください。



注記

詰まりによる物的損傷！

承認されていないマシン用パウダーを充填すると、パウダーホッパーまたはパウダーシステムが詰まる可能性があります。

☞ 自動モードでの使用に適したパウダーのみを投入してください。

☞ パウダーホッパーにパウダーを入れすぎないでください。

☞ パウダーを押し付けたり、固めたりしないでください。



図 74: コーヒー豆ホッパー/パウダーホッパーの充填

☞ できるだけ早くホッパーに豆を補充します。

☞ ロック可能なコーヒー豆ホッパー：コーヒー豆ホッパーのロックをマルチツールで開けます。

☞ コーヒー豆ホッパーの蓋を取り外します。

☞ 必要に応じて、コーヒー豆ホッパーとフタから残留コーヒーを取り除いてから充填してください。

☞ コーヒー豆ホッパーに、その豆の種類に適したコーヒー豆を充填します。

☞ 製品の鮮度を保つため、1 日分の必要量までしかホッパーに充填しないでください。

- ☞ 内容物がホッパーのフタに触れない程度の量だけを入れます。
- ☞ ホッパーは常に前から後ろへと満たしてください。
- ☞ コーヒー豆ホッパーをフタで閉じます。
- ☞ ロック可能なコーヒー豆ホッパー：コーヒー豆ホッパーをマルチツールでロックします。
- ✓ コーヒー豆ホッパーは満杯になります。

9.1.3 雫受けを空にする



⚠ 注意

高温の液体による熱傷の危険！

雫受けの中に熱い液が溜まっていることがあります。

- ☞ 雫受けを注意して動かしてください。
- ☞ 雫受けを慎重に再度取り付け、不意に液体が漏れ出ないようにしてください。

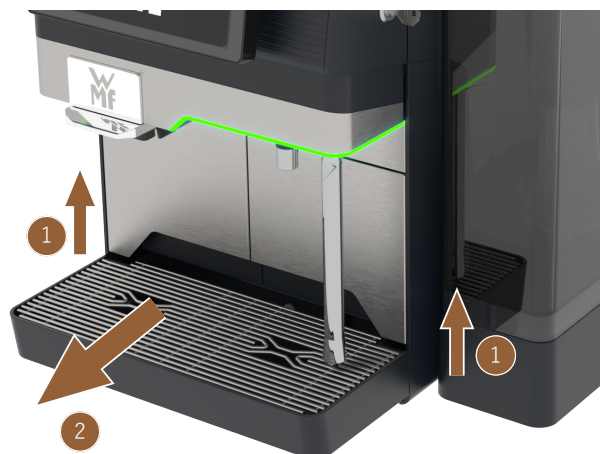


図 75: 雫受けの取り外し

1 雫受けを少し浮かせます

2 雫受けを引き出します

最大レベルになるとディスプレイ上にメッセージが表示されます。

- ☞ 外側から雫受けを少し浮かせ、マシンから抜き取ります。
 - ☞ 雫受け慎重にを取り外し、空にして、再度取り付けます。
 - ☞ 雫受けの下側と雫受けセンサー領域が取り付け前に乾いていることを確認します。
 - ✓ この部分にまだ水分が残っていれば、**雫受けを空にする**通知が再度表示されます。
- 排出接続があるコーヒーマシンの場合は雫受けを取り外して洗うことができます。

9.2 マシンの電源を入れる



⚠ 注意

汚染による感染の危険！

汚染は、感染の原因となることがあります。感染は、健康上の問題を引き起こす可能性があります。

- ☞ 設置、試運転、または再試運転後は、必ず洗浄を行ってください。
- ☞ 数日間マシンを停止する前後には、必ず清掃を行ってください。
- ☞ 初めての飲料の注出前に、ディスプレイの指示に従って洗浄プログラムを実行してください。
- ☞ マシンの電源を切る前に、すすぎを行ってください。

マシンを初めてオンにすると、ディスプレイの指示に従って自動的に試運転が行われます。



図 76: マシンの電源を入れる

- ☞ マシンの電源接続を確認します。
- ☞ オン/オフボタンを短く押します。
 - ✓ シグナル音が鳴ります。
 - ✓ マシンが起動します。
 - ✓ マシンの加熱が開始されます。
 - ✓ 自動で加熱すすぎが開始します。
 - ✓ 必要な温度に達すると、マシンの操作準備が完了します。
 - ✓ タッチスクリーンにユーザーインターフェースが表示されます。
- ✓ マシンはオンです。

9.3 飲料の注出

希望する飲み物のボタンを一回タップすると事前設定されている飲み物が抽出されます。

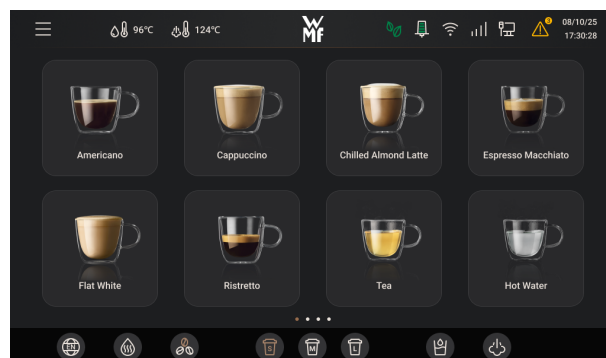


図 77: 飲み物の抽出

- 点灯しているボタン = 注出可能
- ボタンの照明が点いていないまたはステータスバーにグレーの三角 = 注出準備ができていないまたはボタンがロックされている
- ☞ 適切なサイズのドリンク容器を抽出口の下に置きます。
 - ☞ 所望の飲み物ボタンをタップします。

9.4 飲料注出をキャンセルする

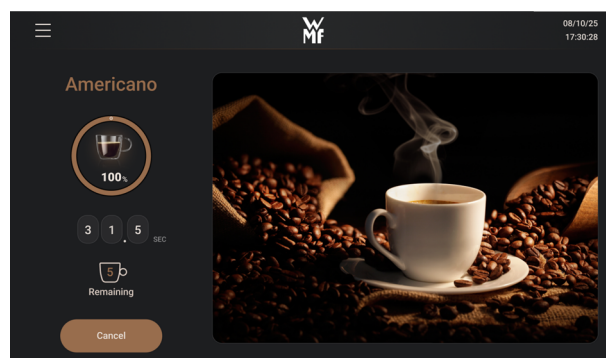


図 78: 飲み物の取消

- ☞ キャンセルをタップします。
- ✓ 飲料の注出はキャンセルされます。

9.5 オプションの飲み物変更



図 79: 例：追加のバリスタボタン

ディスプレイの機能ラインにはオプションでその他のボタンが利用可能です。これらのボタンはディスプレイで飲み物を選択すると表示されます。

標準では、コーヒー豆が2つ表示されます。

豆1つ コーヒー濃度は標準より-15 %。

豆2つ - 標準

豆3つコーヒー濃度は標準より+15%。

特殊ボタン（オプション）



図 80: 例：S-M-Lボタン

特殊ボタンはオプションであり、設定で個別に有効できます。例えば、容量S-M-Lの事前選択は特殊ボタンです。飲み物でS-M-Lの量が利用可能になるように、設定する必要があります。次に**S**または**L**の抽出量を選択してから、飲み物を選択してください。これによってサイズ用に予定されている飲み物ボタンのみ有効になります。

M = 設定された飲み物サイズ、事前選択なし

S = Mより約25%少ない

L = Mより約25%多い

9.6 ミルクまたはミルクフォームの注出

- ☞ 適切なサイズのカップを抽出口の下に置きます。
- ☞ ミルクまたはミルクフォームが割り当てられた飲み物ボタンをタップします。
- ✓ 注出は、レシピ（注入方法、フォームの質など）の設定に応じて行われます。

9.7 熱湯の抽出

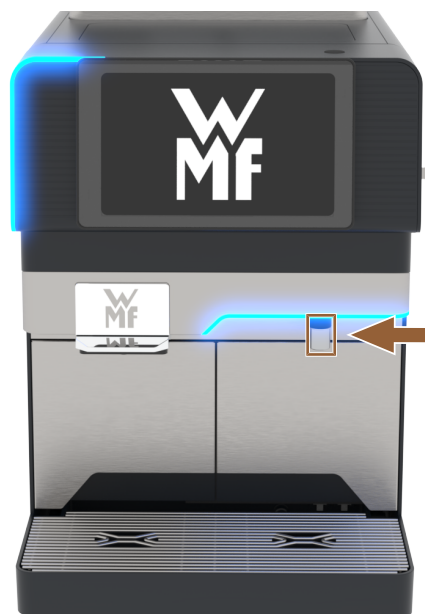


図 81: 熱湯注出口

- ☞ カップまたはマグカップを熱湯出口の下に置いてあることを確認します。

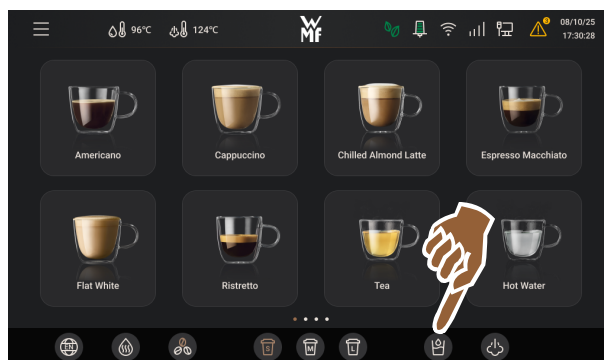


図 82: 熱湯ボタンをタップします

- ☞ 熱湯ボタンをタップします。
- ✓ 熱湯が抽出されます。
- ✓ 熱湯の抽出は設定された水量になると自動的に止まります。

9.8 パウダーの校正

新しい種類のパウダーを使用する毎に校正が必要です。

次の条件を満たしていることを確認してください：

- 前面パネルの開放キー
- 小型コンテナ
- キッチンスケール

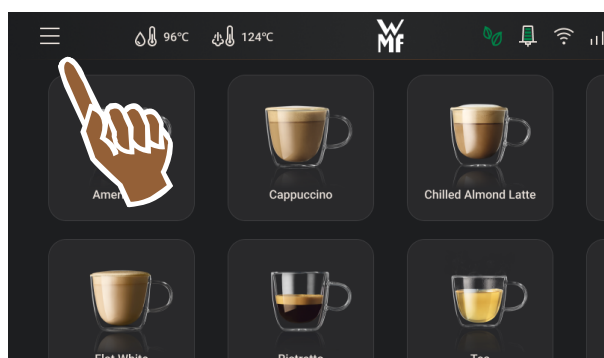


図 83: ハンバーガーメニューをタップします

- ☞ ハンバーガーメニューをタップします。

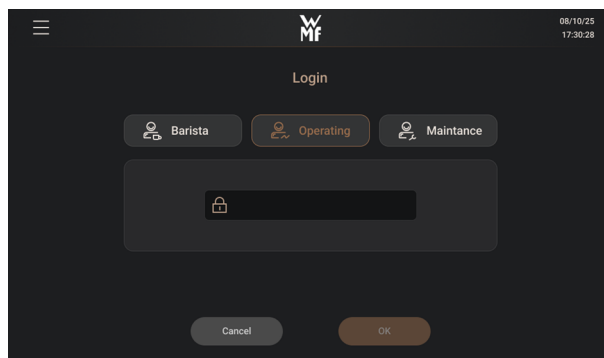


図 84: 操作パスワードを入力してください

☞ 操作パスワードを入力してください。

☞ OKをタップします。

☞ 操作オプションをタップします。

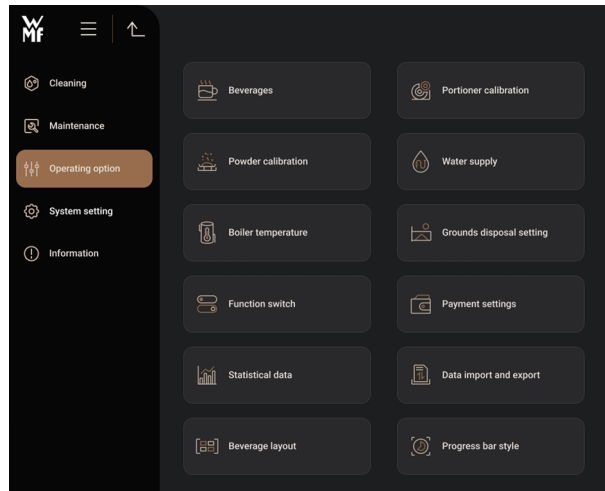


図 85: 操作オプション

☞ パウダーの校正をタップします。

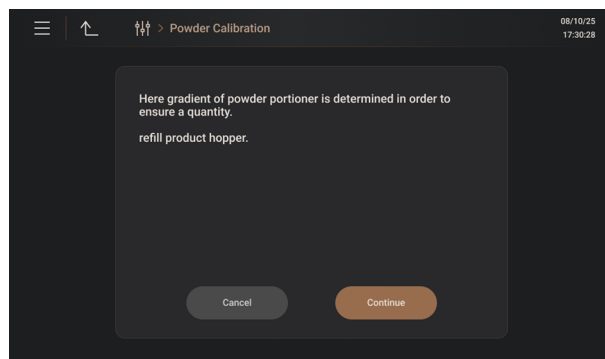


図 86: パウダーの校正

☞ 続けるをタップします。



図 87: コーヒーマシンを開く

☞ コーヒーマシンを開くには右側でキーを使用します。



図 88: ミキサーを引き出す

☞ ミキサーボウルを引き出します。



図 89: 小型コンテナを元の位置にします

☞ 小型コンテナを元の位置にします。

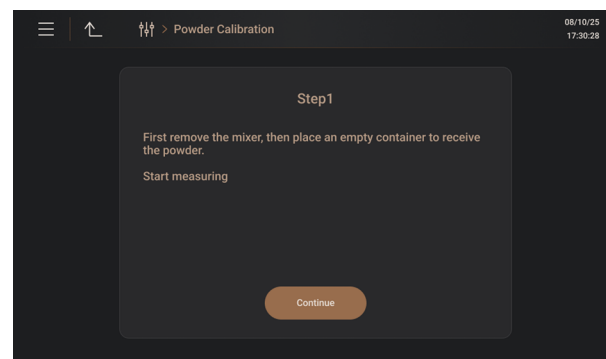


図 90: パウダーの校正

☞ **続ける**をタップすると測定が開始されます。

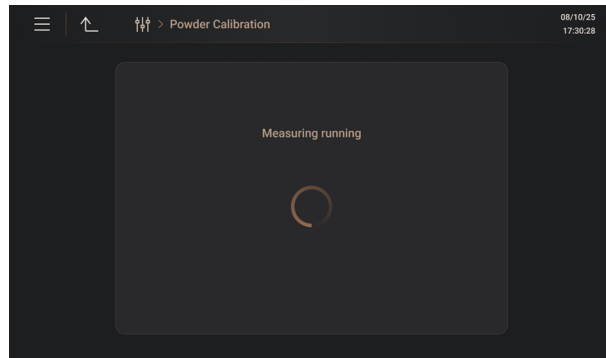


図 91: 測定の開始中です

- ✓ パウダーが小型コンテナに充填されます。

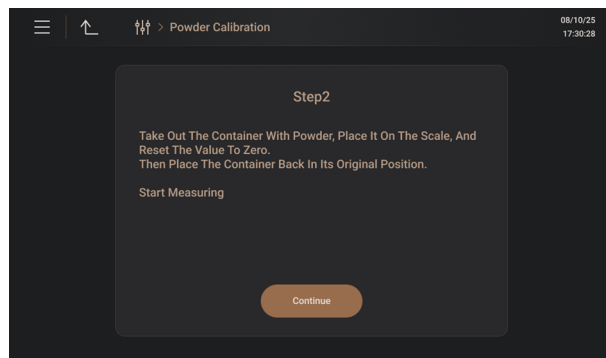


図 92: パウダーの入ったコンテナを取り出します

- ☞ パウダーの入った小型コンテナを取り出します。
- ☞ これをスケールに乗せ、値を0にリセットします。
- ☞ 次にコンテナを元の位置に戻します。
- ☞ **続ける**をタップします。
- ✓ パウダーが小型コンテナに充填されます。
- ☞ 小型コンテナをキッチンスケールに乗せて測定します。

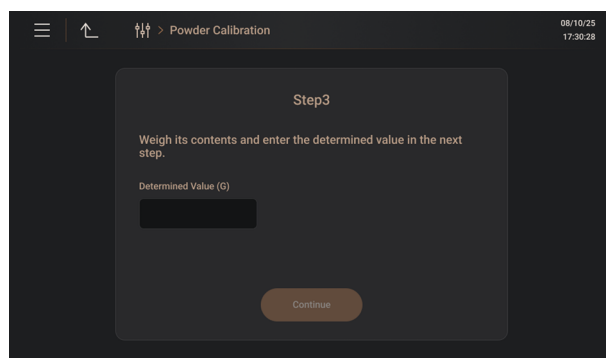


図 93: 決定された値（グラム単位）を入力します

- ☞ 決定された値（グラム単位）を入力します。
- ☞ **続ける**をタップします。

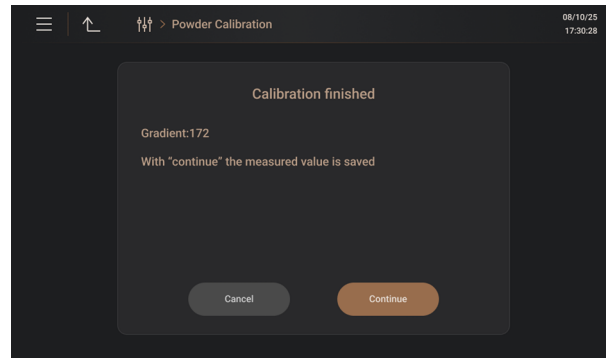


図 94: パウダーの校正は完了しました

☞ **続けるをタップします。**

✓ パウダーの校正は完了しました。

9.9 分配器の校正

新しい種類のコーヒー豆を使用する毎に校正が必要です。

次の条件を満たしていることを確認してください：

- キッチンスケール

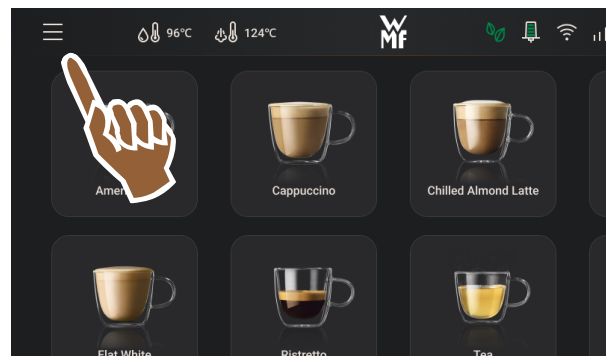


図 95: ハンバーガーメニューをタップします

☞ **ハンバーガーメニューをタップします。**

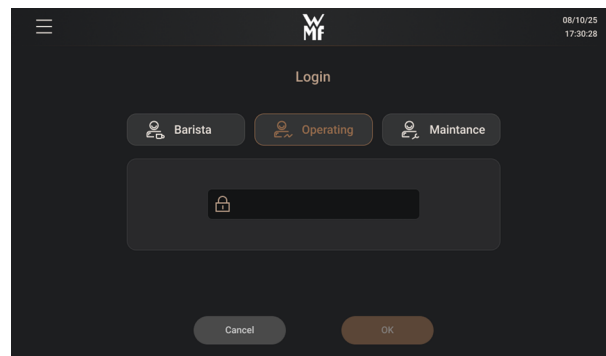


図 96: 操作用パスワードを入力してください

☞ **操作用パスワードを入力してください。**

☞ **OKをタップします。**

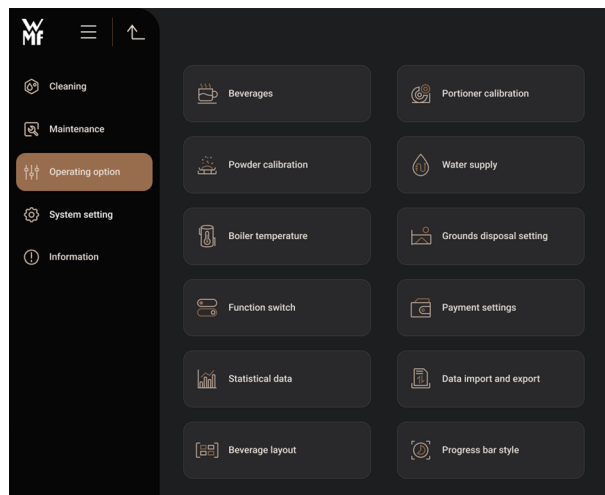


図 97: 操作オプション

☞ 操作オプションをタップします。

☞ 分配器の校正をタップします。

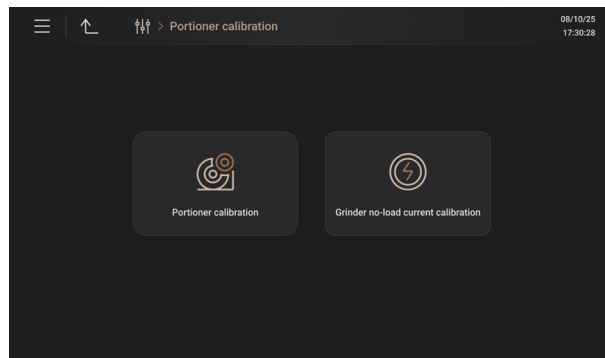


図 98: 分配器の校正

☞ 分配器の校正をタップします。

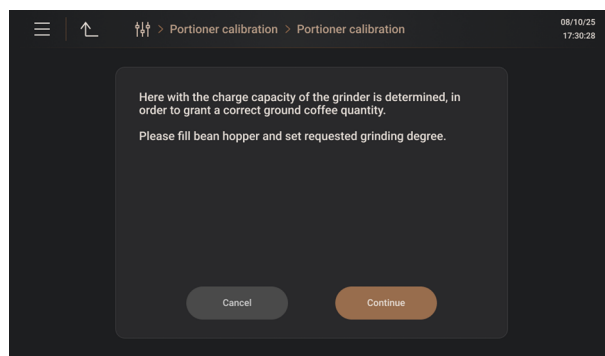


図 99: 分配器の校正

☞ コーヒー豆ホッパーを充填します。

☞ 続けるをタップします。

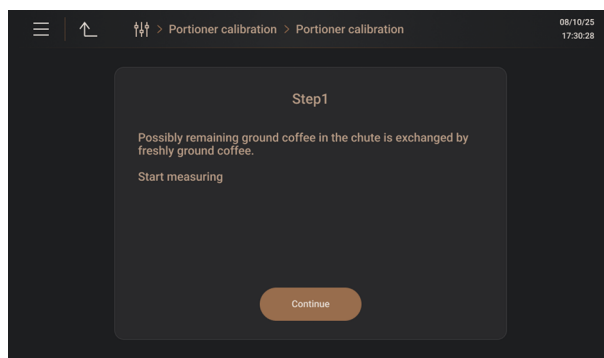


図 100: 分配器の校正

☞ **続ける**をタップします。



注記

シュート内に残っている場合があるコーヒーパウダーは新鮮なコーヒーパウダーで置き換えられます。

- ✓ コーヒーマシンはシュート内に残っているコーヒーパウダーを除去し、蒸きたてのコーヒーパウダーに入れ替えます。

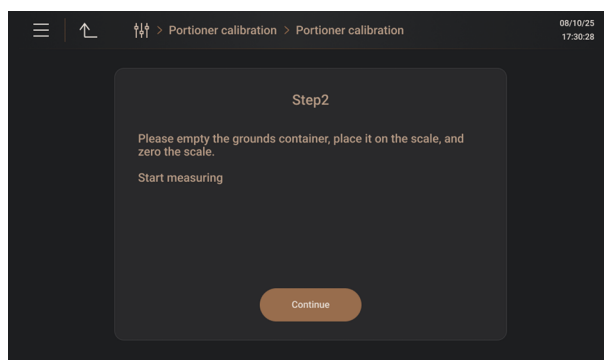


図 101: 分配器の校正

- ☞ カス受けをコーヒーマシンから引き出します。
- ☞ カス受けを空にします。
- ☞ キッチンスケールに空のコンテナを乗せ、0 に自重調整します。
- ☞ カス受けをコーヒーマシンに挿入します。
- ☞ **続ける**をタップすると測定が開始されます。
- ✓ これでコーヒーマシンがコーヒー豆を挽き、コーヒーパウダーをカス受けの中に空けます。
- ☞ カス受けをコーヒーマシンから引き出します。
- ☞ コーヒーパウダーごとカス受けの重さを計ります。

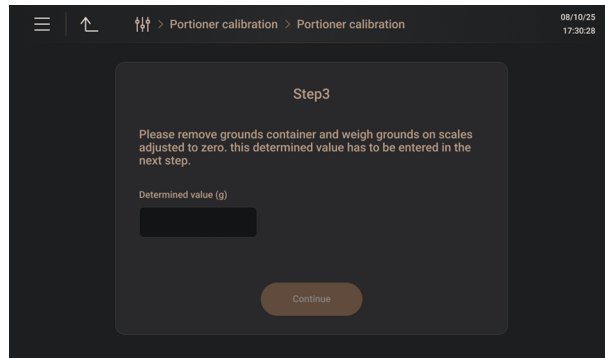


図 102: 測定された重さを入力します

- ☞ コーヒーパウダーの測定された重さを入力します。
- ☞ カス受けをコーヒーマシンに挿入します。

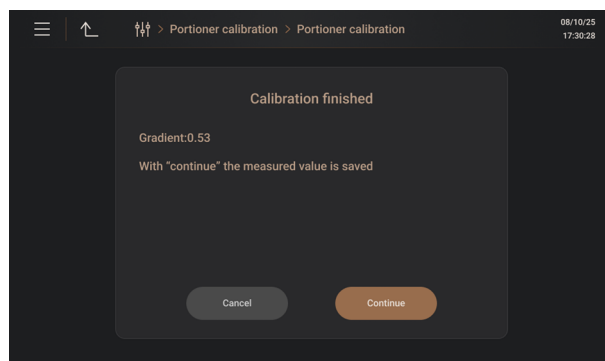


図 103: 校正完了

- ☞ **続ける**をタップします。
- ✓ 校正は完了しました。

9.10 マシンの電源をオフにする



⚠ 注意

汚染による感染の危険！

汚染は、感染の原因となることがあります。感染は、健康上の問題を引き起こす可能性があります。

- ☞ 設置、試運転、または再試運転後は、必ず洗浄を行ってください。
- ☞ 数日間マシンを停止する前後には、必ず清掃を行ってください。
- ☞ 初めての飲料の注出前に、ディスプレイの指示に従って洗浄プログラムを実行してください。
- ☞ マシンの電源を切る前に、すすぎを行ってください。



⚠ 注意

マシンのすすぎによる火傷の危険！

マシンのすすぎ中に、熱湯が飲料注出口から流れ出します。

- ☞ マシンのすすぎ中は、飲料注出口の下に手を伸ばさないください。

**注記**

指示に従わなかった場合、保証は適用されません！

安全に関する指示および対処に関する指示に従わなかった場合、物的損傷が発生しても保証は適用されません。

☞ マシンの物的損傷を防ぐため、取扱説明書の安全に関する指示および対処に関する指示に従ってください。



図 104: マシンの電源をオフにする

ディスプレイの上部にオン/オフ押しボタンがあります。

☞ オン/オフボタンを短く押します。（約1秒）。

✓ マシンはオフになっています。

**注記**

短くこのボタンを押せばマシンは通常の洗浄プロセスを経て電源が切れ、5秒間長押しすると（画面に秒読みが表示される）強制シャットダウンされます

☞ コンセントから電源プラグを抜きます。

☞ 給排水管接続付きマシンの場合は給水ラインの栓を閉めます。

☞ マシンはオフになっています。

10 クリーニング

確実かつ障害の無い運用のためにはクリーニングが必須の条件です。従ってクリーニングは最も肝要であり、説明された規定に従って行ってください。

クリーニングのキャンセル

クリーニングプロセスが正しく完了した場合にのみ、マシンは操作可能な状態になります。

(電源障害などにより) 不完全または不正確に完了した洗浄プロセスは、必ず繰り返して行う必要があります。



警告

資格不足による怪我の危険！

専門的に正しく取り扱わないと重大な負傷や物損につながるおそれがあります。

以下の作業は、使用会社からの指導を受けた者のみが行うことができます。



注意

滑る危険による怪我！

液体がこぼれると、マシン周囲の床が濡れた状態になることがあります。これにより、滑って転倒し、怪我をする危険があります。

👉 床に液体がこぼれた場合は、すぐに拭き取ってください。

👉 床に大量の液体がこぼれた場合は、移動式の警告標識で注意喚起してください。



注意

高温の液体による火傷の危険！

飲料、熱湯およびスチームが出る箇所では火傷のおそれがあります。

👉 これらが出ている間、またはクリーニング中は商品の注出場所に手を触れないでください。

👉 クリーニング前には、誤操作を防ぐため、必ず操作ユニットをロックしてください。



注意

汚染による感染の危険！

汚染は、感染の原因となることがあります。感染は、健康上の問題を引き起こす可能性があります。

👉 設置、試運転、または再試運転後は、必ず洗浄を行ってください。

👉 数日間マシンを停止する前後には、必ず清掃を行ってください。

👉 初めての飲料の注出前に、ディスプレイの指示に従って洗浄プログラムを実行してください。

👉 マシンの電源を切る前に、すすぎを行ってください。

10.1 洗浄間隔の概要

洗浄プログラム

毎日	週1回	定期的	自動的	メッセージ
	X			システムの完全洗浄
X				パウダーシステムのすすぎ
X				ミルクシステムのすすぎ
		X		抽出器システムのすすぎ

カルキ除去

毎日	週1回	定期的	自動的	メッセージ
				X カルキ除去

手動クリーニング

毎日	週1回	定期的	自動的	メッセージ
X				操作パネルの洗浄 (CleanLock)
X				カス受けを洗浄する
	X			水タンクの洗浄
X				雫受けの洗浄
X				筐体の洗浄
		X		注出口の手動洗浄
				X 抽出器のお手入れ
		X		抽出ユニットを洗浄してください
	X			ミルクシステムの手動洗浄
(X)	X			ミキサーをクリーニングします*
		X		コーヒー豆ホッパーの洗浄
		X		パウダーホッパーをクリーニングします*

毎日：	毎日、少なくとも1日1回、さらに必要な場合
週1回：	週1回の洗浄
定期：	必要であれば定期的
自動：	自動コース
(X)	ひどい汚れの場合は毎日
*	オプション（機種により異なる）

10.2 食器洗い機に適した機械部品

記載されている部品は食器洗い機での洗浄に適しています。ここに記載されていない一切の部品は食器洗い機には適していません。

- カス受け
- 雫受け
- 雫受けグリッド
- 蓋を除く拡張コンテナー
- 蓋を除くパウダーホッパー

10.3 手動クリーニング

さまざまなコンポーネントは、手動でクリーニングする必要があります。

10.3.1 カス受けの洗浄

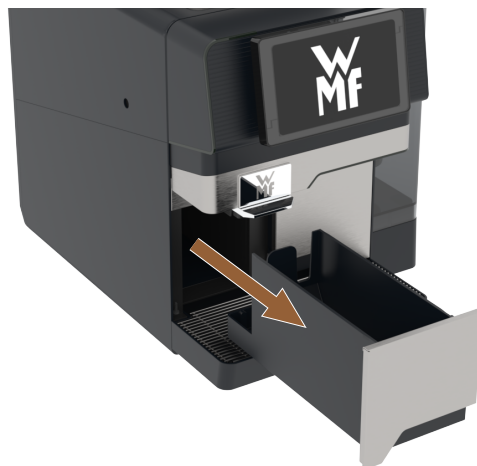


図 105: カス受けを引き抜きます

- ☞ カス受けをコーヒーマシンから引き出します。
- ☞ カス受けを空にして、清掃します。
- ☞ カス受けを流れる飲料水で洗い流します。
- ☞ カス受けを湿らせた布できれいに拭き乾かします。
- ☞ 洗浄したカス受けをマシンに挿入します。
- ☞ ディスプレイの手順を確認します。
- ✓ カス受けの清掃は以上です。

10.3.2 抽出ユニットを洗浄してください



⚠ 注意

可動部品による挟み込みの危険!

マシンには可動部分があり、それにより指や腕を負傷する可能性があります。抽出ユニットを取り外す時に挟まれ危険があります。

- ☞ コーヒーグラインダーの中や抽出ユニットの開口部に指を入れる前にマシンを必ずオフにして、電源網から切断してください。



⚠ 注意

高温の表面に注意!

注出場所および抽出ユニットは高温になる場合があります。

- ☞ マシンの高温パーツには絶対に触れないでください。
- ☞ 飲料注出口は、指定された箇所のみに触れてください。
- ☞ 抽出ユニットは、マシンが冷えた状態で取り外してください。

抽出ユニットをアクセス可能にする

抽出ユニットは必要に応じて洗浄してください。

- ☞ マシンの電源が切れるまでオン/オフスイッチを押します。
- ☞ マシンを電源から外してください。



図 106: コーヒー豆ホッパーを開けます

- ☞ 付属のマルチツールでコーヒー豆ホッパーを開け、蓋を上げて取り外します。



図 107: コーヒー豆ホッパーをロック解除

- ☞ コーヒー豆ホッパー内のレバーを回すと抽出口が閉まります。
- ☞ コーヒー豆ホッパーをロック解除してコーヒー豆が漏れ出ないようにします。
- ☞ コーヒー豆ホッパーに残っている豆を取り出してください。



図 108: 背面パネルを取り外します

- ☞ 背面パネルを取り外します。



注記

抽出ユニットの落下による物損！

抽出ユニットは下へ滑り落ちることがあります。

- ☞ 抽出ユニットは取り外しおよび取り付け時に必ずしっかり持ってください。
- ☞ 破損する危険があるため、その際無理な力を入れないでください。



注記

不適切なクリーニングによる抽出ユニットの損傷！

抽出ユニットが洗浄剤または食器洗浄機によって損傷することがあります。

- ☞ 抽出ユニットは水でのみ洗浄してください。
- ☞ 抽出ユニットを食器洗浄機で洗浄しないでください。

抽出ユニットを取り出す

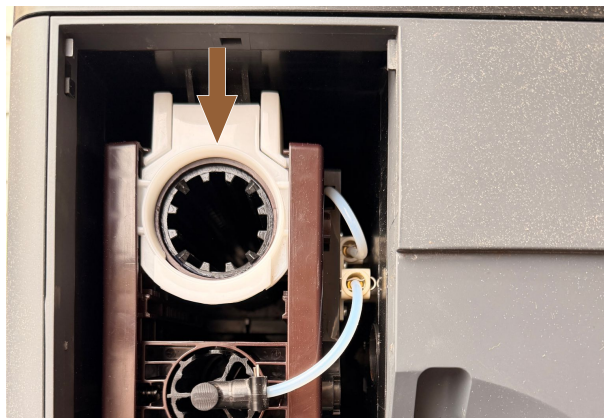


図 109: 白の抽出器ロック

- ☞ 白の抽出器ロックをディスプレイ方向に引き出します。
 - ☞ 抽出器を引き上げると取り外せます。
 - ☞ こし器を流水または布できれいにします。
 - ☞ 残ったコーヒー粉を刷毛またはブラシで取り除きます。
 - ☞ 抽出ユニットを流水ですすぎます。
 - ☞ 抽出ユニットは布で拭き取って乾かします。抽出ユニットがマシンへの組込み前に完全に乾いていることにご注意ください。
 - ☞ シュートからコーヒーの残りかすを取り除きます。
 - ☞ コーヒー粉を手前に掃き出すか掃除機で吸い取ります。
 - ☞ 抽出ユニットをロックが掛かるまで真っ直ぐ押し下げます。
 - ☞ カス受けを取り付けます。
 - ☞ 雫受けを取り付けます。
- 抽出ユニットを無理なく取り付けることができない時は、
- ☞ 抽出ユニットのヘッドにあるねじを、抽出ユニットがガイドに滑り込むまで、マルチツールで左または右に少し回します。

10.3.3 水タンクの洗浄



図 110: 水タンクの洗浄

- ☞ 毎週水タンクを清潔な水で丁寧にすすぎ流してください。

10.3.4 雫受けの洗浄



⚠ 注意

高温の液体による熱傷の危険！

雫受けの中に熱い液が溜まっていることがあります。

- 👉 雫受けを注意して動かしてください。
- 👉 雫受けを慎重に再度取り付け、不意に液体が漏れ出ないようにしてください。



📌 注記

浸水による物的損傷の危険！

雫受けの廃水出口が詰まると、雫受けが浸水します。

クリーニングとカルキ抜きの前に：

- 👉 廃水出口が詰まっていないことを確認します。
- 👉 廃水出口の排出速度を確認します。



図 111: 雫受けの取り外し

- 👉 外側から雫受けを少し浮かせ、マシンから抜き取ります。
- 👉 雫受けグリッドを取り出して洗浄ブラシできれいにします。
- 👉 雫受けをよく清掃します。
- 👉 雫受けをすすぎ長して雫受けグリッドを清水で洗い流します。
- 👉 雫受けと雫受けグリッドを乾かします。
- 👉 雫受けグリッドと雫受けを組み立て、マシンに再び取り付けます。
- ✓ 雫受けの清掃は以上で完了です。



注記

雫受けの下側および雫受けセンサー近辺は、取り付け前に乾燥している必要があります。センサーは雫受けの右下にあります。この部分にまだ水分が残っていれば、**雫受けを空にする**通知が再度表示されます。

10.3.5 外面の清掃



注意

ハウジング底面の鋭いエッジによる切り傷の危険！



マシンの下側やマシンの下のカウンター（マシン脚部が高い場合）を清掃するとき、ハウジング底面の鋭いエッジで切り傷を負う恐れがあります。

☞ マシンの下側やマシンの下のカウンターを清掃するときは、手袋を着用してください。



注記

不適切なクリーニングによるマシン表面の損傷！

不適切なクリーニングは、マシンの表面に傷やその他の損傷を与える可能性があります。

☞ クリーニングには、柔らかい布を使用してください。

☞ 中性洗剤のみを使用してください。

☞ 強アルカリ性、アルコール含有、脱脂性の洗剤や研磨剤は使用しないでください。

アルカリ性洗浄液、アセトンのような溶剤、炭素、四塩化炭素、塗料用シンナー、または5%を超えるアルコールを使用すると耐性の問題があります。アンモニア、ベンゼン、グリセリン、キシレン、研磨剤、脱脂洗浄剤、ガラス用の強力なスプレー洗浄剤も同様に適していません。

☞ オン/オフスイッチでコーヒーマシンのスイッチを切ります。

☞ マシンが自然に冷めるのを待ちます。

☞ マシンの外側表面を、湿らせた清潔な布で拭いてください。

☞ きめ細かいウールの布で表面を擦ります。

✓ マシンケースは以上でクリーニング完了です。

10.3.6 ミルクシステムの手洗い

次の条件を満たしていることを確認してください：

- 前面パネルの開放キー
- クリーニング・ブラシ
- WMF専用洗浄剤
- 500 ml コンテナ
- 3ℓ コンテナ

ミルクシステムのすすぎでは、ミルクホースおよびミルクフォーム発生器をすすぎます。



⚠ 注意

マシンのすすぎによる火傷の危険！

マシンのすすぎ中に、熱湯が飲料注出口から流れ出します。

☞ マシンのすすぎ中は、飲料注出口の下に手を伸ばさないください。

ミルクシステムのすすぎ開始

ミルクシステムのすすぎは独立的に開始できます。これは、ミルク飲料の注出間に長い休止期間がある場合には有効です。

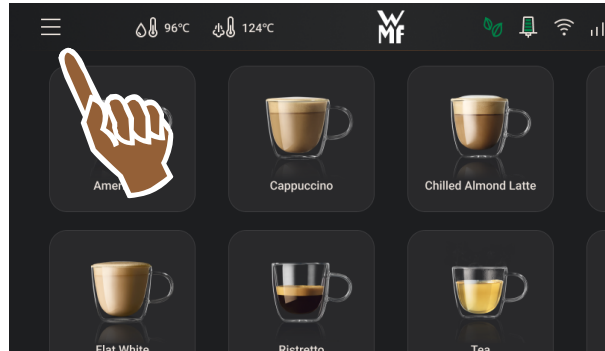


図 112: ハンバーガーメニューをタップします

☞ ハンバーガーメニューをタップします。

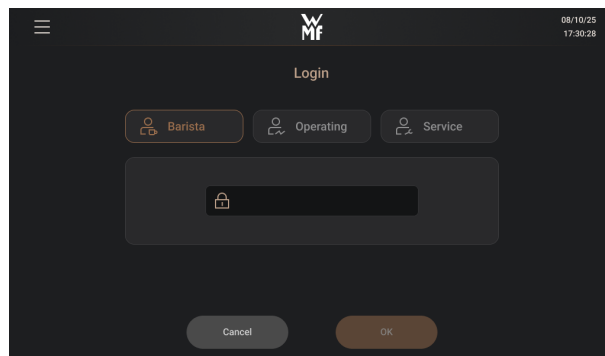


図 113: バ리스タパスワードを入力します

☞ **バリスタ**パスワードを入力します(デフォルトでこのパスワードは2026となっています)。

☞ **OK**をタップします。

☞ **クリーニング**メニューをタップします。

☞ ミルクホースを付属アダプター(クリック・アンド・クリーン)で熱湯抽出口に接続します。

☞ **ミルクシステムのクリーニング**をタップします。

☞ すすぎが完了したらコーヒーマシンの電源プラグを抜きます。

ミルクシステムのクリーニング開始

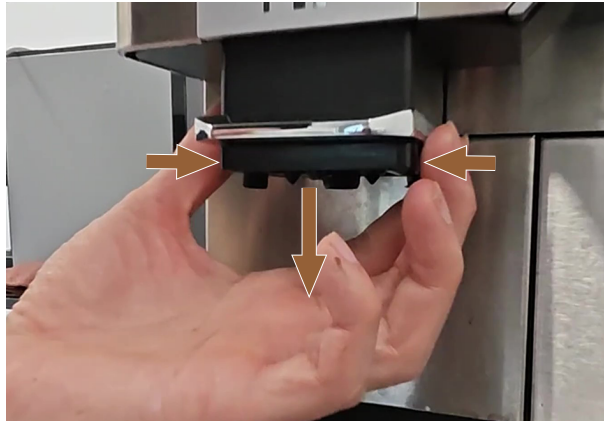


図 114: 複合抽出口を取り外す

☞ 二個の解除用タブを押すと複合抽出口を取り外すことができます。

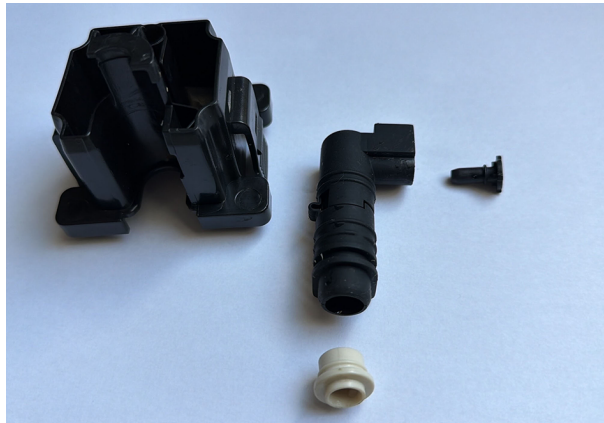


図 115: 複合抽出口の分解

☞ 複合抽出口を個々の部品に分解します。



図 116: すべての部品を洗淨します

☞ 温かい流水ですべての部品をよく洗ってください。



図 117: コーヒーマシンを開く

☞ コーヒーマシンを開くには右側でキーを使用します。



図 118: 上カバーを取り外す

☞ バックルを押し下げると上カバーを取り外せます。



図 119: ホルダーからミルクホースを引き出します

☞ 引きタブでミルクホースをホルダーから引き出します。

☞ コーヒーマシンからホースを引き抜きます。



図 120: クリーニングにはブラシをご使用ください

- ☞ 付属のブラシで届きにくい箇所やミルクノズル、ミルクホースを洗ってください。

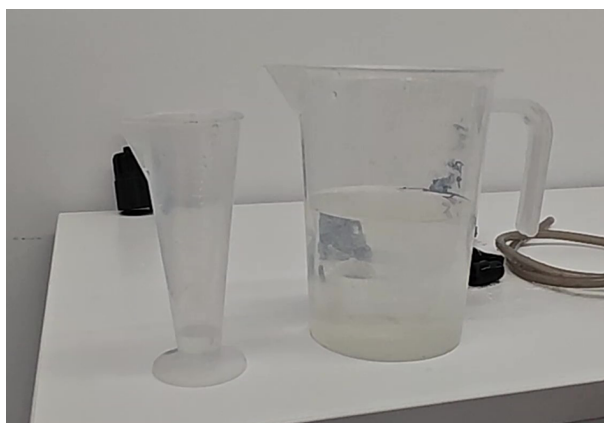


図 121: クリーニング液の調製

- ☞ クリーニング液の調製 – WMF専用洗浄剤 5 ml をぬるま湯 500 ml に添加します。注意事項：専用洗浄剤には用量決定ツールが付属しています。



図 122: すべてのミルクが通る部品を洗浄液に漬けます

- ☞ すべてのミルクが通る部品を5時間以上洗浄液に漬けておきます。すべての部品が完全に沈むようにしてください。
- ☞ 漬け込み後に清水で部品をすすぎ、完全に乾燥させます。
- ☞ すべての部品を逆順に組み立てます。
- ☞ ミルクホースのノズルを複合抽出口に差し込んでください。次に複合抽出口を元に取り付けます。
- ☞ コーヒーマシンを閉めます。

- ☞ コーヒーマシンのプラグを電源コンセントに差し込みます。
- ✓ コーヒーマシンは使用準備ができました。

10.3.7 ショック・ミキサーのクリーニング

ショック・ミキサーは週一回洗ってください。

次の条件を満たしていることを確認してください：

- 前面パネルの開放キー



図 123: コーヒーマシンを開く

- ☞ コーヒーマシンを開くには右側でキーを使用します。



図 124: ミキサーを引き出す

- ☞ ミキサーをハンドルごと引き出して取り外します。
- ☞ ミキサーから白のチューブを丁寧に外してください。
- ☞ 蓋を取り外し、ぬるま湯で部品を両方とも洗います。



図 125: ミキサーを組み立てる

- ☞ 完全に乾燥させてから組み立ててください。
- ☞ ミキサーをコーヒーマシンに元通り挿入して白のチューブを再度接続します。
- ☞ ミキサーがコーヒーマシン内に確実に固定されていることを確認してください。
- ☞ 前面パネルを閉めます。
- ✓ コーヒーマシンは使用準備ができました。

10.3.8 コーヒー豆ホッパーとパウダーホッパーのクリーニング

次の条件を満たしていることを確認してください：

- 前面パネルの開放キー
- クリーニング・ブラシ
- コーヒーマシンは電源が切れている。
- コーヒーマシンは電源から切断されている。

コーヒー豆ホッパーのクリーニング開始



図 126: コーヒー豆ホッパーを開けます

- ☞ 付属のマルチツールでコーヒー豆ホッパーを開け、蓋を上げて取り外します。



図 127: コーヒー豆ホッパーをロック解除

- ☞ コーヒー豆ホッパー内のレバーを回すと抽出口が閉まります。
- ☞ コーヒー豆ホッパーをロック解除してコーヒー豆が漏れ出ないようにします。
- ☞ コーヒー豆ホッパーに残っている豆を取り出してください。
- ☞ コーヒー豆ホッパーを湿らせた布でクリーニングします。
- ☞ コーヒー豆ホッパーを完全に乾燥させてください。
- ☞ コーヒー豆ホッパーを挿入しレバーを回してロックします。
- ☞ コーヒー豆ホッパーにコーヒー豆を満たします。
- ☞ マルチツールでコーヒー豆ホッパーの蓋を閉めます。

パウダーホッパーのクリーニング開始



図 128: コーヒーマシンを開く

- ☞ コーヒーマシンを開くには右側でキーを使用します



図 129: 回転ノブを回してロック解除します

- ☞ 回転ノブを回してパウダーホッパーをロック解除します。
- ☞ パウダーホッパーを取り外します。
- ☞ 付属のマルチツールでパウダーホッパーを開け、蓋を上げて取り外します。
- ☞ パウダーホッパーから粉を取り除きます。
- ☞ 湿らせた布でパウダーホッパーをクリーニングしてください。
- ☞ パウダーホッパーをコーヒーマシンに戻します。
- ☞ 回転ノブを回してパウダーホッパーをロックします。
- ☞ 前面パネルを閉めます。
- ☞ コーヒーホッパーに新鮮なコーヒーパウダーを満たします。
- ☞ コーヒーマシンを再度電源に接続します。
- ☞ コーヒーマシンの電源を入れます。
- ✓ コーヒーマシンは使用準備ができました。

10.4 洗淨プログラム

クリーニング・プログラムとすすぎプログラムはこの部分にあります。



警告

洗剤による中毒の危険！

洗剤を飲み込んだり、蒸気を吸い込んだりすると、中毒症状が発生するおそれがあります。



☞ メーカーによって承認された洗剤のみを使用してください。



☞ 洗剤使用前には、パッケージの情報および安全データシートに注意深く目を通してください。安全データシートがない場合は、販売パートナーに請求してください。



☞ 洗剤はお子様や関係者以外の人物の手の届かない場所に置いてください。



☞ 素手で洗剤に触れたり、口に入れないでください。

☞ 洗剤は決してその他の化学物質と混合しないでください。

☞ 洗剤およびカルキ抜きはそれぞれ指定の用途にのみ使用してください（ラベルを参照）。

☞ 洗剤使用中は飲食をしないでください。

☞ 洗剤使用中はしっかりと換気が行われていることに注意してください。

☞ 洗剤使用中は、保護手袋と保護メガネを着用してください。

☞ 洗剤使用後はすぐに丁寧に手を洗ってください。



注意

高温の液体による火傷の危険や健康上の問題リスク！

洗浄プログラム中は、高温の洗浄液と熱湯が排出されます。洗浄液は、健康上の問題を引き起こす可能性があります。高温の液体は火傷の原因となることがあります。

☞ クリーニングを開始する前に、電受けグリッドを取り外してください。

☞ 清掃中は飲み物抽出口と熱湯抽出口の下に手を入れないでください。

☞ 洗浄中に飲み物容器を飲み物抽出口や熱湯抽出口の下に置かないでください。

10.4.1 抽出システムのすすぎ

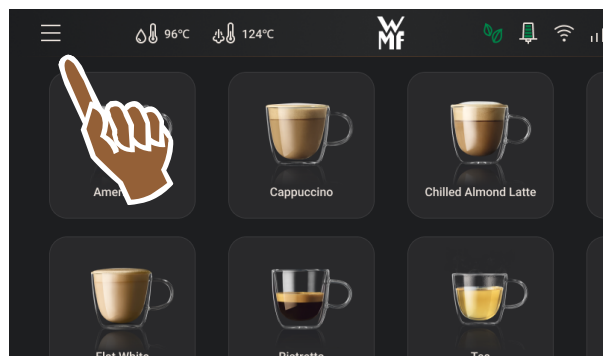


図 130: ハンバーガーメニューをタップします

☞ ハンバーガーメニューをタップします。

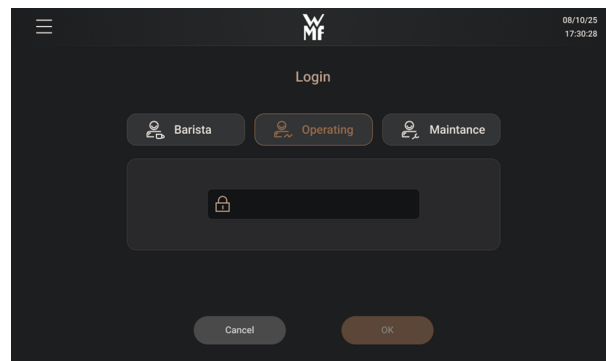


図 131: 操作パスワードを入力してください

- ☞ **操作**パスワードを入力してください。
- ☞ **OK**をタップします。
- ☞ **クリーニング**をタップします。

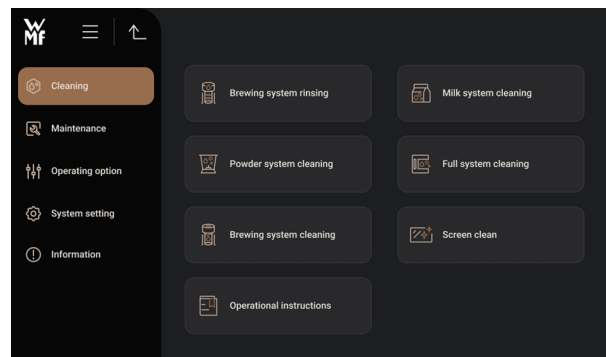


図 132: クリーニングメニュー

- ☞ **抽出システムのすすぎ**をタップします。

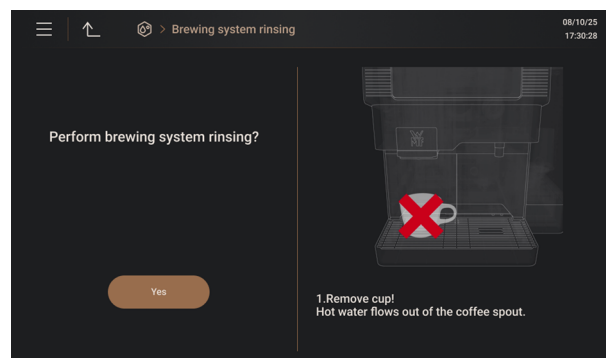


図 133: 抽出システムのすすぎ

- ☞ **カップ**を取り除きます。
- ☞ **はい**をタップします。

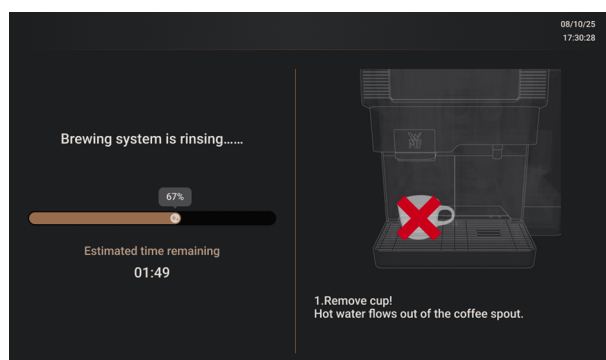


図 134: 抽出システムのすすぎ

✓ 抽出システムのすすぎは開始中です。

10.4.2 ミルクシステムのクリーニング

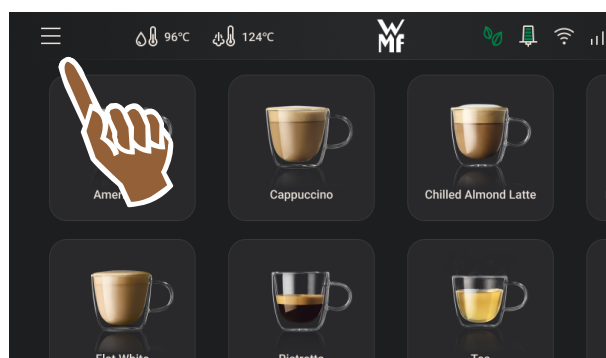


図 135: ハンバーガーメニューをタップします

☞ ハンバーガーメニューをタップします。

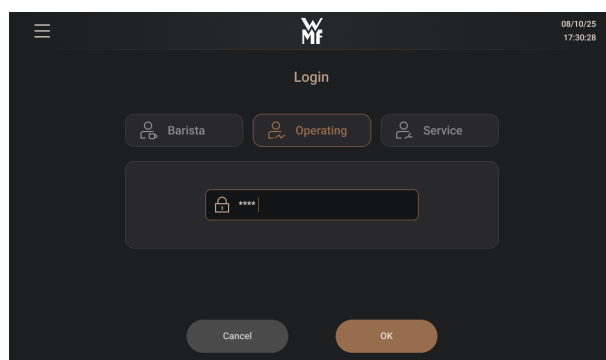


図 136: 操作用パスワードを入力してください

☞ 操作用パスワードを入力してください(デフォルトパスワードは2026)。

☞ OKをタップします。

☞ クリーニングをタップします。

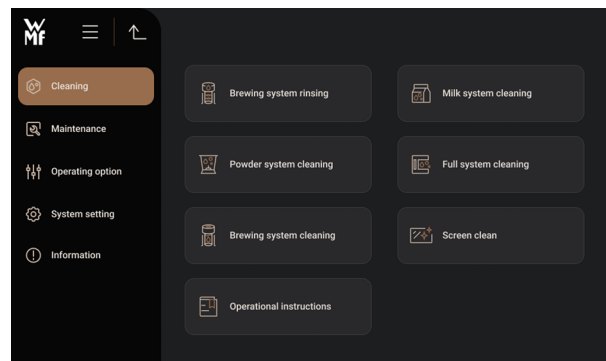


図 137: クリーニングメニュー

☞ ミルクシステムのクリーニングをタップします。

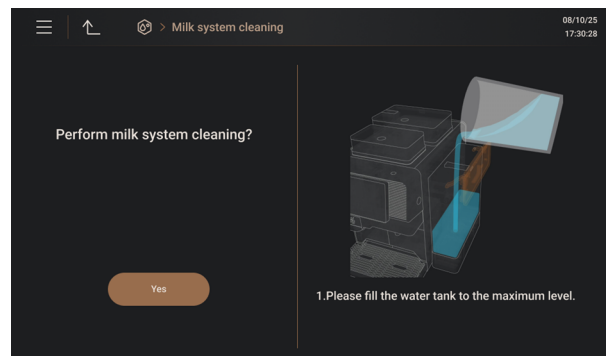


図 138: ミルクシステムのクリーニング

☞ はいをタップします。

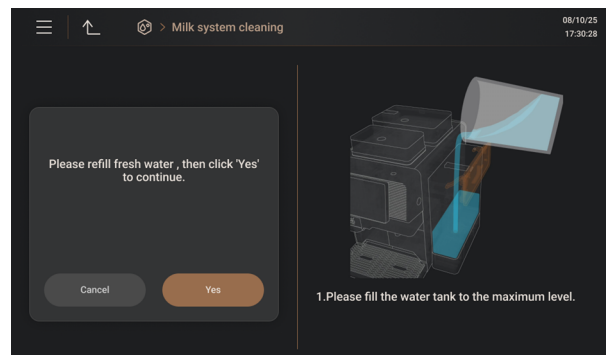


図 139: クリーニングメニュー - ミルクシステムのクリーニング

☞ 水タンクを一杯に満たします。

☞ はいをタップします。

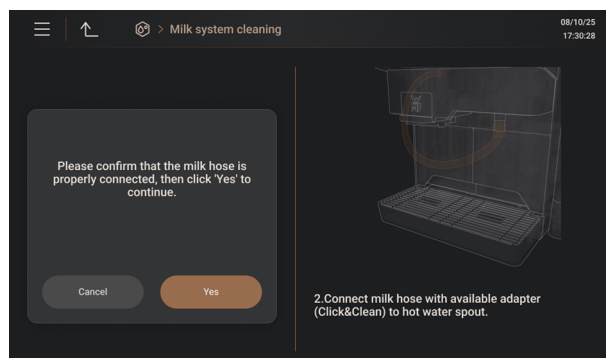


図 140: クリーニングメニュー - ミルクシステムのクリーニング

☞ ミルクホースが正しく接続されていることを確認してください。

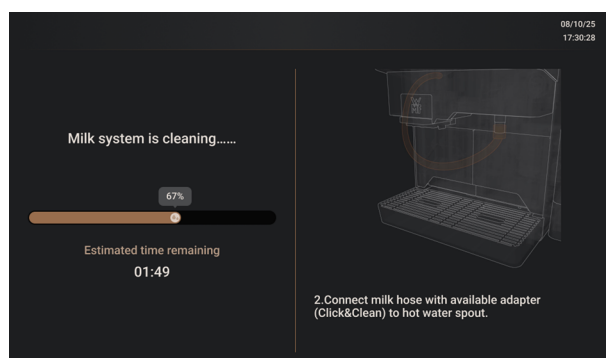


図 141: クリーニングメニュー - ミルクシステムのクリーニング

✓ ミルクシステムのクリーニングが開始されます。

10.4.3 パウダー・システムのクリーニング

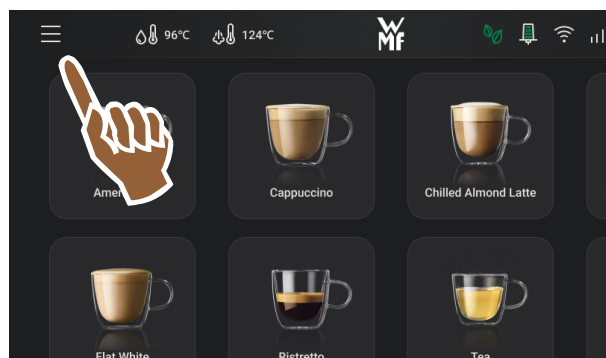


図 142: ハンバーガーメニューをタップします

☞ ハンバーガーメニューをタップします。

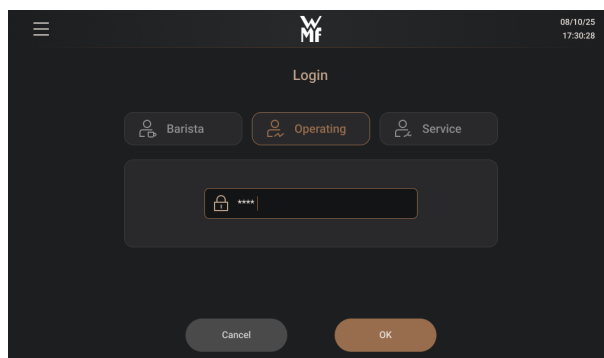


図 143: 操作用パスワードを入力してください

- ☞ 操作用パスワードを入力してください(デフォルトパスワードは2026)。
- ☞ OKをタップします。
- ☞ クリーニングをタップします。

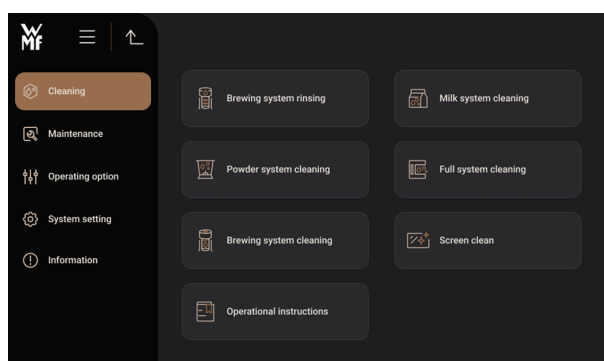


図 144: クリーニングメニュー

- ☞ パウダー・システムのクリーニングをタップします。
- ☞ はいをタップします。

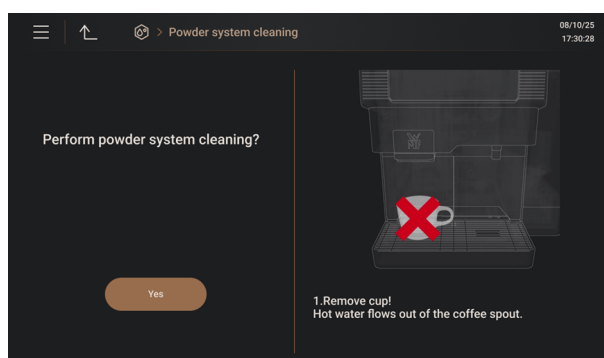


図 145: パウダー・システムのクリーニング

- ☞ カップを取り除きます。
- ☞ はいをタップします。
- ✓ パウダー・システムのクリーニングが開始されます。

10.4.4 システムの完全洗浄

システムの完全洗浄は自動洗浄プログラムで実行され、特殊洗浄タブレットでコーヒーマシンのコーヒースystemを洗浄します。

ミルクシステムのすすぎおよびミキサーのすすぎは、システム洗浄の一部です。

次の条件を満たしていることを確認してください：

- 洗浄タブレット
- 3ℓ コンテナ

☞ 注出口はシステム清掃前に外部から湿らせた布できれいにしてください。

☞ 抽出口は適当なブラシできれいにします。

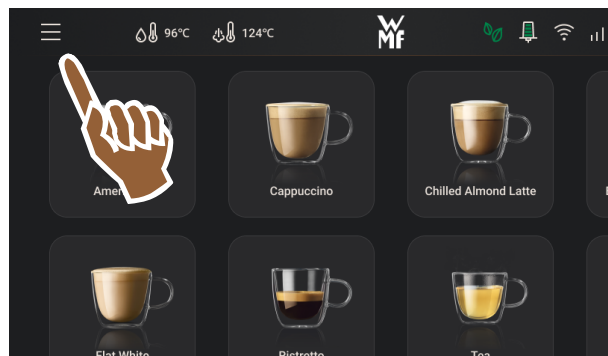


図 146: ハンバーガーメニューをタップします

☞ ハンバーガーメニューをタップします。

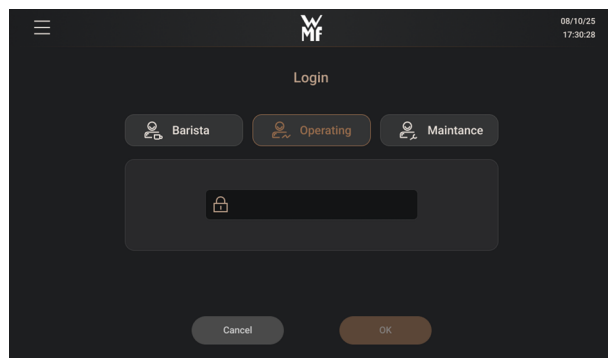


図 147: 操作パスワードを入力してください

☞ 操作パスワードを入力してください。

☞ OKをタップします。

☞ クリーニングをタップします。

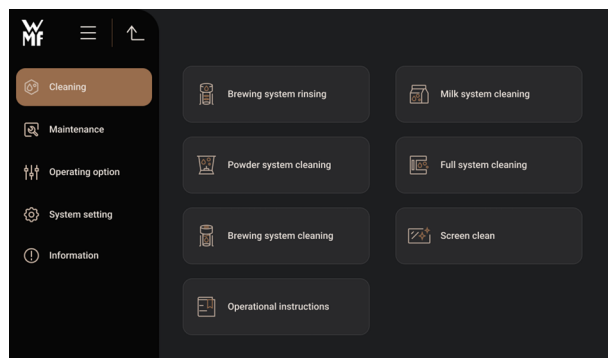


図 148: クリーニングメニュー

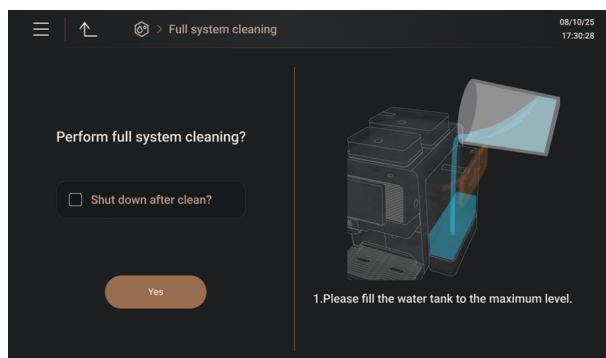


図 149: システムの完全洗浄

☞ システムの完全洗浄をタップします。

✓ 洗浄後に電源を切りますか？のダイアログが出ます。

✓ はいで、洗浄後にコーヒーマシンの電源が切れます。

✓ いいえで、洗浄後にコーヒーマシンが再起動します。

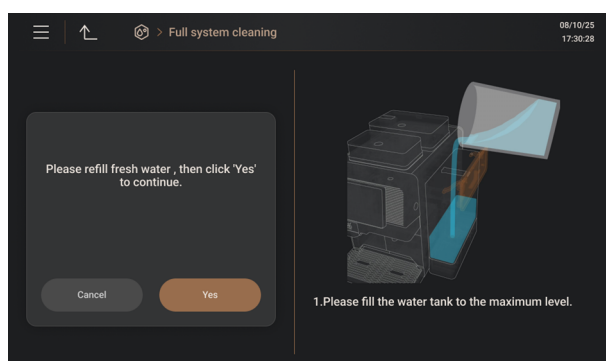


図 150: クリーニングメニュー - システムの完全洗浄

☞ 清水を再充填します。

☞ はいをタップします。

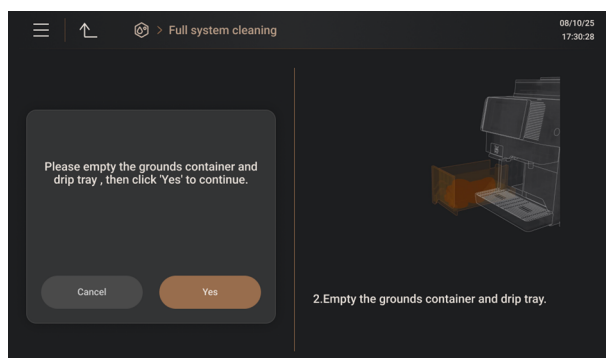


図 151: クリーニングメニュー - システムの完全洗浄

☞ カス受けを取り外します。

☞ カス受けを空にします。

☞ はいをタップします。

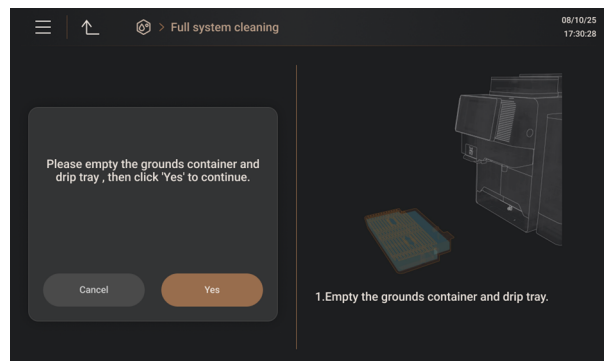


図 152: クリーニングメニュー - システムの完全洗浄

- ☞ 雫受けを取り外します。
- ☞ 雫受けを空にします。
- ☞ 雫受けとカス受けを元通り入れます。
- ☞ ミルクホースを付属アダプター(クリック・アンド・クリーン)で熱湯抽出口に接続します。

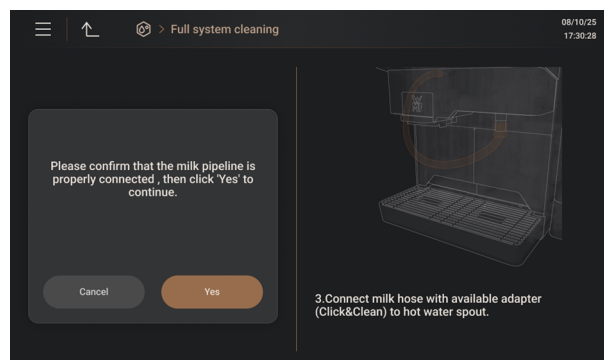


図 153: クリーニングメニュー - システムの完全洗浄

- ☞ ミルクホースが熱湯抽出口に接続されていることを確認してください。
- ☞ はいで、クリーニングプログラムを開始します。

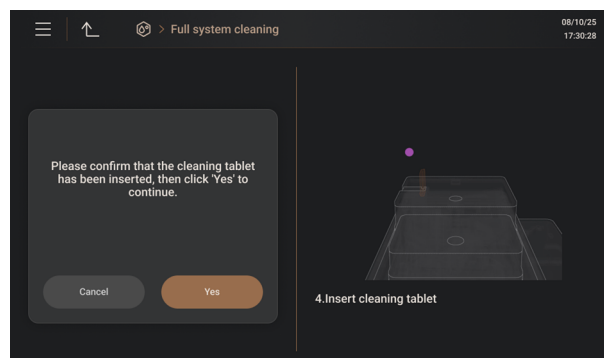


図 154: クリーニングメニュー - システムの完全洗浄

- ☞ 手動投入口の蓋を開けます。



図 155: 洗浄タブレットを入れます

- ☞ 手動挿入シュート内に洗浄タブレットを入れます。

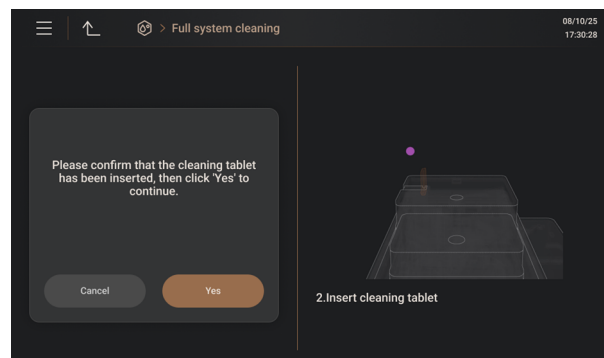


図 156: システムの完全洗浄 - 洗浄タブレットを入れる

- ☞ 蓋を閉めます。
- ☞ はいをタップします。

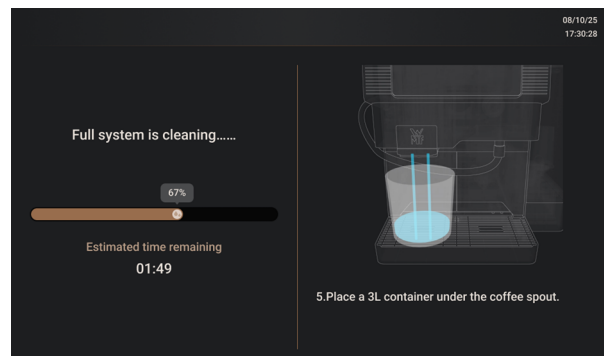


図 157: システムの完全洗浄 - 洗浄タブレットを入れる

- ☞ 容量3ℓ以上の受け容器を抽出口の下に置きます。
- ☞ はいで確認します。
- ✓ コーヒーマシンのクリーニング・プログラムが開始されます。

洗浄中、少量のすすぎ水がカス受けに入ることがあります。これはエラーではありません。

10.4.5 抽出システムのクリーニング

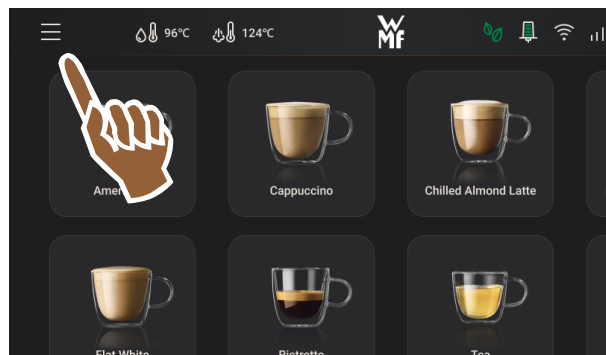


図 158: ハンバーガーメニューをタップします

☞ ハンバーガーメニューをタップします。

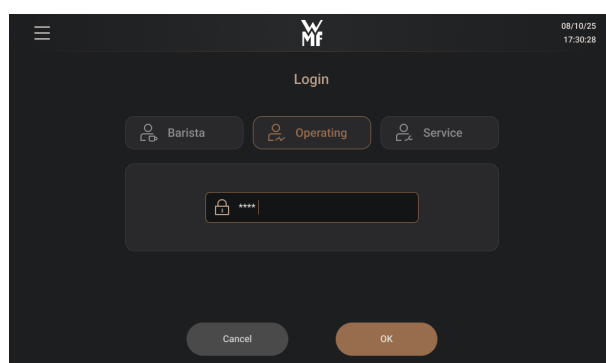


図 159: 操作用パスワードを入力してください

☞ 操作用パスワードを入力してください(デフォルトパスワードは2026)。

☞ OKをタップします。

☞ クリーニングをタップします。

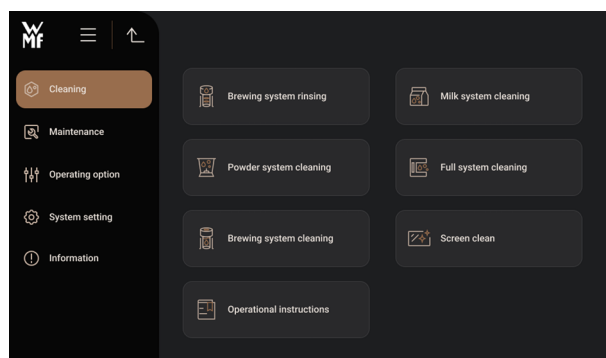


図 160: クリーニングメニュー

☞ 抽出システムのクリーニングをタップします。

☞ はいをタップします。

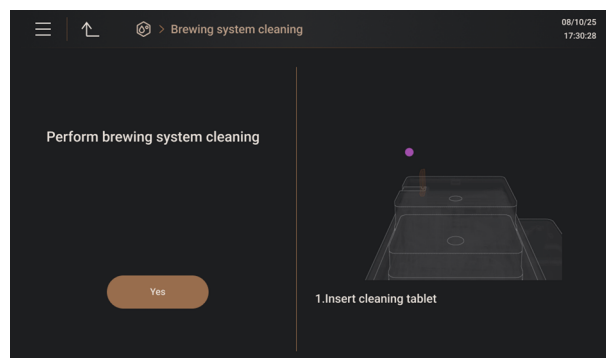


図 161: 抽出システムのクリーニング

☞ 手動投入口の蓋を開けます。



図 162: 抽出システムのクリーニング

☞ 手動挿入シュート内に洗浄タブレットを入れます。

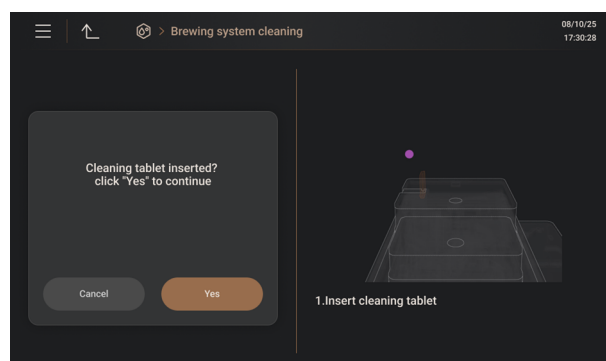


図 163: 抽出システムのクリーニング

☞ はいをタップします。

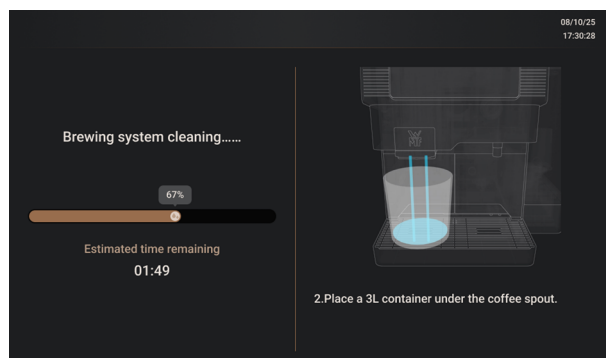


図 164: 抽出システムのクリーニング

- ☞ コーヒー出口の下に3ℓの容器を置きます。
- ✓ 抽出システムのクリーニングが開始されます。

10.4.6 画面のクリーニング

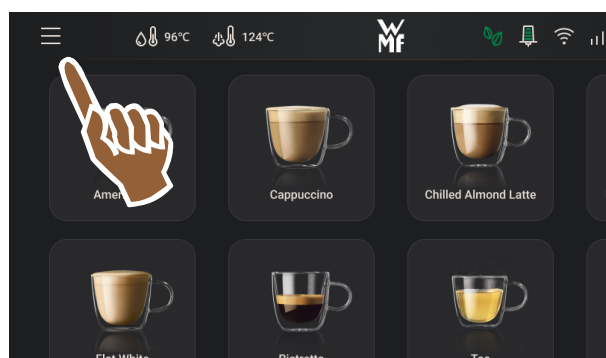


図 165: ハンバーガーメニューをタップします

- ☞ ハンバーガーメニューをタップします。

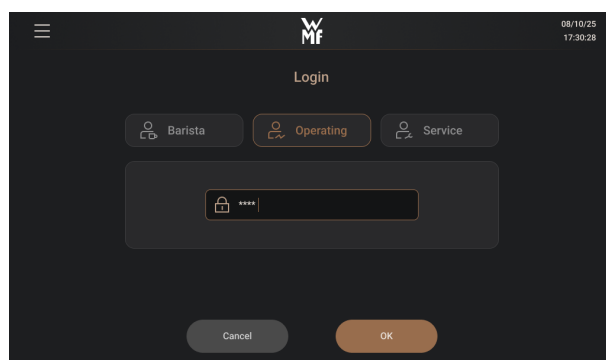


図 166: 操作用パスワードを入力してください

- ☞ 操作用パスワードを入力してください(デフォルトパスワードは2026)。
- ☞ OKをタップします。
- ☞ クリーニングをタップします。

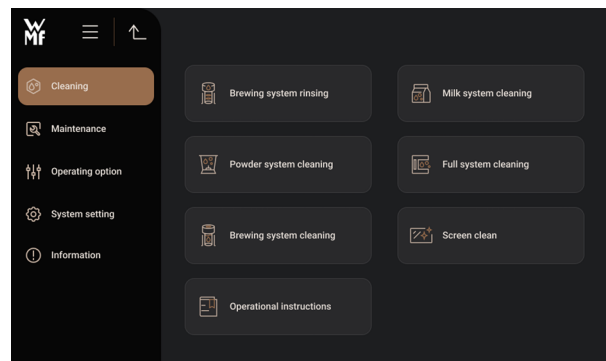


図 167: クリーニングメニュー

☞ 画面のクリーニングをタップします。

☞ はいをタップします。

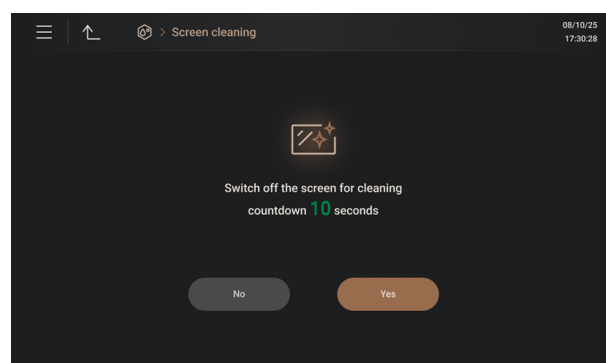


図 168: 画面のクリーニング

- ✓ 10秒の秒読みが開始されます。
- ☞ タッチスクリーンをきれいにします。
- ✓ 前回タッチしてから10秒後、タッチスクリーンが再度オンになります。
- ✓ これでタッチスクリーンは洗浄されました。

11 メンテナンス



警告

資格不足による怪我の危険！

専門的に正しく取り扱わないと重大な負傷や物損につながるおそれがあります。

メンテナンスおよび安全関連作業は、サービス担当者のみが実施できます。



警告

重機によって引き起こされる健康上の問題！

マシンの重量は、1人で持ち上げたり運んだりできる許容荷重を超えています。1人で機械を持ち上げたり運んだりすると、健康上の問題を引き起こす可能性があります。

☞ マシンを1人で持ち上げたり運んだりしないでください。

☞ マシンは、必ず2人で持ち上げたり運んだりしてください。



注意

転倒したマシンによって引き起こされる健康上の問題！

マシンを不適切に持ち上げると、転倒するおそれがあります。転倒または落下したマシンは、怪我の原因となる可能性があります。

☞ マシンを1人で持ち上げないでください。

☞ マシンは、必ず2人で持ち上げてください。



注意

滑る危険による怪我！

液体がこぼれると、マシン周囲の床が濡れた状態になることがあります。これにより、滑って転倒し、怪我をする危険があります。

☞ 床に液体がこぼれた場合は、すぐに拭き取ってください。

☞ 床に大量の液体がこぼれた場合は、移動式の警告標識で注意喚起してください。

マシンは定期的にメンテナンスを行ってください。これには、安全関連作業も含まれます。

メンテナンスおよび安全関連作業は、ごく一部の例外を除き、オペレーターが独自に行うことはできません。このような保留中のメンテナンスおよび安全関連作業を行う場合は、メーカー認定のサービスパートナーに直ちに依頼してください。サービスパートナーは、マシンに必要なすべての作業を行います。

メンテナンスまたは安全関連作業の実施時期になると、マシンはディスプレイにそれを通知します。ただし、マシンは引き続き通常通りに使用できます。

メンテナンスを行う日時は様々な要因によって決まりますが、特にマシンがどれだけ利用されているか、そして安全バルブ（装備されている場合）の寿命に大きく影響されます。

安全バルブは2年ごとに交換する必要があります(装備されている場合)。

11.1 カルキ抜き

このカルキ抜きは、使用会社が独自に行うことができます。



警告

酸によるやけどの危険！



カルキ抜きプロセス中に酸が発生します。皮膚の炎症と重度の目の炎症のリスク。



- ☞ カルキ除去剤には素手で触れないでください。また、付属の安全データシートをお読みください。
- ☞ カルキ抜き中は、保護手袋と保護メガネを着用してください。
- ☞ ProCareとミルクシステムによるカルキ除去の場合：カルキ除去中は、ミルクホースをPlug&Clean接続部から取り外さないでください。ディスプレイにプロンプトが表示されるまでお待ちください。
- ☞ カルキ除去カートリッジを使用してカルキ除去を行う場合：カルキ除去処理中は、カルキ除去カートリッジを取り外さないでください。ディスプレイにプロンプトが表示されるまでお待ちください。
- ☞ 内部水タンクとカルキ除去剤を使用してカルキ除去を行う場合：カルキ除去作業中は、洗浄剤の入った水タンクと洗浄液を回収する容器を取り外さないでください。ディスプレイにプロンプトが表示されるまでお待ちください。



注意

熱湯によるやけどの危険！

熱湯注出口と飲料注出口からは、カルキ抜き中、熱湯が排出されます。これにより、やけどの危険があります。

- ☞ 可動式飲み物注出口を最下部までスライドさせます。
- ☞ カルキ抜きプロセス中は、熱湯注出口の下に手を伸ばさないでください。



注意

高温のスチームによる火傷の危険！

クリーニングおよびカルキ抜き中は、スチームワンドから高温のスチームが出ます。火傷の危険があります。

- ☞ スチームワンドの注出口を雫受けに向けます。
- ☞ クリーニングおよびカルキ抜き中は、スチームワンドの下に手を伸ばさないでください。

カルキ抜き時間

カルキ抜きプロセスには、少なくとも**85分**がかかります。この間、マシンは使用できません。

- ☞ マシンが使用できない状態になる場合は、事前にその旨を通知してください。

キャンセルしたカルキ抜き

カルキ抜きプロセスが正しく完了した場合にのみ、マシンは操作可能な状態になります。

そのため、完全かつ正しく完了していないカルキ抜きプロセスは、必ず繰り返す必要があります。

11.1.1 必要となるカルキ抜き資材

上水道接続でカルキ抜きするには、以下の材料が必要です：

- 水0.75 ℓ
- 秒表示付き時計
- WMF Uptime!カルキ除去カートリッジ1個
- 手袋
- 安全ゴーグル

内部水タンクでカルキ抜きするには、以下の材料が必要です：

- 水0.75 ℓ
- 秒表示付き時計
- WMF液体カルキ抜き2口
- 手袋
- 安全ゴーグル

11.1.2 「カルキ抜き」画面

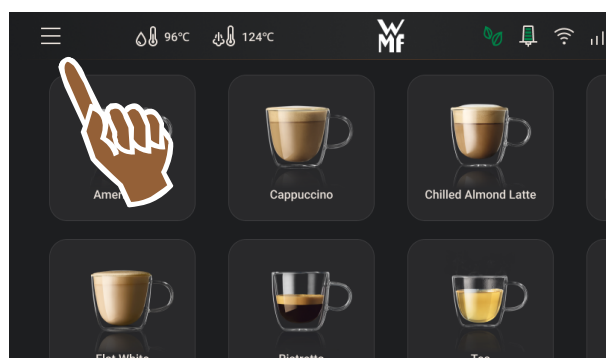


図 169: ハンバーガーメニューをタップします

☞ ハンバーガーメニューをタップします。

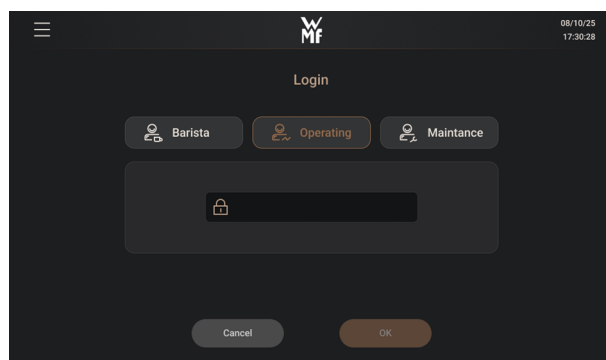


図 170: 操作パスワードを入力してください

☞ 操作パスワードを入力してください。

☞ OKをタップします。

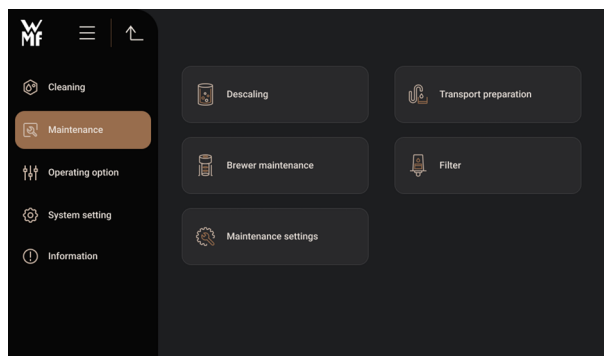


図 171: メンテナンスメニュー

☞ カルキ抜きをタップします。

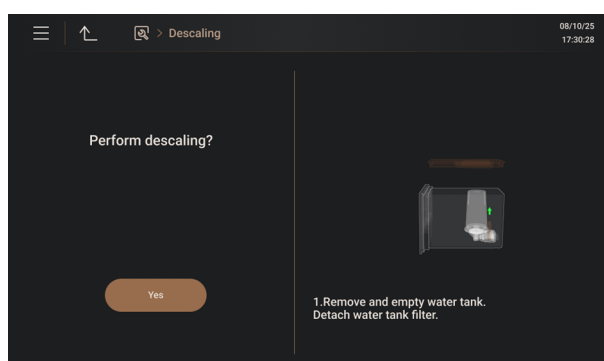


図 172: メンテナンスメニュー - カルキ抜き

☞ 水タンクを取り外して空にします。

☞ 水タンクのフィルターを取り外します。

☞ はいをタップします。

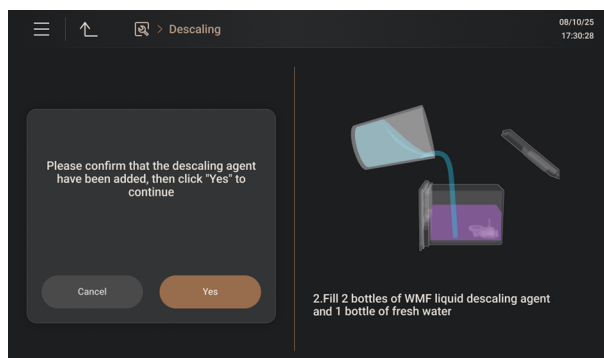


図 173: メンテナンスメニュー - カルキ抜き



注記

2ℓ タンク仕様のコーヒーマシン:

☞ 水タンクに清水を一杯満たします。

☞ 液体カルキ抜きボトル2本を水タンクに入れます。

☞ ボトル1本清水を水タンクに入れます。

☞ **確定**をタップします。

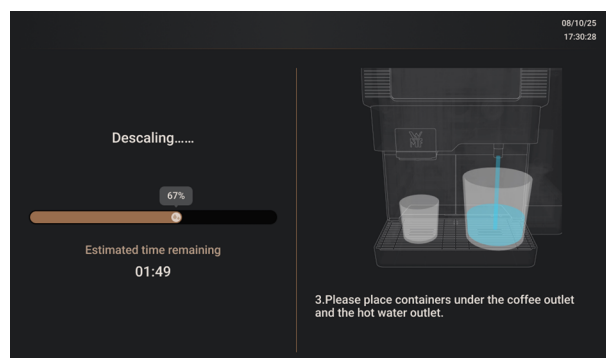


図 174: メンテナンス - カルキ抜き

☞ 2つの容器をコーヒー抽出口と熱湯口の下に置きます。

✓ コーヒーマシンのカルキ抜きが開始されます。

進捗状況の表示には、カルキ抜きプログラムの進捗状況が表示されます。

各カルキ抜きステップについて、情報や対処がテキスト形式で表示されます。

はいボタンで、指示が確認され、次のステップに進みます。

11.2 輸送の準備

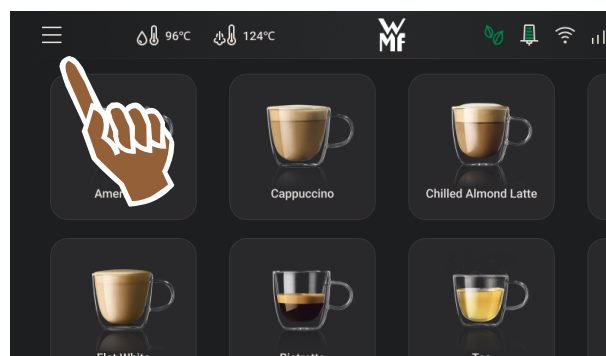


図 175: ハンバーガーメニューをタップします

☞ ハンバーガーメニューをタップします。

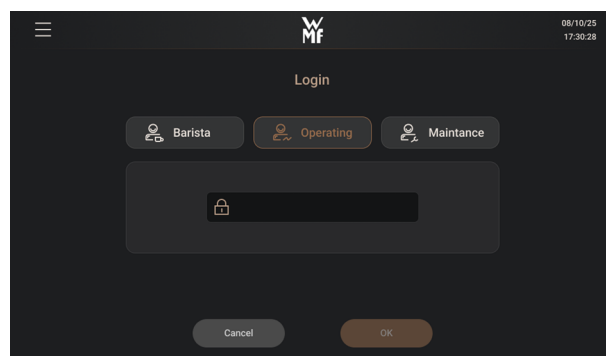


図 176: 操作用パスワードを入力してください

☞ **操作用パスワード**を入力してください。

☞ **OK**をタップします。

☞ **メンテナンス**をタップします。

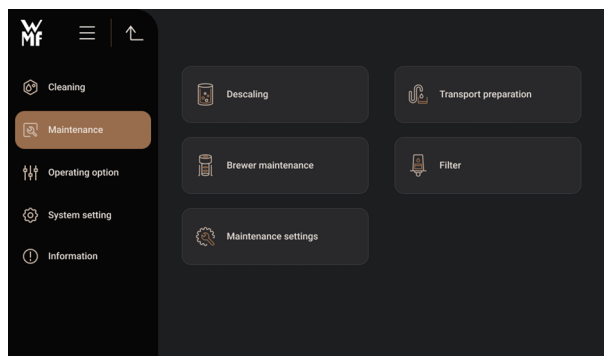


図 177: メンテナンスメニュー

☞ **輸送の準備**をタップします。

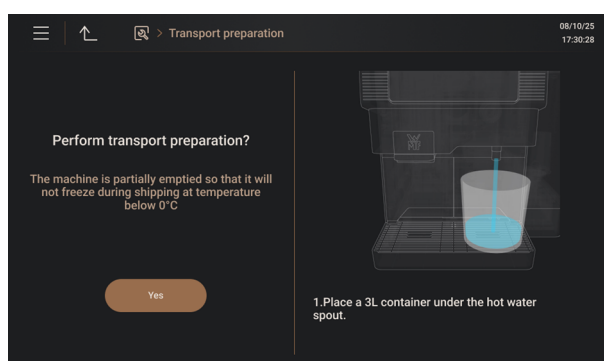


図 178: 輸送の準備 – 熱湯口の下に容器を置きます

☞ 3ℓ 容器を熱湯口の下に置きます。

☞ **はい**をタップします。

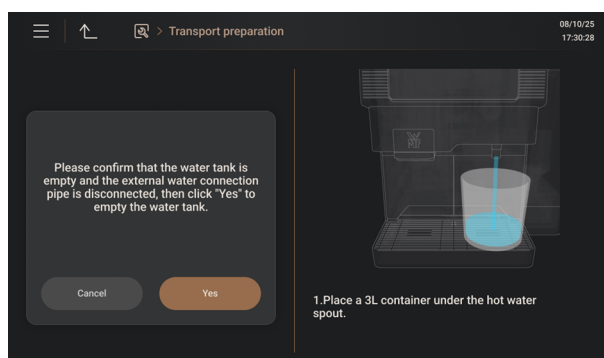


図 179: 輸送の準備 - 確認

☞ 水タンクが空で、外付け水接続管が取り外されていることを確認してください。

☞ **はい**で、水タンクが空になります。

✓ コーヒーマシンは空にされました。

✓ 以上でコーヒーマシンの輸送準備はできています。

11.3 抽出器ガasketの交換

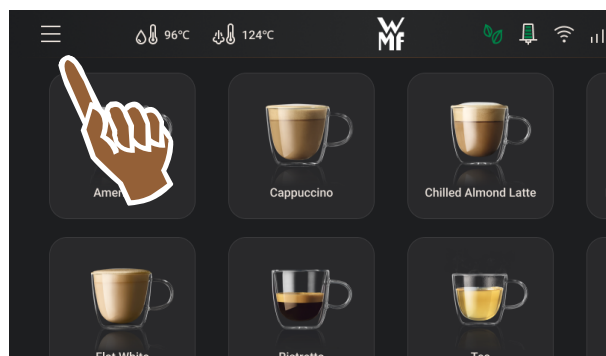


図 180: ハンバーガーメニューをタップします

☞ ハンバーガーメニューをタップします。

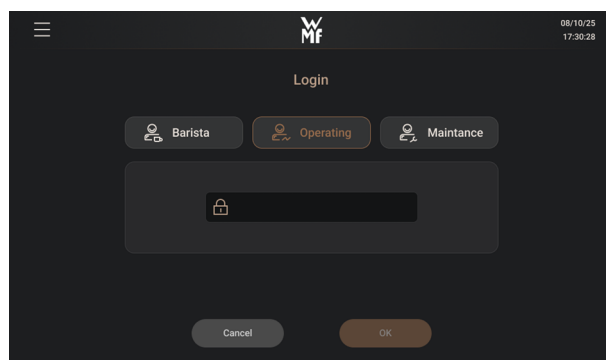


図 181: 操作用パスワードを入力してください

☞ 操作用パスワードを入力してください。

☞ OKをタップします。

☞ メンテナンスをタップします。

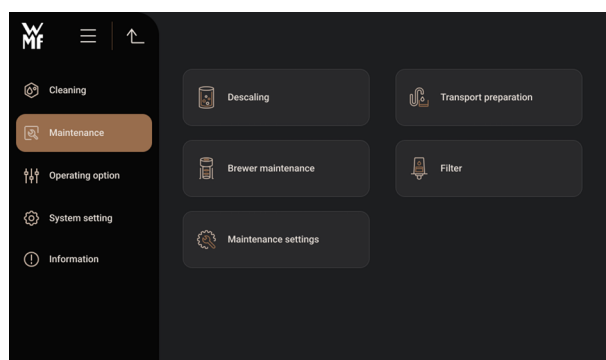


図 182: メンテナンスメニュー

☞ 抽出器メンテナンスをタップします。

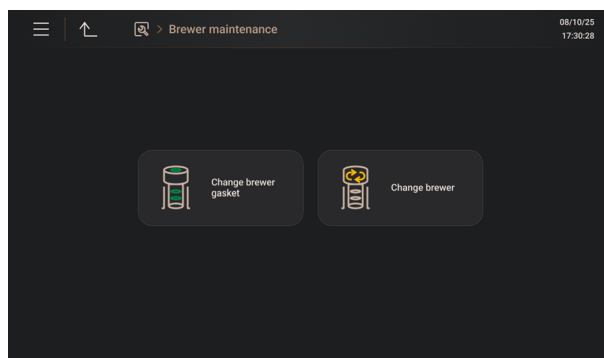


図 183: 抽出器メンテナンス

☞ 抽出器ガスケットの交換をタップします。

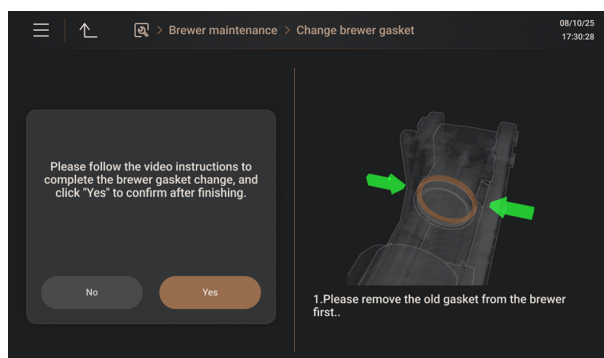


図 184: 抽出器メンテナンス – 抽出器ガスケットの交換

☞ 抽出ユニットを取り出す（抽出ユニットを洗浄してください参照）。



図 185: 抽出器ガスケットの交換

- ☞ 工具（マイナスドライバーなど）で抽出器からガスケットを取り外してください。
- ☞ 新品の抽出器ガスケットを指定箇所に装着します。
- ☞ 抽出ユニットを取り付けます（抽出ユニットを洗浄してください参照）。
- ☞ 画面で**はい**をタップして確定して完了します。

11.4 外部浄水器の交換

外部浄水器は装備バリエーションの1つです。



水質の補足説明書には、水値の捕捉説明並びにフィルター技術の使用に関する情報が記載されています。補足説明書は、メーカーに請求するか、ダウンロードポータルから直接ダウンロードすることができます。

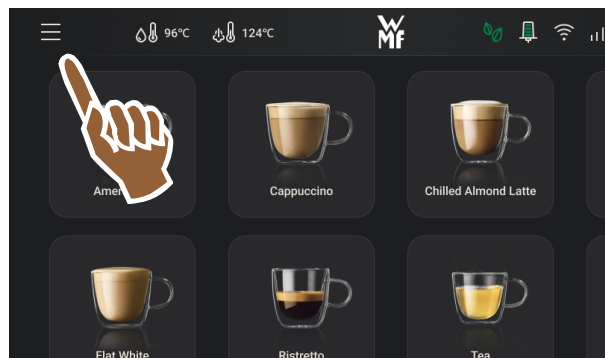


図 186: ハンバーガーメニューをタップします

☞ ハンバーガーメニューをタップします。

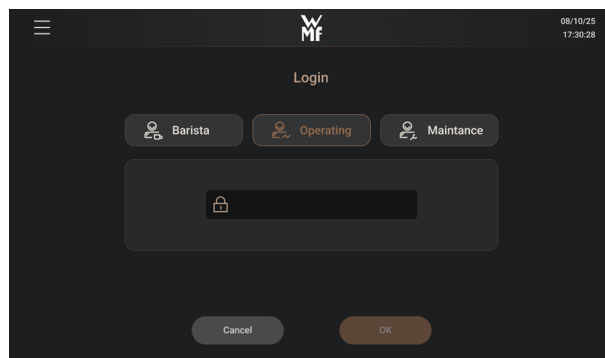


図 187: 操作用パスワードを入力してください

☞ 操作用パスワードを入力してください。

☞ OKをタップします。

☞ メンテナンスをタップします。

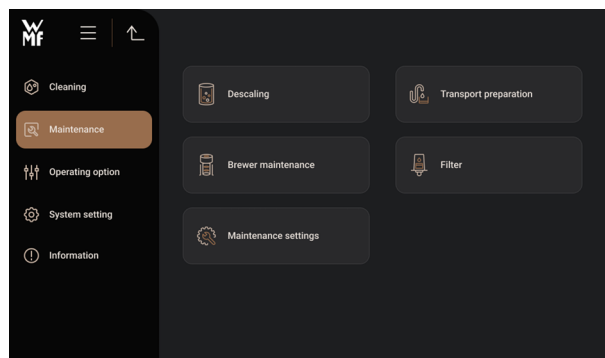


図 188: メンテナンスメニュー

☞ フィルターをタップします。

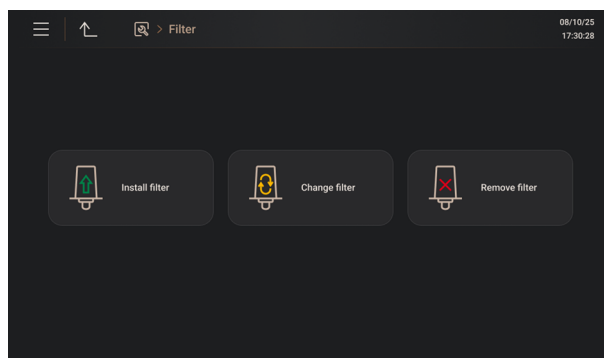


図 189: フィルターメニュー

- ☞ **フィルター交換**をタップします。

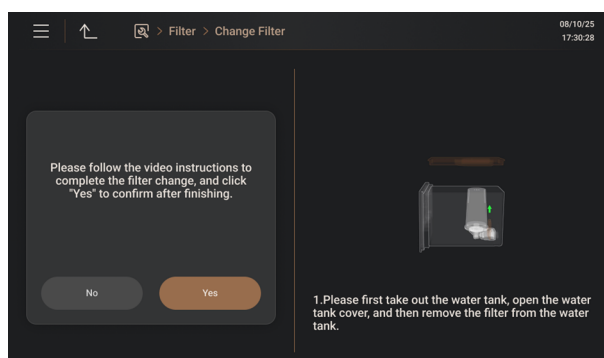


図 190: メンテナンスメニュー - フィルター交換

- ☞ 水フィルターを交換します。
- ☞ **はい**をタップします。
- ☞ 画面に出る指示に従います。

11.5 ソフトウェア更新

- ☞ 最新バージョンをダウンロードしてください。
- 7 インチディスプレイが装備されているコーヒーマシン：
- ☞ タッチディスプレイの左にあるUSB保護キャップを取り外します。
 - ☞ USBスティックをいずれかのポートに差し込みます。
- 10 インチディスプレイが装備されているコーヒーマシン：
- ☞ 前面パネルを開きます。
 - ☞ USBスティックを前面扉の裏にあるUSBポートに差し込みます。

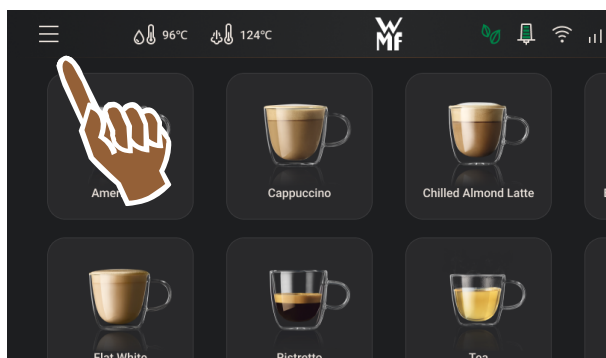


図 191: ハンバーガーメニューをタップします

☞ ハンバーガーメニューをタップします。

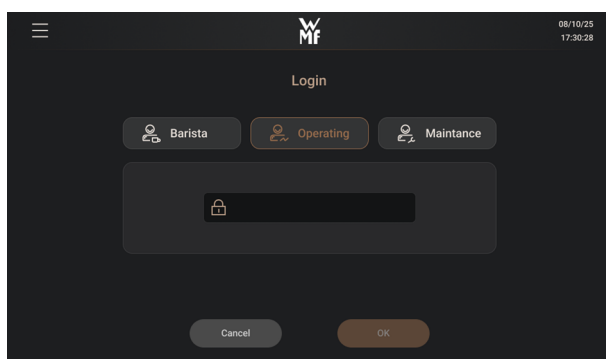


図 192: 操作用パスワードを入力してください

☞ 操作用パスワードを入力してください。

☞ OKをタップします。

☞ 情報を選択します。

☞ 更新を選択します。

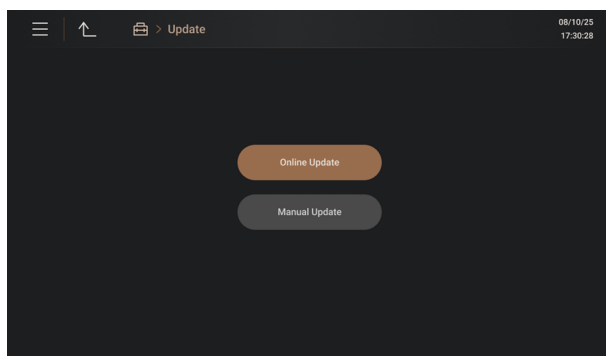


図 193: サービスの更新

☞ オンライン更新または手動更新を選択します。

☞ ディスプレイに表示されているHMIファイルを選択します。

✓ インストールが始まります。



注記

更新プロセスの不具合

コーヒーマシンの破損につながります。

- ☞ コーヒーマシンをオフにしないでください
- ☞ コーヒーマシンを電源から切り離さないでください。
- ☞ プロセスの完了までUSBスティックを取り外さないでください。

☞ 更新の完了をお待ちください。

- ✓ 更新が正常に完了すると、コーヒーマシンは自動再起動します。
- ✓ コーヒーマシンは使用準備ができました。

12 詳細設定

本章では、マシンの設定に関する情報を説明します。



警告

資格不足による怪我の危険！

専門的に正しく取り扱わないと重大な負傷や物損につながるおそれがあります。

以下の作業は、サービス担当者のみが行ってください。

12.1 7 インチディスプレイのUSBポート

マシンでは、ソフトウェアの更新、データの保存、またはデータ交換は、USBスティックを用いて行われます。USBポートは操作ユニット背面左側にあります。

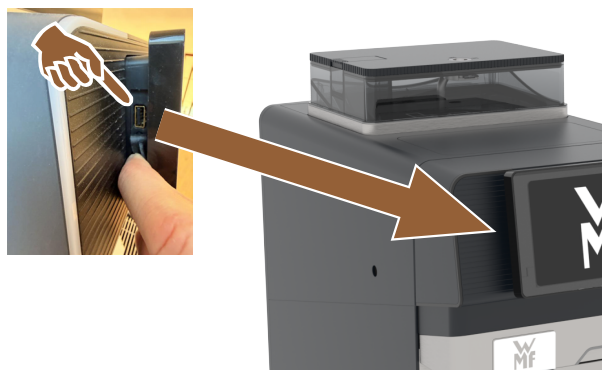


図 194: 7 インチディスプレイのUSBポートの位置

12.2 10 インチディスプレイのUSBポート

ソフトウェアの更新やデータの保存およびデータ交換はUSBフラッシュドライブを用いて行われます。USBポートは、前面パネルの裏側にあります。前面パネルにアクセスするにはキーで開いてください。



図 195: 10 インチディスプレイのUSBポートの位置

12.3 プロフィールと承認

コーヒーマシンには以下のプロファイルが搭載されています：

- バリスタ
- 操作

バリスタプロファイルでは基本的に飲み物関連の設定にアクセスでき、メンテナンス・メニューが無く、操作オプションとシステム設定で設定可能なオプションは制限されており、この点がフルアクセスの操作プロファイルとは異なります。

操作プロファイルにはシステム設定と操作オプションの部分に追加機能が備わっています。

13 メッセージおよび注意事項

本章ではメッセージおよびトラブルシューティング及びマシンの障害についての情報をご説明します。

13.1 故障表示の種類

以下のエラー表示を区別できます。

- 機能照明による表示
- ディスプレイ上のメッセージ

13.2 機能照明の意味

マシンには機能表示灯が標準装備されています。ディスプレイのメッセージに加えて、エラーメッセージはマシンのLEDカラーバーの点灯によって示されます。

各カラーの意味は以下の通りです：

- **個別**：マシンの使用準備ができています。
- **赤**：マシンエラー。

13.3 エラーメッセージおよび障害

エラーメッセージまたは不具合が表示された場合の基本手順：

- ☞ コーヒーマシンの電源を切り、数秒後にオンにしてください。
- ☞ 不具合が生じたプロセスをもう一度行います。
 - ✓ 多くの場合、これにより障害が排除され、作業を続行できます。

これで上手くいかない場合：

- 以下にあるエラーリストでエラーメッセージまたはエラー番号を探し、指示に従ってください。
- セルフ・ヘルプ・ポータルをご使用ください（スペアパーツとカスタマーサービスを参照）。

ブロックされている機能

メッセージの中には個々の機能をブロックするものがあります。このことは該当する飲み物ボタンが消灯するのでわかります。点灯したままの飲み物ボタンの飲み物は引き続き抽出可能です。

マシンには診断プログラムが搭載されています。発生したエラーはディスプレイに表示されます。

記載されているエラーメッセージは、電源トラブルによって引き起こされることがあります。

実際にエラーが発生したり使用者のための注記があれば、 ボタンが表示されます。

- ☞  をタップします。

- ✓ エラーメッセージとエラー番号が表示されます。



注記

オン/オフスイッチ

オン/オフスイッチが約1秒後に反応し、マシンがオフになります。エラー回復のため、ソフトウェアがフリーズした場合など、オン/オフスイッチを長押しするとコントロールがオフになります。

エラー 番号	エラーパターン	指示
11001	抽出ユニットのエンコーダエラー	☞ マシンの電源を切る ☞ 抽出ユニットを取り外して洗浄し、乾燥
11002	抽出ユニットのタイムアウト	☞ 抽出ユニットを挿入します。 ☞ マシンを再起動する
11004	抽出ユニットがブロックされています	☞ マシンの電源を切る ☞ 抽出ユニットを取り外して洗浄し、乾燥 ☞ 簡単に動かすかマルチツールで点検してください
11005	抽出ユニットの過電流エラー	☞ マシンの電源を切る ☞ 抽出ユニットを取り外して洗浄し、乾燥 ☞ 簡単に動かすかマルチツールで点検してください
13006	ボイラー加熱タイムアウト	☞ ボイラーが規定温度に達しない場合一定時間の経過後にこのメッセージが出ます。 ☞ マシンを再起動する
13011	ボイラー充填タイムアウト	☞ 給水栓を開きます。 ☞ 給水状態を点検してください。
13012	給水圧力エラー	☞ 給水栓を開きます。 ☞ 給水状態を点検してください。 ☞ マシンを再起動する
13013	水圧検証警告	☞ 抽出ユニットのクリーニング、挽き具合調整をご覧ください
13025	抽出水フローメーターエラー	☞ 抽出ユニットを取り外して洗浄します
13029	熱湯ボイラー過熱	☞ マシンの電源を少なくとも10分間切断します。これで解決しなければ現地でのテクニカルサポートが必要です。
13038	スチームボイラー過熱	☞ マシンの電源を少なくとも10分間切断します。これで解決しなければ現地でのテクニカルサポートが必要です。
13041	スチームボイラー加熱タイムアウト	☞ ボイラーが規定温度に達しない場合一定時間の経過後にこのメッセージが出ます。 ☞ マシンを再起動する
14002	パウダー・ミキサーのモーター過負荷	☞ パウダー混合ボウルをクリーニング ☞ パウダーの経路/ホース、抽出口を点検/クリーニング
15013	ミル1がブロックされています	☞ マシンが5回試行しましたが動作しませんでした。 ☞ 掃除機でミルをクリーニング/空にします。

14 マシンの物損防止



注記

指示に従わなかった場合、保証は適用されません！

安全に関する指示および対処に関する指示に従わなかった場合、物的損傷が発生しても保証は適用されません。

☞ マシンの物的損傷を防ぐため、取扱説明書の安全に関する指示および対処に関する指示に従ってください。

関連項目

[保証請求 \[\] 9\]](#)

マシンの問題や損傷を防ぐために、以下の注意事項に従ってください。

保険上の理由により、営業終了後は必ず以下の点を確認してください。給水元栓が閉まっていること、および電源メインスイッチがオフになっていること、そして電源プラグが抜かれていることを確認してください。

以下のような損傷防止対策を推奨します。

- 給水ラインに適切な水モニターを設置する
- 煙探知器を設置する

設置場所

関連項目

[設置要件](#)

[設置 \[\] 34\]](#)

コーヒーマグライナーの損傷



注記

コーヒーマグホッパーへの異物混入による物的損傷！

異物が入り込むことで、グラインダーの目詰まりやブロックが生じ、グラインダーの破損につながるおそれがあります。この損傷は保証の対象外です。

☞ コーヒーマグホッパーには、コーヒーマグ以外のものを絶対に投入しないでください。

運転一時停止後の清掃

運転を休止した後は、再び始動する前に洗浄プログラムを少なくとも二回実行することをお勧めします。

関連項目

[給水部への接続](#)

[システム清掃洗浄プログラム](#)

15 アンインストール



警告

資格不足による怪我の危険！

専門的に正しく取り扱わないと重大な負傷や物損につながるおそれがあります。

以下の作業は、有資格の専門スタッフのみが行ってください。



警告

重機によって引き起こされる健康上の問題！

マシンの重量は、1人で持ち上げたり運んだりできる許容荷重を超えています。1人で機械を持ち上げたり運んだりすると、健康上の問題を引き起こす可能性があります。

☞ マシンを1人で持ち上げたり運んだりしないでください。

☞ マシンは、必ず2人で持ち上げたり運んだりしてください。



注意

転倒したマシンによって引き起こされる健康上の問題！

マシンを不適切に持ち上げると、転倒するおそれがあります。転倒または落下したマシンは、怪我の原因となる可能性があります。

☞ マシンを1人で持ち上げないでください。

☞ マシンは、必ず2人で持ち上げてください。

使用終了後

マシンの耐用年数が終了したら、以下の手順に従ってください。

☞ マシンの中身を空にしてください。

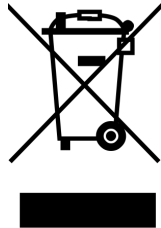
☞ マシンを分解してください。

☞ マシンは、環境に配慮した方法で廃棄してください。

16 廃棄

本機器は電気・電子機器廃棄物リサイクル指令WEEE 2012/19/EU の対象であり、家庭ごみとして処分してはなりません。

EC指令1935/2004とEC指令2023/2006に関する適正製造基準による製造に準拠して、当社はトレーサビリティを確保しそして保証します。



マシンは必ず現地の法規制に従い、適切に廃棄してください。

☞ 廃棄については、サービスパートナーまで問い合わせください。

引き取りまたは廃棄に関する合意がない場合は、分解された部品は再利用(リサイクル)してください。

☞ 金属はスクラップとして廃棄してください。

☞ プラスチック製エレメントはリサイクルしてください。

☞ 残りの構成要素は素材別に分類して廃棄してください。

☞ 使用機材および洗浄剤は、メーカーの指示に従って、地域の規定に従って廃棄してください。

図表一覧

図 1	セルフヘルプポータル	10
図 2	外付け/組込みタンク機種のマシン概要	22
図 3	ディスプレイ概要	23
図 4	機能ランプ	23
図 5	コーヒー豆ホッパー	24
図 6	熱湯注出口	24
図 7	内部水タンク	25
図 8	雫受け	25
図 9	カス受けが開いている	26
図 10	マシンの接続	26
図 11	パウダーシステム	27
図 12	外付け水タンク	28
図 13	スチームワンド（外付けタンク付きのみ）	28
図 14	給水管の接続	39
図 15	排水ホースの接続	39
図 16	シリコンプラグを取り外します	40
図 17	チェックバルブに付け替えます	40
図 18	ハンバーガーメニューをタップします	40
図 19	操作パスワードを入力してください	41
図 20	給水システムメニュー	41
図 21	複合抽出口を取り外す	42
図 22	ミルクノズルを取り外します	42
図 23	クリーニングにはブラシをご使用ください	42
図 24	ミルクノズルの調整とクリーニング	43
図 25	マシンの電源を入れる	44
図 26	言語選択	45
図 27	時間帯を設定します	46
図 28	日付の設定	46
図 29	時刻の設定	46
図 30	水の硬度設定	47
図 31	水フィルターの設定	47
図 32	水フィルターの仕様設定	47
図 33	ハンバーガーメニューをタップします	48
図 34	操作パスワードを入力してください	48
図 35	設定メニュー	48

図 36	日付・時刻	49
図 37	ハンバーガーメニューをタップします	49
図 38	操作パスワードを入力してください	49
図 39	設定メニュー	50
図 40	7.3 設定メニュー - 言語	50
図 41	ハンバーガーメニューをタップします	50
図 42	操作パスワードを入力してください	51
図 43	設定メニュー	51
図 44	タイマーメニュー	51
図 45	タイマーメニュー	52
図 46	ハンバーガーメニューをタップします	52
図 47	操作パスワードを入力してください	52
図 48	設定メニュー	53
図 49	エコ設定	53
図 50	ハンバーガーメニューをタップします	54
図 51	操作パスワードを入力してください	54
図 52	設定メニュー	54
図 53	PINメニュー	55
図 54	ハンバーガーメニューをタップします	55
図 55	操作パスワードを入力してください	55
図 56	設定メニュー	56
図 57	ディスプレイと照明メニュー	56
図 58	ハンバーガーメニューをタップします	57
図 59	操作パスワードを入力してください	57
図 60	システム設定メニュー	57
図 61	音量設定メニュー	58
図 62	ハンバーガーメニューをタップします	58
図 63	操作パスワードを入力してください	58
図 64	システム設定メニュー	59
図 65	ネットワークメニュー	59
図 66	ネットワーク設定	59
図 67	ネットワーク設定	60
図 68	WiFi設定	60
図 69	WiFiパスワード	61
図 70	ハンバーガーメニューをタップします	61
図 71	操作パスワードを入力してください	61
図 72	システム設定メニュー	62
図 73	出荷時状態にリセット	62

図 74	コーヒー豆ホッパー/パウダーホッパーの充填	64
図 75	雫受けの取り外し	65
図 76	マシンの電源を入れる	66
図 77	飲み物の抽出	67
図 78	飲み物の取消	67
図 79	例：追加のバリスタボタン	67
図 80	例：S-M-Lボタン	68
図 81	熱湯注出口	68
図 82	熱湯ボタンをタップします	69
図 83	ハンバーガーメニューをタップします	69
図 84	操作パスワードを入力してください	69
図 85	操作オプション	70
図 86	パウダーの校正	70
図 87	コーヒーマシンを開く	70
図 88	ミキサーを引き出す	71
図 89	小型コンテナを元の位置にします	71
図 90	パウダーの校正	71
図 91	測定の開始中です	72
図 92	パウダーの入ったコンテナを取り出します	72
図 93	決定された値（グラム単位）を入力します	72
図 94	パウダーの校正は完了しました	73
図 95	ハンバーガーメニューをタップします	73
図 96	操作パスワードを入力してください	73
図 97	操作オプション	74
図 98	分配器の校正	74
図 99	分配器の校正	74
図 100	分配器の校正	75
図 101	分配器の校正	75
図 102	測定された重さを入力します	76
図 103	校正完了	76
図 104	マシンの電源をオフにする	77
図 105	カス受けを引き抜きます	80
図 106	コーヒー豆ホッパーを開けます	81
図 107	コーヒー豆ホッパーをロック解除	82
図 108	背面パネルを取り外します	82
図 109	白の抽出器ロック	83
図 110	水タンクの洗浄	83
図 111	雫受けの取り外し	84

図 112	ハンバーガーメニューをタップします	86
図 113	バリスタパスワードを入力します	86
図 114	複合抽出口を取り外す	87
図 115	複合抽出口の分解	87
図 116	すべての部品を洗浄します	87
図 117	コーヒーマシンを開く	88
図 118	上カバーを取り外す	88
図 119	ホルダーからミルクホースを引き出します	88
図 120	クリーニングにはブラシをご使用ください	89
図 121	クリーニング液の調製	89
図 122	すべてのミルクが通る部品を洗浄液に漬けます	89
図 123	コーヒーマシンを開く	90
図 124	ミキサーを引き出す	90
図 125	ミキサーを組み立てる	91
図 126	コーヒー豆ホッパーを開けます	91
図 127	コーヒー豆ホッパーをロック解除	92
図 128	コーヒーマシンを開く	92
図 129	回転ノブを回してロック解除します	93
図 130	ハンバーガーメニューをタップします	94
図 131	操作パスワードを入力してください	95
図 132	クリーニングメニュー	95
図 133	抽出システムのすすぎ	95
図 134	抽出システムのすすぎ	96
図 135	ハンバーガーメニューをタップします	96
図 136	操作パスワードを入力してください	96
図 137	クリーニングメニュー	97
図 138	ミルクシステムのクリーニング	97
図 139	クリーニングメニュー - ミルクシステムのクリーニング	97
図 140	クリーニングメニュー - ミルクシステムのクリーニング	98
図 141	クリーニングメニュー - ミルクシステムのクリーニング	98
図 142	ハンバーガーメニューをタップします	98
図 143	操作パスワードを入力してください	99
図 144	クリーニングメニュー	99
図 145	パウダー・システムのクリーニング	99
図 146	ハンバーガーメニューをタップします	100
図 147	操作パスワードを入力してください	100
図 148	クリーニングメニュー	100
図 149	システムの完全洗浄	101

図 150	クリーニングメニュー - システムの完全洗浄	101
図 151	クリーニングメニュー - システムの完全洗浄	101
図 152	クリーニングメニュー - システムの完全洗浄	102
図 153	クリーニングメニュー - システムの完全洗浄	102
図 154	クリーニングメニュー - システムの完全洗浄	102
図 155	洗浄タブレットを入れます	103
図 156	システムの完全洗浄 - 洗浄タブレットを入れる	103
図 157	システムの完全洗浄 - 洗浄タブレットを入れる	103
図 158	ハンバーガーメニューをタップします	104
図 159	操作パスワードを入力してください	104
図 160	クリーニングメニュー	104
図 161	抽出システムのクリーニング	105
図 162	抽出システムのクリーニング	105
図 163	抽出システムのクリーニング	105
図 164	抽出システムのクリーニング	106
図 165	ハンバーガーメニューをタップします	106
図 166	操作パスワードを入力してください	106
図 167	クリーニングメニュー	107
図 168	画面のクリーニング	107
図 169	ハンバーガーメニューをタップします	110
図 170	操作パスワードを入力してください	110
図 171	メンテナンスメニュー	111
図 172	メンテナンスメニュー - カルキ抜き	111
図 173	メンテナンスメニュー - カルキ抜き	111
図 174	メンテナンス - カルキ抜き	112
図 175	ハンバーガーメニューをタップします	112
図 176	操作パスワードを入力してください	112
図 177	メンテナンスメニュー	113
図 178	輸送の準備 - 熱湯口の下に容器を置きます	113
図 179	輸送の準備 - 確認	113
図 180	ハンバーガーメニューをタップします	114
図 181	操作パスワードを入力してください	114
図 182	メンテナンスメニュー	114
図 183	抽出器メンテナンス	115
図 184	抽出器メンテナンス - 抽出器ガasketの交換	115
図 185	抽出器ガasketの交換	115
図 186	ハンバーガーメニューをタップします	116
図 187	操作パスワードを入力してください	116

図 188	メンテナンスメニュー	116
図 189	フィルターメニュー	117
図 190	メンテナンスメニュー - フィルター交換	117
図 191	ハンバーガーメニューをタップします	118
図 192	操作パスワードを入力してください	118
図 193	サービスの更新	118
図 194	7 インチディスプレイのUSBポートの位置	120
図 195	10 インチディスプレイのUSBポートの位置	120

